第五號樣式ノ甲

補助金請求書

一金　　但シ昭和　年　月　日第　號補助金交付通知分

右請求候也

昭和　年　月　日

住所

氏

名古屋市長　殿

名印

前書ノ金額正ニ受領候也

昭和　年　月　日

右

名古屋市收入役　殿

氏

名印

第五號樣式ノ乙

工事材料請求書

一　　但シ換算金額

昭和　年　月　日第　號工事材料交付通知分

右請求候也

追而右受領ノ上ハ之ヲ他ニ讓渡シ又ハ本工事以外ノ目的ニ使用致ス間敷候

昭和　年　月　日

住所

氏

名古屋市長　殿

名印

第六號樣式

木造建物防火改修組合設立届

組合名

區域

事務所所在地　　區　町　丁目　番地（電話　番）

組合員數　　名

組合長住所氏名

會計住所氏名

幹事住所氏名

組合設立年月日

右ノ通木造建物防火改修組合ヲ組織シ防火改修工事ヲ施行致度候間配置圖、組合員名簿並組合規約相添ヘ此段及御届候也

昭和　年　月　日

住所

氏

名古屋市長　殿

名印

（加除錄第二號三〇六）

●名古屋市都市疎開地方轉出移轉奬勵金交付規則

昭和十九年一月二十八日
規則第二號

第一條　本規則ニ於テ名古屋市都市疎開地方轉出移轉奬勵金（以下單ニ移轉奬勵金ト稱ス）ト稱スルハ人員疎開ノ勸奬ニ依リ市外ニ轉出スル者ニ對シ交付スル奬勵金ヲ謂フ

第二條　移轉奬勵金ハ世帶ヲ單位トシテ轉出スル者ニ對シ豫算ニ定ムル範圍內ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合其ノ世帶主ニ之ヲ交付ス

一　轉出者ガ市民稅二圓以下ノ納付者又ハ市民稅免除者タル場合

二　轉出者ガ入營、入團、應召軍人、軍屬並ニ應徵者ノ遺族タル場合

三　主タル生計維持者ガ入營、入團、應召軍人、軍屬並ニ應徵者タル場合ニ於テ其ノ者ノ家族ガ轉出スル場合

四　其ノ他市長ニ於テ轉出者ガ前各號ニ準ズベキモノト認ムル場合

第三條　移轉奬勵金ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ交付セズ

一　轉出先ガ別表ニ揭グル區域內ナルトキ

二　當該轉出ニ付別ニ移轉費旅費等ノ支給ヲ受クルトキ

三　其ノ他交付スル必要ナシト認ムルトキ

第四條　移轉奬勵金ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ交付ス

一　轉出世帶人員四人以下ノ場合　一世帶ニ付二百圓

二　轉出世帶人員五人以上ノ場合　一世帶ニ付三百圓

第五條　移轉奬勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ都市疎開地方轉出證明書ヲ提示シテ區長ニ申請書（第一號樣式）ヲ提出スベシ

第六條　移轉奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者轉出ヲ爲サザルニ至リタルトキ又ハ轉出員數ヲ變更シタルトキハ其ノ旨區長ニ屆ケ出ルト共ニ既ニ交付ヲ受ケタル移轉奬勵金ヲ返還シ若ハ過不足アルトキハ返還追給ノ申請ヲ爲スベシ

第七條　詐欺又ハ不正ノ手段ヲ以テ移轉奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ奬勵金ヲ返還セシム

第八條　移轉奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者地方轉出ヲ完了シタルトキハ其ノ地ノ市町村長ヲ經由シ原住地區長ニ都市疎開地方轉出完了報告書（第二號樣式）ヲ提出スベシ

附　則

本規則ハ昭和十九年一月一日ヨリ之ヲ適用ス

附　則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（加除錄第三號三一一）

別表

都市町名	所在都府縣名
東京都立川市	東京都
横須賀市	神奈川縣
横濱市	
川口市	埼玉縣
堺市	大阪府
大阪市	
布施市	
神戸市	兵庫縣
尼崎市	
西宮市	
御影町	
京都市	京都府
舞鶴市	
門司市	福岡縣
小倉市	
戸畑市	
若松市	
八幡市	
下關市	山口縣
呉市	廣島縣
佐世保市	長崎縣

第一號樣式

移轉奬勵金下付申請書

一金　圓也

但シ都市疎開ニ因ル地方轉出移轉奬勵金受給事實ノ明細

住所　名古屋市　區　町　番地

轉出先　縣區　町内會第　組

轉出豫定年月日　昭和　年　月　日

轉出世帯人員數　名

市民稅額　金　圓　錢

區分	該當者 氏名	請求者ト ノ續柄
入營		
應召		
應徵		
其ノ他		

右之通ニ付都市疎開ニ因ル地方轉出移轉奬勵金下付相成度此段及申請候也

昭和　年　月　日

名古屋市　區長殿

（氏名）　印

連絡先

町内會長印

組長印

申告書受付番號第　號

（加除錄第三號三一二）

第二號樣式　（本書ハ必ズ轉出先市町村長ヘ提出ノコト）

昭和　年　月　日

住所　名古屋市　區　町　番地

（氏名）　印

名古屋市　區長殿

前記之金額正ニ領收候也

昭和　年　月　日

（氏名）　印

名古屋市　區收入役殿

轉出先　市町村　受付印

市町村長殿

名古屋市長　名古屋市長印

誠ニ御手數乍ラ上欄ニ貴廳受付印押捺ノ上本市區長宛御送付相成度尚乍御迷惑此ノ報告書ノ證明料ハ無料ニテ御取扱相煩度候也

都市疎開地方轉出完了報告書

轉出先　縣　市　郡　町　村　番地

原住所　名古屋市　區　町　丁目　番地

轉出完了年月日　昭和　年　月　日

轉出者					
世帯主ト ノ續柄	氏名	年齢	世帯主ト ノ續柄	氏名	年齢

右之通リ地方轉出完了仕候條此段及御屆候也

昭和　年　月　日

名古屋市　區長殿

（氏名）　印

（加除錄第三號三一三）

第十二類　保健

第十二類　保　健

第一章　醫　療

●名古屋市立病院條例

昭和十八年九月六日
條例第十五號

第一條　名古屋市立病院ハ患者ノ診療ヲ行ヒ併セテ其ノ一部ヲ名古屋市立女子高等醫學專門學校ノ教育ニ充當ス

第二條　名古屋市立病院ハ左ノ如シ

一　名古屋市立市民病院（名古屋市立女子高等醫學專門學校附屬醫院）
二　名古屋市立城西病院
三　名古屋市立城北病院
四　名古屋市立城東病院

第三條　本院ハ往診ヲ行ハズ但シ市長特別ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ行フコトアルベシ

第四條　本院ニ設置スベキ診療科其ノ他ニ付テハ市長之ヲ定ム

第五條　診療ヲ受クル者ニ對スル使用料及手數料ノ額ハ健康保險法ノ定ムル所ニ依ル但シ軍事扶助法又ハ醫療保護法ニ依リ診療ヲ受クル者ニ對スル使用料及手數料ノ額ハ同法ノ定ムル所ニ依ル

特別室ノ使用料ハ普通室ニ付健康保險法ノ定ムル額ノ三倍ヲ超エザル範圍内ニ於テ市長之ヲ定ム

（加除條第三號二一五）

診療上特ニ設備、費用等ヲ要スルトキ、健康保險法ノ定ニ依リ難キトキ又ハ健康保險法ニ定ナキトキハ市長ノ定ムル使用料及手數料ヲ徵收ス

第六條　市長ハ特別ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ使用料及手數料ヲ減免スルコトヲ得

第七條　使用料及手數料ハ之ヲ前納セシム但シ市長特別ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ後納セシムルコトヲ得

第八條　本院ハ必要ニ應ジ疾病ノ豫防、醫學ノ研究竝ニ講習ヲ行ヒ又ハ保健婦、産婆及看護婦ノ養成ヲ行フコトヲ得

第九條　市長ハ本條例又ハ本條例ニ基ク規定ニ違反シタル者其ノ他必要アリト認ムル者ニ對シテハ診療ヲ拒否シ又ハ退院ヲ命ズルコトアルベシ

第十條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ健康保險法ニ依リ診療ヲ受クル者ニ對シテハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

左ノ條例及規則等ハ之ヲ廢止ス

名古屋市市民病院條例
名古屋市城北病院條例
城東病院使用料及手數料條例
城東病院規則
診療上ノ食費單價ニ關スル件

●名古屋市立市民病院（名古屋市立女子醫學專門學校附屬醫院）規則

昭和十八年九月六日規則第十二號

改正　昭和十九年五月二十八日規則第三十九號

第一條　診療ヲ受ケントスル者ハ院長ニ申出デ診療券ノ交付ヲ受クベシ

各種法令ノ規定ニ依リ診療ヲ受ケントスル者ハ夫々其ノ法令ノ定ムル所ニ依リ證票ヲ提出シ診療券ノ交付ヲ受クベシ

前二項ノ場合身元調査ヲ行フコトアルベシ

第二條　診療券ノ交付ヲ受ケタル者ハ名古屋市立病院條例（以下單ニ條例ト稱ス）及條例ニ基ク規定ノ定ムル所ニ從ヒ診療ヲ受クベシ

第三條　入院ヲ爲サントスル者ハ身元引受人ヲ立テ院長ニ願出デ其ノ承認ヲ受クベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ親族其ノ他關係者ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

第四條　本院ニ研究科竝ニ左ノ診療科ヲ置ク

一　内　科
二　外　科
三　小　兒　科
四　産婦人科
五　眼　科
六　耳鼻咽喉科
七　皮膚科泌尿器科
八　理學診療科
九　齒　科

第五條　條例第五條第二項第三項ノ規定ニ依リ健康保險若ハ國民健康保險ノ保險給付又ハ之ニ代ル可キ給付（以下單ニ保險給付ト稱ス）ヲ受ケザル場合ニ於ケル使用料及手數料左ノ如ク定ム

一　入院料（院長ノ定ムル食費及藥治料ヲ含ム）

特別室	特甲室	一日　三十五點
	甲室	一日　二十三點
	乙室	一日　十九點

二　治療材料　一種　一點以上四十點以下

三　齒科技工料　一種　十六點以上四百點以下

四　文書料　一通　二點以上四十點以下

保險給付ヲ受ケザル本市住民ニシテ普通室ニ入院スルコト二十日以上ニ及ビタル場合其ノ超ユル分ノ入院料ニ付テハ一日ニ付三點ヲ又地方稅法第六十六條第二項ニ定ムル額以下ノ市民稅納稅者及其ノ家族ニシテ手術料三百點ヲ超ユル場合其ノ超ユル分ニ付テハ半額迄ヲ減額スルコトアルベシ

第六條　條例第五條第二項第三項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル場合ニ於ケル特別室ノ使用ニ付本人ノ負擔スベキ額左ノ如ク定ム

特甲室	一日　二十點
甲室	一日　八點
乙室	一日　四點

第六條ノ二　第五條及第六條ニ定ムル使用料及手數料ノ額ノ算定ハ昭和十八年厚生省告示第六十六號健康保險ノ療養ニ要スル費用並ニ國民健康保險組合又ハ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人ニ請求スベキ費用ノ額ノ算定方法ニ依ル

第七條　入院料納付期日ハ入院當日、毎月十日、二十日及末日トシ次ノ納付期日迄ノ分ヲ前納セシム但シ納付期日休日ニ當ルトキハ之ヲ繰上グ

入院料納付後退院又ハ死亡シタルトキハ其ノ翌日以後ニ對スル既納ノ入院料ハ之ヲ還付ス

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ院長ハ使用料及手數料ヲ後納セシムルコトヲ得

一　診療ノ結果ニ非ザレバ料金ヲ算定シ難キトキ
二　應急ノ診療ヲ要シ料金ヲ前納シ難キトキ
三　其ノ他院長ニ於テ已ムヲ得ザル事由アリト認ムルトキ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ院長ハ診療若ハ入院ヲ拒否シ又ハ退院ヲ命ズルコトアルベシ

一　患者定數ニ滿チタルトキ
二　入院ノ必要ヲ認メザルトキ
三　使用料手數料其ノ他ノ料金ヲ滯納シ其ノ他本院ニ關スル諸規定ニ違反シタルトキ
四　風紀若ハ秩序ヲ紊シ又ハ他人ノ迷惑トナルベキ行爲等アリト認ムルトキ
五　市ガ特ニ設置セル他ノ診療機關ニ於テ診療スルヲ適當ト認ムルトキ
六　其ノ他院長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキ

第十條　本規則施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長ノ承認ヲ經テ院長之ヲ定ム

附　則

本規則ハ條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本規則施行ノ際現ニ入院中ニシテ健康保險若ハ國民健康保險ノ保險給付又ハ之ニ代ル可キ給付ヲ受ケザル者ニ對スル入院料ニ付テハ昭和十八年九月末日迄仍從前ノ規定ニ依ル

健康保險若ハ國民健康保險ノ保險給付又ハ之ニ代ル可キ給付ヲ受クルモノヲ昭和十八年四月一日以降本規則施行ノ日前迄ノ期間ニ於テ退院シタル者又ハ本規則施行ノ際現ニ入院中ノ者ノ入院ニ關シ本人ノ負擔スベキ額ニ付テハ昭和十八年九月末日迄仍從前ノ規定ニ依ル

附　則

本規則ハ昭和十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本規則施行ノ際現ニ入院中ニシテ保險給付ヲ受ケザル者ニ對スル入院料ニ付テハ昭和十九年六月三十日迄仍從前ノ規定ニ依ル

保險給付ヲ受クルモノノ昭和十八年四月一日以降本規則施行ノ日前迄ノ期間ニ於テ退院シタル者又ハ本規則施行ノ際現ニ入院中ノ者ノ入院ニ關シ本人ノ負擔スベキ額ニ付テハ昭和十九年六月三十日迄仍從前ノ規定ニ依ル

●名古屋市立市民病院（名古屋市立女子醫學專門學校附屬醫院）附屬食堂規則

昭和十七年五月五日
告示第四百七十四號

改正 昭和十八年九月十四日規則第二十號　昭和十九年五月三十日規則第四十號

第一條 名古屋市立市民病院（名古屋市立女子醫學專門學校附屬醫院）附屬食堂（以下單ニ食堂ト稱ス）ニ於テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限リ食事ヲ爲スコトヲ得

一　名古屋市立市民病院（名古屋市立女子醫學專門學校附屬醫院）寄宿舍內居住者

二　患者附添人

三　其ノ他院長ニ於テ必要アリト認メタル者

第二條 食堂ニ於テ食事ヲ爲サントスル者ハ所定ノ料金ヲ支拂ヒ食券ヲ購入スベシ

第三條 食券ノ種類及料金ハ市長ノ承認ヲ得テ院長之ヲ定ム

前項ノ食券ノ種類及料金ハ食堂內ニ之ヲ掲示ス

第四條 食券ハ事務室ニ於テ之ヲ發賣ス

第五條 既納ノ料金ハ事由ノ如何ニ拘ラズ之ヲ還付セズ

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

本則ハ昭和十八年九月六日ヨリ之ヲ適用ス

附　則

本規則ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

●名古屋市立市民病院（名古屋市立女子醫學專門學校附屬醫院）附屬看護婦養成所規則

昭和十七年十一月二十六日
告示第六百三十九號

改正 昭和十八年九月十四日規則第十九號　昭和十九年五月三十日規則第四十號

第一章　總　則

第一條 本所ハ看護婦ニ必要ナル學術ヲ敎授シ併テ德性ヲ涵養スルコトヲ以テ目的トス

第二條 本所ハ名古屋市昭和區瑞穗通一丁目二十七番地名古屋市立市民病院（名古屋市立女子醫學專門學校附屬醫院）內ニ置ク

第三條 本所ノ修業年ハ二年トシテ本所所定ノ課程ヲ卒ヘタル者ニ對シテハ看護婦ノ資格ヲ得セシム

第二章　職　員

第四條 本所ニ左ノ職員ヲ置ク

（加除錄第三號三一八）

所長
養成主任
講師
幹事
所醫
生徒監
指導員

第五條 所長ハ名古屋市立市民病院（名古屋市立女子醫學專門學校附屬醫院）長ヲ以テ之ニ充ツ

養成主任、講師、幹事、所醫、生徒監及指導員ハ名古屋市立市民病院職員中ヨリ所長之ヲ囑託ス但シ必要ニ依リ別ニ講師ヲ囑託スルコトアルベシ

第六條 所長ハ所務ヲ掌理シ所屬員ヲ指揮監督ス

養成主任ハ所長ノ指揮ヲ承ケ敎務ヲ掌ル

講師ハ所長ノ指揮ヲ承ケ擔任學科ノ敎授及訓育ヲ掌ル

幹事ハ上司ノ命ヲ承ケ敎務ニ從事ス

所醫ハ所長ノ命ヲ承ケ生徒ノ保健並醫療ノ事務ニ從事ス

生徒監ハ所長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ監督並訓育ヲ掌ル

指導員ハ所長ノ命ヲ承ケ生徒ノ實習ヲ指導ス

第三章　學年學期及休講日

第七條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

學年ヲ左ノ二學期ニ分ツ

第一學期　自四月一日　至九月三十日
第二學期　自十月一日　至三月三十一日

第八條 休講日左ノ如シ但シ必要ニ應ジ實習ヲ課スルコトアルベシ

日曜日
祝日、大祭日
夏期休講　自八月一日　至八月三十一日
冬期休講　自十二月二十五日　至一月七日

第四章　學科課程及授業時數

第九條 學科目左ノ如シ

一　修身　二　國語及習字
三　理科　四　體操
五　裁縫　六　禮法
七　音樂　八　勞作
九　細菌及衞生大意　十　解剖生理
十一　藥物調劑　十二　一般看護法
十三　治療介補　十四　繃帶學
十五　患者運搬法　十六　醫療機械取扱法
十七　傳染病及寄生蟲病大意　十八　消毒學大意
十九　手術介補　二十　救急法
二十一　母性衞生　二十二　乳幼兒衞生
二十三　學校衞生　二十四　產業衞生
二十五　社會衞生　二十六　食餌衞生

（加除錄第三號三一九）

二十七　結核豫防大意　　二十八　優生法大意
二十九　看護實習

第十條　第一學年第一學期ハ主トシテ學科ヲ授ケ併テ實習ヲ爲サシメ同第二學期ハ學科ト實習ヲ併テ修得セシム
第二學年ハ主トシテ實習ヲ爲サシメ併テ學科ヲ授ク

第十一條　學科課程及實習ノ每週時數ハ別表ニ據ル但シ所長必要ト認ムルトキハ時宜ニ依リ時數ヲ增減シ又ハ所定以外ノ科目ニ付キ聽講セシムルコトアルベシ

第十二條　所長必要アリト認メタルトキハ生徒ヲシテ名古屋市立市民病院（名古屋市立女子醫學專門學校附屬醫院）各科部ノ外來及病室其ノ他必要ノ箇所ニ於テ學科ノ應用及實習ヲ爲サシムルコトアルベシ

第五章　入所及退所

第十三條　本所ノ入所期ハ第一學年ノ始トス
募集期日並人員等ハ其ノ都度所長之ヲ定ム

第十四條　本所ニ入所セントスル者ハ左ノ事項ヲ具備スル者タルベシ
一　國民學校高等科修了又ハ高等女學校二年以上ノ課程ヲ修了シタル者
二　年齡滿二十歲以下ノ女子ニシテ配偶者ナキ者
三　體格强健、性質善良、品行方正ナル者

第十五條　入所志願者ニ對シテハ詮衡試驗ヲ行フコトアルベシ
詮衡試驗ハ身體檢査及學科試驗トシ學科試驗ハ左ノ科目ニ付キ國民學校高等科修了程度ニ依リ之ヲ行フ
一　國語
二　算數

第十六條　入所志願者ハ左ノ書類ヲ提出スベシ
一　志願者（第一號樣式）
二　履歷書（自筆）
三　寫眞（願書提出前五月以內ニ撮影シタル半身名刺型ニシテ臺紙ヲ付セズ裏面ニ氏名、生年月日及撮影年月ヲ記入スルコト）

第十七條　入所ノ許可ヲ受ケタルモノハ二週間以內ニ保證人ノ連署シタル誓約書（第二號樣式）戶籍謄本及身元證明書ヲ提出スベシ

第十八條　保證人ハ二名トシ父兄、親族及本人修學中ノ一切ノ事項ヲ引受クルニ足ル身元確實ナル成年者タルコトヲ要ス但シ內一名ハ名古屋市內又ハ隣接町村內ノ現住者タルベシ

第十九條　保證人死亡シ又ハ其ノ要件ヲ缺キタルトキハ新ニ保證人ヲ立テ保證人連署ノ誓約書ヲ提出スベシ保證人ノ變更アリタルトキ亦同ジ

第二十條　生徒ハ寄宿舍ニ入ラシム

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退所ヲ命ズルコトアルベシ
一　傷痍疾病ノ爲缺課三月以上ニ及ビ卒業ノ見込ナシト認メタル者
二　學力劣等ニシテ卒業ノ見込ナシト認メタル者
三　性行不良ニシテ改悛ノ見込ナシト認メタル者

第六章　給費及義務

第二十二條　生徒ニ對シテハ名古屋市立市民病院（名古屋市立女子醫學專門學校附屬醫院）附屬看護婦養成所生徒給費規則ノ定ムル所ニ依リ給費ス

（加除錄第三號三二〇）

第二十三條　生徒ハ卒業後引續キ滿二年名古屋市立市民病院（名古屋市立女子醫學專門學校附屬醫院）又ハ本市保健竝醫療施設ニ勤務スルノ義務ヲ有ス但シ市長ニ於テ其ノ必要ヲ認メザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ修業中ノ給費額ノ全部又ハ一部ヲ辨償セシムルコトアルベシ
一　第二十一條第三號ニ依リ退所ヲ命ジタル者
二　自己ノ都合ニ依リ退所シタル者
三　第二十三條ノ義務ヲ履行セザル者

第七章　試驗及卒業

第二十五條　試驗ハ之ヲ分チテ臨時試驗及學期試驗トス
臨時試驗ハ臨時ニ學期試驗ハ各學期末ニ既習ノ學科及實地ニ付キ之ヲ行フ

第二十六條　生徒ノ進級ハ其ノ學年成績ヲ考査シテ之ヲ定メ卒業ハ各學年ノ成績ヲ審査シ之ヲ定ム

第二十七條　試驗ノ評點ハ優、良、可及不可トシテ可以上ヲ以テ合格トス

第二十八條　正當ノ事由ニ依リ試驗ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シテハ追試驗ヲ行フ但シ必要アリト認ムルトキハ所長ノ認定ニ依リ合否ヲ決スルコトアルベシ

第二十九條　一學年ノ授業時數中缺課三分ノ一ニ及ブ者ハ進級スルコトヲ得ズ但シ所長ニ於テ學術優秀ナリト認メタル者ハ特ニ進級セシムルコトヲ得

第三十條　本所所定ノ課程ヲ卒ヘタル者ニ對シテハ第三號樣式ノ卒業證書ヲ授與ス

第三十一條　本規則施行ニ關シ必要ナル事項ハ所長之ヲ定ム

附　則

本改正規則ハ昭和十七年四月一日以降ニ入所セル者ニ適用ス
昭和十七年三月三十一日以前ニ入所セル者ハ從前ノ規則ニ依ル但シ卒業後勤務スベキ義務年限ヤ之ヲ一年トス

附　則

本規則ハ昭和十八年九月六日ヨリ之ヲ適用ス

附　則

本規則ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

第一號樣式

入　所　願

私儀
今般貴所ヘ入所志願ニ付御許可相成度別紙自筆履歷書竝寫眞相添ヘ此段奉願候也

昭和　年　月　日

本籍地
現住所
戶主姓名　戶主職業
戶主トノ續柄　氏　名　㊞

名古屋市立市民病院（名古屋市立女子醫學專門學校附屬醫院）附屬看護婦養成所長殿

（加除錄第三號三二〇）

第二號樣式

收入印紙

誓約書

私儀

今般貴所ニ入所御許可相成候ニ就テハ御規則等遵守可致ハ勿論卒業後滿二年間名古屋市ニ勤務可仕候

萬一規則ニ依リ生徒中ノ費用ノ返還ヲ命ゼラレ候節ハ左記保證人連帶責任ヲ以テ直ニ辨償可仕且修業中本人身上ノ儀ハ何事ニ限ラズ保證人ニ於テ引受ケ貴所ニ御迷惑相掛申間敷候仍テ保證人連署ノ上誓約候也

昭和　年　月　日

本籍地
現住所
氏名 ㊞
年　月　日生

本籍地
現住所
職業及入所者トノ關係
正保證人　氏名 ㊞
年　月　日生

本籍地
現住所
職業及入所者トノ關係

副保證人　氏名 ㊞
年　月　日生

名古屋市立市民病院（名古屋市立女子醫學專門學校附屬醫院）附屬看護婦養成所長殿

第三號樣式

卒業證書

何縣　何　某

年　月　日生

名古屋市立市民病院（名古屋市立女子醫學專門學校附屬醫院）附屬看護婦養成所ニ於テ規定ノ學術科ヲ修メ正ニ其ノ業ヲ卒ヘタリ依ツテ之ヲ證ス

昭和　年　月　日

名古屋市立市民病院（名古屋市立女子醫學專門學校附屬醫院）附屬看護婦養成所長
位勳學位爵　氏名 ㊞

第　號

（履歷書記載例）

履歷書

本籍地
現住所
戸主姓名及其ノ職業
（右側ニ讀假名ヲ附ス）

氏名
年　月　日生

（加除錄第三號三二三）

學業（學校名入退學及修業ノ年月日在學中ノ者ハ其ノ學年等）

一 昭和　年　月　日、、、學校ニ入學

職業（自己ノ從事シタル職業ヲ記スベシ）

一 昭和　年　月　日、、、所、、ヲ命ゼラレ日給、、圓、、錢

賞罰

一 昭和　年　月　日、、

右之通相違無之候也

昭和　年　月　日

右
氏名 ㊞

（身元證明書例）

證明書

本籍地
氏名
年　月　日生

一 刑罰ヲ受ケタルコトナシ

一 破產若クハ家資分產ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナシ

一 禁治產、準禁治產ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ

右證明候也

昭和　年　月

市町村長
㊞

（加除錄第三號三二三）

學科課程授業時數表

	第一學年 第一學期	第一學年 第二學期	第二學年 第一學期	第二學年 第二學期
修身	一	一	一	一
國語及習字	二	二	二	二
理科	一	一	一	一
體操	一	一	一	一
裁縫	一	一	一	一
禮法	一	一	一	一
音樂	一	一	一	一
勞作	隨時	隨時	隨時	隨時
細菌及衛生	一	一		
解剖生理大意	二			
藥物調劑	二			
一般看護法		一	一	
治療介補		一		一
繃帶學				

患者運搬法				
醫療器械取扱法	一			
傳染病及寄生蟲病大意				
消毒學大意				
手術介補				
救急法			一	
母性衛生				一
乳幼兒衛生				一
學校衛生				一
産業衛生				一
社會衛生				一
食餌衛生				一
結核豫防大意				一
優生法大意				一
看護實習	三〇	三〇	三〇	三〇
計	四四	四四	四三	四五

●名古屋市立城西病院規則

昭和十八年九月六日
規則第十三號

改正 昭和十九年五月二十八日
規則第三十九號

第一條 診療ヲ受ケントスル者ハ院長ニ申出デ診療券ノ交付ヲ受クベシ
各種法令ノ規定ニ依リ診療ヲ受ケントスル者ハ夫々其ノ法令ノ定ムル所ニ依リ證票ヲ提出シ診療券ノ交付ヲ受クベシ
前二項ノ場合身元調査ヲ行フコトアルベシ

第二條 診療券ノ交付ヲ受ケタル者ハ名古屋市立病院條例（以下單ニ條例ト稱ス）及條例ニ基ク規定ノ定ムル所ニ從ヒ診療ヲ受クベシ

第三條 入院ヲ爲サントスル者ハ身元引受人ヲ立テ院長ニ願出デ其ノ承認ヲ受クベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ親族其ノ他關係者ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

第四條 本院ニ左ノ診療科ヲ置ク

一　内科
二　外科
三　小兒科
四　産婦人科
五　眼科
六　耳鼻咽喉科
七　皮膚科泌尿器科
八　理學診療科

第五條 條例第五條第二項第三項ノ規定ニ依リ健康保險若ハ國民健康保險ノ保險給付又ハ之ニ代ル可キ給付（以下單ニ保險給付ト稱ス）ヲ受ケザル場合ニ於ケル使用料及手數料左ノ如ク定ム

一　入院料（院長ノ定ムル食費及藥治料ヲ含ム）
　　特別室　甲室　一日　十九點
　　乙室　一日　十七點
二　治療材料　一種　一點以上四十點以下
三　文書料　一通　二點以上四十點以下

保險給付ヲ受ケザル本市住民ニシテ普通室ニ入院スルコト二十日以上ニ及ビタル場合其ノ超ユル分ノ入院料ニ付テハ一日ニ付三點ヲ又地方稅法第六十六條第二項ヲ定ムル額以下ノ市民稅納稅者及其ノ家族ニシテ手術料三百點ヲ超ユル場合其ノ超ユル分ニ付半額迄ヲ減額スルコトアルベシ

第六條 條例第五條第二項第三項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受クル場合ニ於ケル特別室ノ使用ニ付本人ノ負擔スベキ額左ノ如ク定ム

甲室　一日　四點
乙室　一日　二點

第六條ノ二 第五條及第六條ニ定ムル使用料及手數料ノ額ノ算定ハ昭和十八年厚生省告示第六十六號健康保險ノ療養ニ要スル費用並ニ國民健康保險組合又ハ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人ニ請求スベキ費用ノ額ノ算定方法ニ依ル

第七條 入院料納付期日ハ入院當日、毎月十日、二十日及末日トシ次ノ納付期日迄ノ分ヲ前納セシム但シ納付期日休日ニ當ルトキハ之ヲ繰上グ入院料納付後退院又ハ死亡シタルトキハ其ノ翌日以後ヲ對スル既納ノ入院料ハ之ヲ還付ス

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ院長ハ使用料及手數料ヲ後納セシムルコトヲ得

一　診療ノ結果ニ非ザレバ料金ヲ算定シ難キトキ
二　應急ノ診療ヲ要シ料金ヲ前納シ難キトキ
三　其ノ他院長ニ於テ已ムヲ得ザル事由アリト認ムルトキ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ院長ハ診療若ハ入院ヲ拒否シ又ハ退院ヲ命ズルコトアルベシ

一　患者定數ニ滿チタルトキ
二　入院ノ必要ヲ認メザルトキ
三　使用料手數料其ノ他ノ料金ヲ滯納シ其ノ他本院ニ關スル諸規定ニ違反シタルトキ
四　風紀若ハ秩序ヲ紊シ又ハ他人ノ迷惑トナルベキ行爲等アリト認ムルトキ
五　市ガ特ニ設置セル他ノ診療機關ニ於テ診療スルヲ適當ト認ムルトキ
六　其ノ他院長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキ

第九條 本規則施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長ノ承認ヲ經テ院長之ヲ定ム

附則

本規則ハ條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本規則施行ノ際現ニ入院中ニシテ健康保險若ハ國民健康保險ノ保險給付又ハ之ニ代ル可キ給付ヲ受ケザル者ニ對スル入院料ニ付テハ昭和十八年九月末日迄仍從前ノ規定ニ依ル

健康保險若ハ國民健康保險ノ保險給付又ハ之ニ代ル可キ給付ヲ受クルモノノ昭和十八年四月一日以降本規則施行ノ日前迄ノ期間ニ於テ退院シタル者又ハ本規則施行ノ際現ニ入院中ノ者ノ入院ニ關シ本人ノ負擔スベキ額ニ付テハ昭和十八年九月末日迄仍從前ノ規定ニ依ル

附　則

本規則ハ昭和十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本規則施行ノ際現ニ入院中ニシテ保險給付ヲ受ケザル者ニ對スル入院料ニ付テハ昭和十九年六月三十日迄仍從前ノ規定ニ依ル

保險給付ヲ受クルモノノ昭和十八年四月一日以降本規則施行ノ日前迄ノ期間ニ於テ退院シタル者又ハ本規則施行ノ際現ニ入院中ノ者ノ入院ニ關シ本人ノ負擔スベキ額ニ付テハ昭和十九年六年三十日迄仍從前ノ規定ニ依ル

●名古屋市立城北病院規則

昭和十八年九月六日
規則第十四號

改正　昭和十九年五月二十八日規則第三十九號

第一條　診療ヲ受ケントスル者ハ院長ニ申出デ診療券ノ交付ヲ受クベシ

各種法令ノ規定ニ依リ診療ヲ受ケントスル者ハ夫々其ノ法令ノ定ムル所ニ依リ證票ヲ提出シ診療券ノ交付ヲ受クベシ

前二項ノ場合身元調査ヲ行フコトアルベシ

第二條　診療券ノ交付ヲ受ケタル者ハ名古屋市立病院條例（以下單ニ條例ト稱ス）及條例ニ基ク規定ノ定ムル所ニ從ヒ診療ヲ受クベシ

第三條　入院ヲ爲サントスル者ハ身元引受人ヲ立テ院長ニ願出デ其ノ承認ヲ受クベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ親族其ノ他關係者ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

第四條　本院ニ左ノ診療科ヲ置ク

一　小兒科
二　産婦人科
三　理學診療科

第五條　條例第五條第二項第三項ノ規定ニ依リ健康保險若ハ國民健康保險ノ保險給付又ハ之ニ代ル可キ給付ヲ受ケザル場合ニ付使用料及手數料左ノ如ク定ム

一　診察料　三月　六十錢
二　入院料（院長ノ定ムル食費及藥治料等ヲ含ム）
　特別室　一日　三圓
　普通室　一日　二圓
三　藥治料　一種一劑又ハ一日　十錢以上一圓以下
四　治療材料　一種　二十錢以上十圓以下
五　文書料　一通　三十錢以上五圓以下

健康保險ニ定ナキ檢査、處置、手術ヲ爲シタルトキハ健康保險ノ定ニ準ジ院長之ヲ定ム

本市市民ニシテ市民稅納稅額平均額以下ノ者及其ノ家族ニ對シテハ手術料八十圓ヲ超ユル場合八十圓ヲ超ユル部分ニ付其ノ半額迄減額スルコトヲ得

第六條　條例第五條第二項第三項ノ規定ニ依リ健康保險若ハ國民健康保險ノ保險給付又ハ之ニ代ル可キ給付ヲ受クベキ場合ニ於ケル特別室ノ使用ニ付本人ノ負擔スベキ額左ノ如シ

特別室　一日　一圓

第七條　入院料納付期日ハ入院當日、毎月十日、二十日及末日トシ次ノ納付期日迄ノ分ヲ前納セシム但シ納付期日休日ニ當ルトキハ之ヲ繰上グ

入院料納付後退院又ハ死亡シタルトキハ其ノ翌日以後ニ對スル既納ノ入院料ハ之ヲ還付ス

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ院長ハ使用料及手數料ヲ後納セシムルコトヲ得

一　診療ノ結果ニ非ザレバ料金ヲ算定シ難キトキ
二　應急ノ診療ヲ要シ料金ヲ前納シ難キトキ
三　其ノ他院長ニ於テ已ムヲ得ザル事由アリト認ムルトキ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ院長ハ診療若ハ入院ヲ拒否シ又ハ退院ヲ命ズルコトアルベシ

一　患者定數ニ滿チタルトキ
二　入院ノ必要ヲ認メザルトキ
三　使用料手數料其ノ他ノ料金ヲ滯納シ其ノ他本院ニ關スル諸規定ニ違反シタルトキ
四　風紀若ハ秩序ヲ紊シ又ハ他人ノ迷惑トナルベキ行爲等アリト認ムルトキ
五　市ガ特ニ設置セル他ノ診療機關ニ於テ診療スルヲ適當ト認ムルトキ
六　其ノ他院長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキ

第十條　本規則施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長ノ承認ヲ經テ院長之ヲ定ム

附　則

本規則ハ條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本規則施行ノ際現ニ入院中ニシテ健康保險若ハ國民健康保險ノ保險給付又ハ之ニ代ル可キ給付ヲ受ケザル者ニ對スル入院料ニ付テハ昭和十八年九月末日迄仍從前ノ規定ニ依ル

健康保險若ハ國民健康保險ノ保險給付又ハ之ニ代ル可キ給付ヲ受クルモノノ昭和十八年四月一日以降本規則施行ノ日前迄ノ期間ニ於テ退院シタル者又ハ本規則施行ノ際現ニ入院中ノ者ノ入院ニ關シ本人ノ負擔スベキ額ニ付テハ昭和十八年九月末日迄仍從前ノ規定ニ依ル

附　則

本規則ハ昭和十九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

本規則施行ノ際現ニ入院中ニシテ保險給付ヲ受ケザル者ニ對スル入院料ニ付テハ昭和十九年六月三十日迄仍從前ノ規定ニ依ル

保險給付ヲ受クルモノノ昭和十八年四月一日以降本規則施行ノ日前迄ノ期間ニ於テ退院シタル者又ハ本規則施行ノ際現ニ入院中ノ者ノ入院ニ關

（加除錄第三號三二七）

（加除錄第三號三二六）

シ本人ノ負擔スベキ額ニ付テハ昭和十九年六月三十日迄仍從前ノ規定ニ依ル

●名古屋市立城北病院附屬食堂規則

昭和十八年四月十三日
告示第百八號
改正　昭和十八年九月十四日　規則第十七號

第一條　名古屋市立城北病院附屬食堂（以下單ニ食堂ト稱ス）ニ於テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限リ食事ヲ爲スコトヲ得

一　名古屋市立城北病院寄宿舍內居住者

二　患者附添人

三　其ノ他院長ニ於テ必要アリト認メタル者

第二條　前條ノ者食事ヲ爲サントスルトキハ所定ノ料金ヲ支拂ヒ食券ヲ購入スベシ

第三條　食券ノ種類及料金ハ市長ノ承認ヲ得テ院長之ヲ定ム

前項ノ食券ノ種類及料金ハ食堂內ニ之ヲ掲示ス

第四條　食券ハ事務室ニ於テ之ヲ發賣ス

第五條　既納ノ料金ハ事由ノ如何ニ拘ラズ之ヲ還付セズ

附　則

本規程ハ昭和十八年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

附　則

本則ハ昭和十八年九月六日ヨリ之ヲ適用ス

●名古屋市立城東病院規則

昭和十八年九月六日
規則第十五號

第一條　入院ヲ爲サントスルトキハ本人又ハ親族其ノ他關係者ヨリ院長ニ其ノ旨申出デ承認ヲ受クベシ

第二條　本院ニ診療科及研究科ヲ置ク

第三條　條例第五條第二項第三項ノ規定ニ依ル使用料及手數料左ノ如シ

一　入院料

特別室

特甲室
- 本市住民　一日　七圓
- 本市住民ニ非ザル者　一日　九圓

甲室
- 本市住民　一日　四圓
- 本市住民ニ非ザル者　一日　五圓

乙室
- 本市住民　一日　二圓五十錢
- 本市住民ニ非ザル者　一日　三圓

但シ食費藥價料ヲ含マズ

（加除錄第三號三二八）

乙室ニ付健康保險若ハ國民健康保險ノ保險給付又ハ之ニ代ル可キ給付ヲ受ケザル者ニシテ市民稅納稅額平均額ヲ超エザル者ニ付テハ一圓五十錢

普通室

食費藥價料　一日　一圓

二　文書料　一通　三十錢以上五圓以下

第四條　入院料納付期日ハ入院當日、毎月十日、二十日及末日トシ次ノ納付期日迄ノ分ヲ前納セシム但シ納付期日休日ニ當ルトキハ之ヲ繰上グ

入院料納付後退院又ハ死亡シタルトキハ其ノ翌日以後ニ對スル既納ノ入院料ハ之ヲ還付ス

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ院長ハ使用料及手數料ヲ後納セシムルコトヲ得

一　診療ノ結果ニ非ザレバ料金ヲ算定シ難キトキ

二　應急ノ診療ヲ要シ料金ヲ前納シ難キトキ

三　其ノ他院長ニ於テ已ムヲ得ザル事由アリト認ムルトキ

第六條　本規則施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長ノ承認ヲ經テ院長之ヲ定ム

附　則

本規則ハ條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本規則施行ノ際現ニ入院中ニシテ健康保險若ハ國民健康保險ノ保險給付又ハ之ニ代ル可キ給付ヲ受ケザル者ニ對スル入院料及食費藥價料ニ付テハ昭和十八年九月末日迄仍從前ノ規定ニ依ル

（加除錄第三號三二九）

●名古屋市立千種看護婦養成所規則

昭和十八年九月二十八日
規則第二十四號
改正　昭和十九年二月十六日規則第六號

第一章　總　則

第一條　名古屋市立千種看護婦養成所（以下單ニ本所ト稱ス）ハ皇國ノ道ニ則リ看護婦ニ必要ナル教育ヲ施シ國家有用ノ人物ヲ養成スルヲ以テ目的トス

第二條　本所ハ名古屋市千種區覺王山通一丁目二番地ニ之ヲ置ク

第三條　本所ノ修業年限ハ二年トス

第二章　職　員

第四條　本所ニ所長、養成主任、講師、生徒監、幹事及指導員其ノ他必要ナル職員及補助員ヲ置ク

第五條　所長ハ名古屋市立城東病院長ヲ以テ之ニ充ツ
養成主任、講師、生徒監、幹事及指導員ハ本市職員中ヨリ所長之ヲ委囑ス但シ必要ニ依リ別ニ講師ヲ囑託スルコトアルベシ

第六條　所長ハ所務ヲ掌理シ所屬員ヲ指揮監督ス
養成主任ハ所長ノ指揮ヲ承ケ教務ヲ掌ル
講師ハ所長ノ指揮ヲ承ケ擔任學科ノ教授ヲ掌ル
生徒監ハ所長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ訓育竝ニ監督ヲ掌ル
幹事ハ上司ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス
指導員ハ所長ノ命ヲ承ケ生徒ノ實習ヲ指導ス

第三章　學年、學期及休講日

第七條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條　學年ヲ分チテ左ノ二學期トス
第一學期　自四月一日　至九月三十日
第二學期　自十月一日　至翌年三月三十一日

第九條　休講日ハ左ノ如シ但シ休講日ト雖モ必要ニ應ジ實習訓練ヲ課スルコトアルベシ
祭日及祝日
日曜日
夏期　自八月一日　至八月三十一日
冬期　自十二月二十五日　至翌年一月七日
臨時休講日ハ其ノ都度之ヲ定ム

第四章　學科課程及毎週授業時數

第十條　學科課程及毎週授業時數ハ別表ノ如シ但シ所長必要ト認ムルトキハ時宜ニ依リ時數ヲ增減シ又ハ所定以外ノ科目ニ付聽講セシムルコトアルベシ

第十一條　第一學年ハ主トシテ學科ヲ授ケ併セテ實習ヲ修得セシム
第二學年ハ主トシテ實習ヲ爲サシメ併セテ學科ヲ授ク

第十二條　所長必要アリト認メタルトキハ生徒ヲシテ名古屋市立病院ノ外來及病室其ノ他必要ノ箇所ニ於テ學科ノ應用及實習ヲ爲サシムルコトアルベシ

第五章　入所及退所

第十三條　入所期ハ毎學年ノ始トス

募集期日竝ニ人員等ハ其ノ都度所長之ヲ定ム

第十四條　本所ニ入所セントスル者ハ左ノ各號ヲ具備スル者タルベシ
一　國民學校高等科修了又ハ高等女學校二年以上ノ課程ヲ修了シタル者
二　年齡滿二十歲以下ノ女子ニシテ配偶者ナキ者
三　身體健全、性質善良、品行方正ナル者

第十五條　入所志願者ハ左ノ書類ヲ指定期日迄ニ提出スベシ
一　志願書（第一號樣式）
二　履歷書（自筆）
三　寫眞（名刺判無裏紙トシ願書提出前五月以內ニ撮影シタル無帽半身正面委ニシテ裏面ニ氏名生年月日及撮影年月日ヲ記入シタルモノ）
四　所長ニ於テ特ニ指示シタル書類

第十六條　入所志願者ニハ總テ體格檢査及人物考査ヲ行フ

第十七條　入所志願者募集人員ヲ超過シタルトキハ前條ノ外國民學校高等科修了程度ニ依リ詮衡試驗ヲ行フ其ノ學科目ハ其ノ都度所長之ヲ定ム

第十八條　入所ヲ許可セラレタル者ハ指定期日迄ニ保證人連署ノ誓約書（第二號樣式）、戶籍謄本及身元證明書ヲ提出スベシ

第十九條　保證人ハ二名トシ本人修業中ニ於ケル一切ノ事件ニ付其ノ責ニ任ジ得ベキ成年ニシテ第二保證人ハ父兄又ハ之ニ代ルベキ保護者トシ第二保證人ハ名古屋市內ニ居住シ獨立ノ生計ヲ營ミ身元確實ナル者タルベシ

保證人其ノ任ニ堪ヘズト認メタルトキハ其ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第二十條　保證人ノ身上ニ異動ヲ生ジ又ハ變更セントスル場合ハ直ニ屆出デ承認ヲ受クベシ

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退所ヲ命ズルコトアルベシ
一　性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
二　學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
三　傷痍疾病ノ爲缺課三月以上ニ及ビ卒業ノ見込ナシト認メタル者

第六章　試驗及卒業

第二十二條　試驗ヲ分チテ臨時試驗、學期試驗及卒業試驗トス
臨時試驗ハ臨時ニ學期試驗ハ各學期末ニ當該學期中ニ履修シタル學科目ニ付之ヲ行フ
卒業試驗ハ看護婦規則ニ依ル試驗科目ニ付之ヲ行フ

第二十三條　生徒ノ進級ハ其ノ學年成績ヲ考査シテ之ヲ定メ卒業ハ各學年ノ成績ヲ審査シテ之ヲ定ム

第二十四條　正當ノ事由ニ依リ試驗ヲ受クルコト能ハザル者ニ對シテハ追試驗ヲ行フ但シ必要アリト認ムルトキハ所長ノ認定ニ依リ合否ヲ決スルコトアルベシ

第二十五條　試驗ノ評點ハ各學科目毎ニ百點ヲ以テ滿點トス

第二十六條　學年ノ成績左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ原級ニ止ム
一　全學科目ノ平均點數六十點未滿ナルトキ
二　一學科目ノ點數四十點未滿ナルトキ
三　全學科目ノ三分ノ一以上ガ六十點未滿ナルトキ

第二十七條　所定ノ授業時數ノ三分ノ一以上缺席シタル者ハ原級ニ止ム但シ所長ニ於テ學術優秀ナリト認メタル者ハ特ニ進級セシムルコトアルベシ

第二十八條　本所規定ノ課程ヲ卒ヘタル者ニ對シテハ卒業證書（第三號樣式）ヲ授與ス

第七章　義　務

第二十九條　生徒ハ卒業後引續キ滿二年名古屋市立病院又ハ本市保健竝ニ醫療施設ニ勤務スルノ義務ヲ有ス但シ其ノ必要ナキトキハ其ノ限リニ在ラズ

第三十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ修業中支給シタル諸給與金ノ全部又ハ一部ヲ辨償セシムルコトアルベシ

一　第二十一條第一號ニ依リ退所ヲ命ジタル者

二　自己ノ都合ニ依リ退所シタル者

三　第二十九條ノ義務ヲ履行セザル者

第八章　補　則

第三十一條　本規則施行ニ關シ必要ナル事項ハ所長之ヲ定ム

附　則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年度ノ入所期ハ所長之ヲ定ム

附　則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

學科課程及每週授業時數

學科目	第一學年 第一學期	第一學年 第二學期	第二學年 第一學期	第二學年 第二學期
修身	一	一	一	一
公民科	一	一	一	一
國語	一	一	一	一
醫用外國語	一	一		
家事禮法	一	一	一	一
体操	一	一	一	一
解剖及生理學大意	二			
藥物及調劑學大意	二			
細菌學及衛生學大意	二			
一般看護法		一	一	
看護法各論			二	
治療介補			一	
繃帶學				
患者運搬法				
醫療器械取扱法				一
傳染病及寄生蟲病學大意			一	
消毒法			一	
手術介補		一		
救急法			一	
乳幼兒衛生				
母性衛生				
社會衛生				
榮養學大意				
醫事法規				一
看護實習	三〇	三〇	三〇	三〇
合計	四二	四二	四二	四〇

（加除錄第三號三三二）

第一號樣式

入　所　願

私　儀

今般貴所ヘ入所致度ニ付御許可相成度別紙自筆履歷書其ノ他關係書類相添ヘ此段奉願候也

第十二類　保　健　第一章　醫　療

昭和　年　月　日

本　籍　地

現　住　所

戸主姓名　戸主職業

戸主トノ續柄　氏　名　㊞

名古屋市立千種看護婦養成所長殿

（加除錄第三號三三三）

第二號樣式

三錢收入印紙

誓　約　書

今般貴所ニ入所御許可相成候ニ就テハ御規則等遵守可致ハ勿論御指示ノ事項ハ決シテ違背仕間敷特ニ卒業後滿二年間名古屋市ニ勤務可仕候

萬一規則ニ依リ修業中ノ費用ノ返還ヲ命ゼラレ候節ハ左記保證人連帶責任ヲ以テ直ニ辨償可仕且本人ニ關スル事件ハ一切保證人ニ於テ引受貴所ヲ御迷惑相掛申間敷候仍テ保證人連署ノ上誓約候也

昭和　年　月　日

本　籍　地

現　住　所　氏　名　㊞

年　月　日生

本　籍　地
現　住　所
職業及本人トノ關係
保證人　氏　　年　月　日生　名㊞

本　籍　地
現　住　所
職業及本人トノ關係
保證人　氏　　年　月　日生　名㊞

名古屋市立千種看護婦養成所長殿

第三號樣式

卒　業　證　書

何　縣
何　　年　月　日生　某

右者本所所定ノ學術科ヲ履修シ正ニ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

昭和　年　月　日

名古屋市立千種看護婦養成所長位勳學位爵　氏　名㊞

（履歷書記載例）

履　歷　書

本　籍　地
現　住　所
戸主姓名及其ノ職業（右側ニ讀假名ヲ附ス）
戸主トノ續柄　氏　名
年　月　日生

學　業（學校名入退學及修業ノ年月日在學中ノ者ハ其ノ學年等）

一　昭和　年　月　日　○○○○○○學校ニ入學
一　昭和　年　月　日　○○○○○○（學校卒業又ハ卒業ノ見込）

職　業（自己ノ從事シタル職業ヲ記スベシ）

一　昭和　年　月　日　○○○所○○○○ヲ命ゼラレ日給○○○圓○○○錢

賞　罰

一　昭和　年　月　日　○○○○○○

右之通相違無之候也

昭和　年　月　日

右　氏　名㊞

（身元證明書例）

證　明　書

本　籍　地　氏　名
年　月　日生

一　刑罰ヲ受ケタルコトナシ
一　破產若ハ家資分產ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタルコトナシ
一　禁治產、準禁治產ノ宣告ヲ受ケタルコトナシ

右證明候也

昭和　年　月　日

市　町　村　長　㊞

（加除錄第三號三三四）

（加除錄第三號三三五）

●名古屋市花柳病診療所條例

昭和十五年二月一日
條例第二號

第一條　名古屋市花柳病診療所ハ本市住民ニシテ業態上花柳病傳播ノ虞アル者及傳染ノ虞アル花柳病ニ罹レル者ノ診療ヲ爲ス所トス

本市住民ニ非ザル者ト雖市長ニ於テ特別ノ事情アリト認ムル者ニ對シテハ之ガ診療ヲ爲スコトアルベシ

第二條　診療ヲ受ケントスル者ハ市長ノ承認ヲ受クベシ

第三條　診療ヲ受クル者ニ對シテハ左ノ範圍内ニ於テ市長ノ定ムル使用料及手數料ヲ徴收ス但シ被診療者業態上花柳病傳播ノ虞アル者ニシテ雇主抱主又ハ之ニ準ズベキ者アルトキハ其ノ雇主抱主又ハ之ニ準ズベキ者ヨリ徴收ス

一　手　術　料	一回	五十錢以上	十圓以下
二　處置料	一回	十錢以上	五圓以下
三　藥劑及治療材料	一種	五錢以上	三十錢以下
四　檢査料	一件	五十錢以上	一圓以下
五　文書料	一通	十錢以上	一圓以下

第四條　使用料及手數料ハ前納トス但シ市長ニ於テ特別ノ事情アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第五條　市長ハ業態上花柳病傳播ノ虞アル者其ノ他特別ノ事情アリト認ムル者ニ對シ使用料及手數料ヲ減免スルコトヲ得

前項ノ場合虚僞ノ申立ニ依リ使用料及手數料ノ減免ヲ受ケタル者ニ對シテハ之ガ料金ヲ追徴ス

第六條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市花柳病診療所條例施行細則

昭和十五年二月一日
告示第二十三號

第一條　診療ヲ受ケントスル者ハ所長ニ申出デ診療券ノ交付ヲ受クベシ

第二條　名古屋市花柳病診療所條例（以下單ニ條例ト稱ス）第三條ノ使用料及手數料左ノ如シ

一　手術料	第一種	一回	五圓
	第二種	一回	三圓
	第三種	一回	一圓五十錢
	第四種	一回	五十錢
二　處置料	第一種	一回	三圓
	第二種	一回	五十錢
	第三種	一回	二十錢
	第四種	一回	十錢
三　藥劑及治療材料	水藥、散藥、洗滌藥一劑一日	十錢以上	二十錢以下
	塗布藥、膣球其ノ他之ニ類スルモノ一劑	五錢以上	二十錢以下
	治療材料一劑	十錢以上	二十錢以下
四　檢査料		一件	五十錢
五　文書料	普通文書	一通	五十錢以下
	精密文書	一通	五十錢以上

診療上前項各號ニ依リ難キトキハ別ニ所長ノ定ムル料金ヲ徴收ス

本市住民ニ非ザル者ニ對シテハ前二項ノ料金ノ百分ノ五十迄ヲ增徴スルコトアルベシ

第三條　在ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ使用料及手數料ヲ後納セシムルコトヲ得

一　診療ノ結果ニ非ザレバ料金ヲ算定シ難キトキ

二　應急ノ診療ヲ要シ料金ヲ前納シ難キトキ

三　其ノ他所長ニ於テ必要ト認ムルトキ

附　則

本細則ハ條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●トラホーム治療所規則

昭和四年三月十五日
告示第三十五號

改正　昭和五年四月一日告示第百六十四號　昭和七年三月三十一日告示第二百三十七號　昭和十六年四月一日告示第百二十三號　昭和十八年八月二十五日規則第十號

第一條　「トラホーム」治療所ハ本市住民ニシテ醫療ノ資力乏シキ「トラホーム」患者ノ診療ヲ行フ

第二條　本所ハ往診ハ之ヲ行ハス

第三條　本所ニ於テ診療ヲ受ケントスル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ受療資格ノ認定ヲ受ケ別紙樣式ノ身元證明書ヲ提出シ所長ノ承認ヲ受クベシ但シ其ノ違ナキトキハ所長ニ申出テ受療資格ノ認定ヲ受クルコトヲ得

一　區長

二　厚生局社會部長

三　方面委員

第四條　前條ニ依リ診療ノ承認ヲ爲シタル者ニハ診療券ヲ交付ス

第五條　本所ニ於テ行フ診療其ノ他ニ付テハ之ヲ無料トス

第六條　本規則ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ健民局長之ヲ定ム

附　則

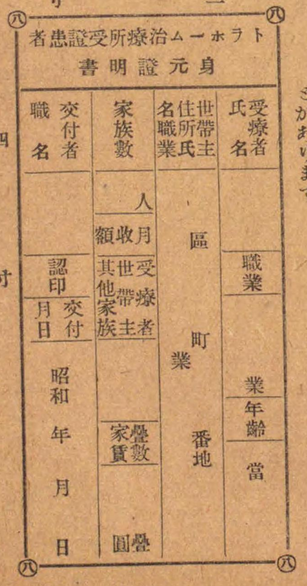
本規程ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

別紙

注意

一　診療を受けむとするときは此の證明書を受付へ御差出し下さい

二　受療者資格に疑ありと思料したるときは診療を拒絶することがあります



●名古屋市集團檢診手數料條例

昭和十七年四月一日
條例第十二號

第一條　學校、會社、商店、工場其ノ他之ニ準ズベキ團體ノ委託ニ依リテ行フ集團檢診ニ付テハ別ニ定アルモノノ外左ノ範圍内ニ於テ市長ノ定ムル手數料ヲ徵收ス

一　普通檢査　一人ニ付　五十錢以下
二　精密檢査　一人ニ付　二圓五十錢以下

前項ノ團體ニシテ本市ニ事務所ヲ有セザルモノニ對シテハ前項料金ノ百分ノ二十迄ヲ增徵スルコトアルベシ

第二條　市長特別ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ手數料ヲ減免スルコトヲ得

第三條　手數料ハ之ヲ前納セシムルコトヲ得但シ市長特別ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ後納セシムルコトヲ得

第四條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市集團檢診手數料條例施行細則

昭和十七年四月一日
告示第百二十七號

改正　昭和十八年八月十五日規則第十號

第一條　集團檢診ノ委託ヲ爲サントスル學校、會社、商店、工場其ノ他之ニ準ズベキ團體ハ其ノ代表者又ハ之ニ準ズベキ者ヨリ市長ニ申出デ其ノ承認ヲ受クベシ

第二條　名古屋市集團檢診手數料條例第一條ノ規定ニ依ル手數料ハ左ニ依リ前條ノ申出人ヨリ之ヲ徵收ス

一　普通檢査　一人ニ付　五十錢
二　精密檢査　一人ニ付　二圓五十錢

第三條　本細則施行ニ關シ必要ナル事項ハ健民局長之ヲ定ム

附　則

本細則ハ名古屋市集團檢診手數料條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市保健婦講習所規程

昭和十七年十一月十九日
告示第六百三十五號

改正　昭和十八年三月二十二日告示第六十一號

第一章　總　則

第一條　本所ハ保健婦ニ必要ナル學術ノ教授、臨床看護ノ實習及實地訓練ヲ爲シ併テ德性ヲ涵養スルヲ以テ目的トス

第二條　本所ハ名古屋市中村區太閤通二丁目一九番地牧野保健所内ニ置ク

第三條　本所ノ修業年限ハ二年トシ本所ノ定ノ課程ヲ卒ヘタル者ニ對シテハ保健婦ノ資格ヲ得セシム

第二章　職　員

第四條　本所ニ左ノ職員ヲ置ク

所　長
養成主任
講　師
事務員

第五條　所長ハ健民局保健課長ヲ以テ之ニ充ツ
養成主任、講師及事務員ハ本市職員中ヨリ所長之ヲ委囑ス但シ必要ニ依リ別ニ講師ヲ囑託スルコトアルベシ

第六條　所長ハ所務ヲ掌理シ所屬員ヲ指揮監督ス
養成主任ハ所長ノ指揮ヲ承ケ教務ヲ掌ル
講師ハ所長ノ指導ヲ承ケ擔任學科ノ教授並訓育ヲ掌ル
事務員ハ上司ノ指揮ヲ承ケ一般事務ニ從事ス

第三章　學年、學期及休講日

第七條　學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
學年ヲ左ノ二學期ニ分ツ
前學期　自四月一日　至九月三十日
後學期　自十月十日　至三月三十一日

（加除錄第二號三二五）

第八條　休講日左ノ如シ但シ必要ニ應ジ實習及臨地訓練ヲ爲スコトアルベシ

日曜日
祝日、大祭日
夏期休講日　自八月一日　至八月三十一日
冬期休講日　自十二月二十五日　至一月七日

第四章　學科課程及授業時數

第九條　學科目左ノ如シ

一　解剖學大意
二　生理學大意
三　環境、產業及學校衞生大意
四　結核其他慢性傳染病豫防並寄生蟲病豫防大意
五　急性傳染病豫防大意
六　母性及乳幼兒衞生大意
七　榮養大意
八　救急處置及消毒方法
九　繃帶術及治療器取扱方大意
十　看護方法
十一　衞生法規大意
十二　社會事業大意
十三　社會保險大意
十四　心理學
十五　家政學

十六　精神衞生
十七　都市衞生
十八　統計學
十九　修身
二十　體操
二十一　健康教育
二十二　保健指導
二十三　臨地訓練

第十條　學科課程及授業時數ハ別表ニ據ル但シ所長必要アリト認ムルトキハ時宜ニ依リ學科時數ヲ增減シ又ハ課外講義ヲ實施スルコトアルベシ

第十一條　臨床看護ノ實習及臨地訓練ハ本市ノ病院、保健所其ノ他必要ナル箇所ニ於テ之ヲ爲ス

第五章　入所及退所

第十二條　本所ノ入所期ハ第一學年ノ始トス

募集期日、人員等ハ其ノ都度所長之ヲ定ム

第十三條　本所ニ入所セントスル者ハ左ノ事項ニ該當スル者タルベシ

一　高等女學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者
二　身體强健、性質善良、品行方正ナル者

前項第一號ニ該當セザル場合ト雖詮衡ノ上之ヲ聽講生トシテ入所セシムルコトアルベシ

第十四條　入所ヲ志願スル者定員ヲ超過スルトキハ詮衡試驗ヲ行フコトアルベシ

第十五條　入所志願者ハ左ノ書類ヲ提出スベシ

一　入所願（第一號樣式）
二　履歷書（自筆）
三　戸籍謄本
四　身元證明書
五　最終學校ノ卒業證書（在學中ノ者ハ卒業見込書）

第十六條　聽講生タラントスル者ハ第二號樣式ニ依ル聽講願及前條第二號乃至第四號ニ掲グル書類ヲ提出スベシ

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ退所ヲ命ズルコトアルベシ

一　傷痍疾病ノ爲缺課三月以上ニ及ビ卒業ノ見込ナシト認メタル者
二　學力劣等ニシテ卒業ノ見込ナシト認メタル者
三　正當ノ事由ナク缺課久シキニ亘リタル者
四　性行不良ニシテ改悛ノ見込ナシト認メタル者

第六章　試驗及卒業

第十八條　試驗ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ行フ

臨時試驗、學期試驗及卒業試驗

試驗ハ既習ノ各科目及實地ニ付之ヲ行フ

第十九條　試驗ノ成績ヲ判定スルニハ評點ヲ用ヒ各學科一百點ヲ以テ最高點トシ各科目ノ總評點ヲ平均シテ六十點以上ニ達シタルモノヲ以テ合格トス但シ一科目四十點未滿ノモノアルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條　疾病其ノ他正當ノ事由ニ依リ試驗ヲ受クルコト能ハザリシ者ニ對シテハ追試驗ヲ行フコトアルベシ

第二十一條　各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ハ學業成績ヲ考査シ

操行ヲ參酌シテ之ヲ定ム

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ卒業セシメズ

一　學科時數中授業ヲ受ケザルコト三分ノ一ヲ超ユル者
二　臨床看護ノ實習時數中實習ヲ受ケザルコト三分ノ一ヲ超ユル者
三　臨地訓練ノ時數中訓練ヲ受ケザルコト三分ノ一ヲ超ユル者

第二十三條　本所所定ノ課程ヲ卒ヘタル者ニハ第三號樣式ノ卒業證書ヲ授與ス

聽講生ハ聽講シタル學科目ニ付キ試驗ヲ受クルコトヲ得

前項ノ試驗ニ合格シタル者ニ對シテハ請求ニ依リ第四號樣式ノ修了證書ヲ授與ス

第七章　授業料

第二十三條ノ二　授業料ハ徵收セズ但シ本市職員ニ非ザル者ニ對シテハ一人ニ付年額三十六圓ヲ徵收ス

聽講生ニ對シテハ聽講料トシテ一人ニ付年額十二圓ヲ納付セシム

第二十三條ノ三　品行方正、成績優秀ニシテ學資ニ乏シキ聽講生ニ對シテハ特ニ授業料ヲ免除ス

第八章　雜則

第二十四條　本規則施行ニ關シ必要ナル事項ハ所長之ヲ定ム

附則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

入所願

私儀

貴所ヘ入所致度候ニ付御許可相成度別紙自筆履歷書戸籍謄本竝身元證明書相添ヘ此段奉願候也

昭和　年　月　日

本籍地
現住所
戸主ノ姓名職業
戸主ト之續柄　氏名㊞

名古屋市保健婦講習所長殿

第二號樣式

聽講願

私儀

貴所左記科目聽講致度候ニ付御許可相成度別紙自筆履歷書戸籍謄本竝身元證明書相添ヘ此段奉願候也

昭和　年　月　日

本籍地
現住所
戸主ノ姓名職業
戸主トノ續柄
名古屋市保健婦講習所長殿　　氏名㊞

第三號樣式

第　號

卒業證書

府縣　氏名　年月日生

所印

右者本所所定ノ課程ヲ修メ正ニ其ノ業ヲ卒ヘタリ仍テ之ヲ證ス

昭和　年　月　日

名古屋市保健婦講習所長位勳學位　氏　名㊞

第四號樣式

第　號

修了證書

府縣　氏名　年月日生

所印

右ノ者本所所定ノ左ノ科目ノ課程ヲ修了シタルコトヲ證ス

昭和　年　月　日

名古屋市保健婦講習所長位勳學位　氏　名

（加除錄第二號三二八）

第二章　結核

●名古屋市保健所條例

昭和十四年九月二日
條例第七號

條一條　名古屋市保健所ハ本市住民ノ體位ヲ向上セシムル爲保健上必要ナル指導ヲ行フ所トス

第二條　本所ニ於テハ左ノ事項ニ付指導ヲ行フ

一　衞生思想ノ普及啓發ニ關スル事項
二　榮養ノ改善及飲食物ノ衞生ニ關スル事項
三　衣服、住宅其ノ他ノ環境ノ衞生ニ關スル事項
四　姙產婦及乳幼兒ノ衞生ニ關スル事項
五　疾病ノ豫防ニ關スル事項
六　其ノ他健康ノ增進ニ關スル事項

第三條　本所ニ於テハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ限リ五圓以內ニ於テ市長ノ定ムル使用料ヲ徵收ス

一　衞生上ノ試驗、檢査ニシテ特ニ費用ヲ要スルモノ
二　エツクス線裝置其ノ他ノ設備ノ使用ニシテ特ニ費用ヲ要スルモノ

第四條　使用料ハ之ヲ前納セシム

使用料ハ市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ後納セシメ又ハ減免スルコトアルベシ

第五條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（加除錄第二號三二九）

●名古屋市保健所條例施行細則

昭和十四年九月二日
告示第四百八十八號

第一條　本所ノ指導ヲ受ケントスルモノハ所長ニ申出デ其ノ承認ヲ受クベシ

第二條　名古屋市保健所條例第三條ニ依ル使用料ハ左ノ如シ

一　試驗、檢査
　赤血球沈降速度測定　一件　五十錢
　ワツセルマン氏反應試驗　一件　五十錢
　血球ノ計算　一件　五十錢
二　エツクス線寫眞
　大陸版　一枚　二圓五十錢
　四ツ切　一枚　二圓

八ツ切　一枚　一圓三十錢
カビネ　一枚　一圓

第三條　本細則施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長ノ決裁ヲ經テ所長之ヲ定ム

附則

本細則ハ名古屋市保健所條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市健康相談所條例

昭和十六年四月一日
條例第八號

改正　昭和十七年二月三日條例第三號　昭和十八年五月一日條例第九號

第一條　名古屋市健康相談所ハ本市住民ニシテ結核ニ罹リ又ハ結核ノ疑アル者ニ對シ診療及相談ヲ行フ

市長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ豫防上必要ナル處置及巡回指導ヲナスコトヲ得

第一項ニ該當セザル者ト雖市長必要アリト認ムルトキハ之ガ診療ヲ行フコトアルベシ

第二條　診療ヲ受ケントスル者ハ市長ノ承認ヲ受クベシ

前項ノ者ニ對シ必要アルトキハ證明書其ノ他ノ書類ヲ提出セシメ且身元調査ヲ行フコトアルベシ

第三條　診療ヲ受クル者ニ對シテハ左ノ範圍内ニ於テ市長ノ定ムル手數料ヲ徴收ス

一　手術料　一回　五十錢以上　七圓以下
二　處置料　一回　十錢以上　七圓以下
三　藥劑料又ハ治療材料　一種一劑又ハ一日　五錢以上　三十錢以下
四　檢査料　一回　二十錢以上　五圓以下
五　文書料　一通　十錢以上　二圓以下

診療上前項各號ニ依リ難キトキハ別ニ市長ノ定ムル手續ヲ經テ診療ヲ受クベシ

第四條　手數料ハ之ヲ前納セシム但シ市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ後納セシムルコトヲ得

第五條　市長ハ特別ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ手數料ヲ減免スルコトヲ得

第六條　市長必要アリト認ムルトキハ本市ニ事務所ヲ有スル健康保險者又ハ各種共濟組合其ノ他之ニ準ズベキ團體ノ委託ヲ受ケ其ノ被保險者又ハ團體員及其ノ家族ノ診療ヲ行フコトアルベシ

前項ノ場合ニ於テハ市長ハ其ノ手數料ヲ減額スルコトヲ得

第七條　市長ハ本條例又ハ本條例ニ基ク規定ニ違反シタル者又ハ其ノ必要アリト認ムル者ニ對シテハ診療又ハ相談ヲ拒否スルコトアルベシ

第八條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市健康相談所條例施行細則

昭和十六年四月一日
告示第百二十一號

改正　昭和十八年五月一日告示第百十九號

第一條　本所ニ於テ診療相談及巡回指導ヲ受ケントスル者ハ所長ニ申出テ診療券ノ交付ヲ受クベシ

前項ノ場合受證資格ヲ調査シ診療券ヲ交付ス但シ必要アリト認ムルトキハ身元調査ヲ行ヒ所轄區長、警察署長又ハ方面委員ノ證明ヲ提出セシムルコトアルベシ

第二條　名古屋市健康相談所條例（以下單ニ條例ト稱ス）第三條ノ規定ニ依ル手數料左ノ如シ

一　手數料

第一種	一回	三圓五十錢以上	四圓五十錢以下
第二種	一回	一圓五十錢以上	二圓五十錢以下
第三種	一回	五十錢以上	一圓以下

二　處置料

第一種	一回	三圓以上	四圓五十錢以下
第二種	一回	一圓五十錢以上	二圓五十錢以下
第三種	一回	五十錢以上	一圓以下
第四種	一回	十錢以上	五十錢以下

三　藥劑料及治療材料　一種一劑一日又ハ一回　五錢以上　二十錢以下

四　檢査料

第十二類　保健　第二章　結核

第一種	一回	三十錢以上	五十錢以下
第二種	一回	一圓五十錢以上	三圓以下

五　文書料

診療券	一通	十錢	
普通文書	一通	五十錢	
精密文書	一通	一圓	

診療上前項各號ニ依リ難キトキハ別ニ市長ノ承認ヲ經テ主管課長之ヲ定ム

本市住民ニ非ザル者ニ對シテハ前二項ノ料金ノ百分ノ五十迄ヲ增徴スルコトアルベシ

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ手數料ヲ後納セシムルコトヲ得

一　診療ノ結果ニ非ザレバ料金ヲ算定シ難キトキ

二　應急ノ診療ヲ要シ料金ヲ前納シ難キトキ

三　其ノ他所長ニ於テ已ムヲ得ザル事由アリト認メタルトキ

第四條　條例第六條ノ規定ニ依リ保險者又ハ團體ノ委託ニ基キテ診療ヲ行フトキハ受療者ハ當該保險者又ハ團體ノ發行スル所屬員又ハ其ノ家族タルコト其ノ他必要事項ニ關スル證票ヲ提出スベシ

前項ノ受療者ハ本細則ニ定ムルモノノ外別ニ定ムル手續ヲ經テ診療ヲ受クベシ

第五條　所長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ診療又ハ相談ヲ拒否スルコトアルベシ

一　受療資格ノ調査ニ際シ虚僞ノ申立ヲ爲シタルコトヲ發見シタルトキ

二　風紀若ハ秩序ヲ紊シ又ハ他人ニ迷惑ヲ與フル等ノ行爲アリト認メ

タルトキ

三　市ガ特ニ設置セル他ノ診療機關ニ於テ診療スルヲ適當ト認メタルトキ

四　其ノ他所長ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ

附　則

本細則ハ名古屋市健康相談所條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市兒童健康指導所規程

昭和十五年六月六日
告示第百六十號

第一條　名古屋市兒童健康指導所ハ本市學童ノ肺結核及結核性疾患ニ對スル相談、早期發見及豫防處置並療養指導ヲ行フ

第二條　療養ヲ要スル兒童ニ付必要アルトキハ訪問指導ヲ爲シ又ハ治療ニ關スル便宜ヲ與フルコトアルベシ

第三條　前二條ノ場合ニ於テハ料金ハ之ヲ徴收セズ

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市學童保養園條例

昭和十九年五月二十七日
條例第十二號

第一條　名古屋市學童保養園ハ輕症結核罹患學童ノ診療保養ヲ行フ外小兒結核ニ關スル醫學的研究ヲ爲ス

第二條　保養園ニ入園シ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一　本市内國民學校兒童ニシテ結核ニ罹患シ保養ノ必要アリト認ムル者

二　其ノ他市長ニ於テ必要アリト認ムル者

第三條　入園者ニ對シテハ左ノ範圍内ニ於テ市長ノ定ムル使用料及手數料ヲ徴收ス

一　入園料　一日　五圓以内

二　手術料、處置料　一回　十五圓以内

三　文書料　一通　二圓以内

診療上特ニ費用ヲ要シ前各欄ニ依リ難キトキハ市長ノ定ムル使用料及手數料ヲ徴收ス

第四條　市長特別ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ使用料及手數料ヲ減免スルコトヲ得

第五條　使用料及手數料ハ之ヲ前納セシム但シ特別ノ理由アルトキハ之ヲ後納セシムルコトヲ得

第六條　本條例又ハ本條例ニ基ク規定ニ違反シタル者其ノ他必要アリト認メラルヽ者ニ對シテハ診療保養ヲ拒否又ハ退園ヲ命ズルコトアルベシ

第七條　保養園ハ必要ニ應ジ看護婦ノ養成ヲ行フコトヲ得

第八條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例施行ノ日ハ市長之ヲ定ム（昭和十九年告示第百八十九號ヲ以テ同年七月二十五日ヨリ施行）

（加除錄第三號三三八）

●名古屋市學童保養園條例施行細則

昭和十九年五月二十七日
規則第三十八號

第一條　保護者其ノ兒童ヲ入園セシメントスルトキハ身元引受人ヲ立テ園長ニ願出デ其ノ承認ヲ受クベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ親族其ノ他ノ關係者ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合必要ニ應ジ證明書其ノ他ノ書類ヲ提出セシメ且身元調査ヲ爲スコトアルベシ

第二條　入園ノ承認ヲ受ケタル者指定ノ期日ニ入園スルコト能ハザルトキハ其ノ事由ヲ具シ園長ノ承認ヲ受クベシ

前項ノ手續ヲ爲サザルトキハ入園ノ承認ヲ取消スコトアルベシ

第三條　診療ヲ受ケントスル者ハ園長ニ願出デ診療券ヲ受クベシ

前項ノ場合必要ニ應ジ身元調査ヲ爲スコトアルベシ

第四條　學童保養園條例第三條ノ規定ニ依ル使用料及手數料左ノ如シ

一　入園料（園長ノ定ムル食費及藥治料ヲ含ム）　一日　二圓

二　手術料　一回　五十錢以上十圓以下

三　處置料　一回　二十錢以上五圓以下

四　文書料　一通　三十錢以上一圓以下

診療上特ニ費用ヲ要スルトキハ別ニ園長ノ定ムル料金ヲ徴收ス

第五條　入園料納付期日ハ入園當日、毎日十日、二十日及末日トシ次ノ納付期日迄ノ分ヲ前納セシム但シ納付期日休日ニ當ルトキハ之ヲ繰上グ

（加除錄第三號三三九）

入園料納付後退園又ハ死亡シタルトキハ其ノ翌日以後ニ對スル既納ノ入園料ハ之ヲ還付ス

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ園長ハ使用料及手數料ヲ後納セシムルコトヲ得

一　診療ノ結果ニ非ザレバ料金ヲ算定シ難キトキ

二　應急ノ診療ヲ要シ料金ヲ前納シ難キトキ

三　其ノ他園長ニ於テ已ムヲ得ザル事由アリト認ムルトキ

第七條　患者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ園長ハ入園若ハ診療ヲ拒否シ又ハ退園ヲ命ズルコトアルベシ

一　定數ニ滿チタルトキ

二　入園ノ必要ヲ認メザルトキ

三　使用料、手數料其ノ他ノ料金ヲ滯納シタルトキ

四　風紀又ハ秩序ヲ紊シ又ハ他人ニ迷惑ヲ與フル行爲等アリト認メラルルトキ

五　市ガ特ニ設置セル他ノ診療機關ニ於テ診療スルヲ適當ト認メラルルトキ

六　其ノ他園長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキ

附　則

本規則ハ名古屋市學童保養園條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三章　防　疫

●名古屋市防疫所條例

昭和十九年七月十六日條例第十五號

第一條　名古屋市防疫所ハ傳染病ノ檢疫豫防ヲ行フ

第二條　防疫所ニ醫學的檢査並ニ消毒ヲ依頼スルモノニ對シテハ左ノ範圍内ニ於テ市長ノ定ムル手數料ヲ徴收ス

一　檢査料　一件　五圓以内
二　建物消毒料　一床面積十平方米迄　十圓以内
三　物品消毒料　十五瓩迄　五圓以内
四　特殊消毒料　一件　十圓以内
五　消毒物件ノ蒐集並ニ配達料　十五瓩迄　三圓以内

特ニ期日ヲ指定シ又ハ費用ヲ要シ前各號ニ依リ難キトキハ市長ノ定ムル手數料ヲ徴收スルコトアルベシ

第三條　市長特別ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ手數料ヲ減免スルコトヲ得

第四條　手數料ハ之ヲ前納セシム但シ特別ノ事由アルトキハ之ヲ後納セシムルコトヲ得

第五條　既納ノ手數料ハ之ヲ還付セズ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　本條例又ハ本條例ニ基ク規程ニ違反シタル者其ノ他必要アリト認メラルル者ニ對シテハ依頼ヲ拒否シ又ハ承認ヲ取消スコトアルベシ

第七條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋市消毒手數料條例ハ之ヲ廢止ス

（加除錄第三號三四一）

●名古屋市防疫所條例施行細則

昭和十九年七月十六日規則第五十號

第一條　名古屋市防疫所ニ醫學的檢査並ニ消毒ヲ依頼セントスル者ハ所長ニ願出デ其ノ承認ヲ受クベシ

前項ノ場合證明書其ノ他必要ナル書類ヲ提出セシムルコトアルベシ

第二條　名古屋市防疫所條例第二條ニ依ル手數料左ノ如シ

一　檢査料

喀痰	一件ニ付	五十錢以上　一圓五十錢以下
糞便	一件ニ付	五十錢以上　一圓五十錢以下
尿		
血液及血清	一件ニ付	五十錢以上　二圓五十錢以下
細菌ノ診定	一件ニ付	二圓五十錢以上　五圓以下

二　建物消毒料

（一）普通消毒　床面積十平方米迄　一圓五十錢

十平方米ヲ超ユルトキハ三・三平方米迄ヲ增ス毎ニ五十錢ヲ加フ

(二) フォルムアルデヒード消毒　三十立方米迄　五圓
三十立方米ヲ超ユルトキハ十立方米迄ヲ增ス毎ニ一圓五十錢ヲ加フ
(三) 昆蟲驅除消毒　床面積　十平方米迄　五圓
十平方米ヲ超ユルトキハ三・三平方米迄ヲ增ス毎ニ一圓五十錢ヲ加フ

三　物品消毒料
(一) 蒸汽消毒　十五瓩迄　五十錢
十五瓩ヲ超ユルトキハ五瓩迄ヲ增ス毎ニ二十錢ヲ加フ
(二) 瓦斯消毒　十五瓩迄　二圓
十五瓩ヲ超ユルトキハ五瓩迄ヲ增ス毎ニ五十錢ヲ加フ

四　特殊消毒料
(一) 井戸消毒　水量一立方米迄　二圓
一立方米ヲ超ユルトキハ〇・一立方米迄ヲ增ス毎ニ二十錢ヲ加フ
(二) 便所消毒
便房　一個　三十錢
便壺　一個　八十錢
(三) 屍體消毒
大人　(滿十四歲以上)　一體　五圓
小人　(滿十四歲以下)　一體　三圓

五　消毒物品ノ蒐集又ハ配達料
十五瓩迄　一圓
十五瓩ヲ超ユルトキハ十瓩ヲ增ス毎ニ三十錢ヲ加フ

第三條　依賴者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ申請ニ依リ手數料ヲ減免ス
一　一時ニ同種ノモノ多數ヲ依賴スルトキ
二　法令ニ依リ扶助又ハ救恤ヲ受クル者其ノ他無資力者ニシテ其ノ居住地ノ區長又ハ方面委員ノ證明書ヲ提出スルトキ
三　其ノ他所長ニ於テ必要アリト認ムルトキ

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ手數料ヲ後納セシムルコトヲ得
一　消毒ノ結果ニ非ザレバ料金ヲ算定シ難キトキ
二　應急ノ消毒ヲ要シ料金ヲ前納シ難キトキ
三　其ノ他所長ニ於テ已ムヲ得ザル事由アリト認ムルトキ

第五條　市ノ都合ニ依リ承認ヲ取消シタルトキハ既納ノ手數料ハ之ヲ還付ス

第六條　市ガ特ニ設置セル他ノ機關ニ於テ檢査スルヲ適當ト認メタルトキ其ノ他所長ニ於テ必要アリト認メタルトキハ依賴ヲ拒否シ又ハ承認ヲ取消スコトアルベシ

附　則

本規則ハ名古屋市防疫所條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
名古屋市消毒手數料條例施行細則並ニ城東病院消毒所貸與規程ハ之ヲ廢止ス

第四章　汚物處理

●塵灰處理手數料條例

昭和十七年一月三十一日
條例第一號
改正　昭和十九年三月七日　條例第四號

第一條　掃除義務者ノ蒐集シタル塵芥及灰燼ノ運搬、處分ニ付テハ本條例ニ依リ掃除義務者ヨリ手數料ヲ徵收ス

第二條　手數料ノ額ハ一月ニ付十五錢以內ニ於テ市長之ヲ定ム　但シ塵芥及灰燼ノ月量百五十瓩ヲ超ユル者ニ對シテハ百五十瓩ヲ超ユル量三十瓩ヲ增ス毎ニ五錢以內ニ於テ市長ノ定ムル額ヲ增徵ス
前項ノ塵芥及灰燼ノ量ハ市長之ヲ認定ス

第三條　手數料ハ市長ノ定ムル所ニ依リ之ヲ前納セシム但シ市長特別ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　市長必要アリト認ムル區域ノ手數料ニ付テハ前二條ノ規定ニ拘ラズ容器一箇(一箇未滿ヲ含ム)ニ付五錢以內ニ於テ徵收スルコトヲ得
前項容器ノ容量ハ市長ノ定ムル所ニ依ル

第五條　前條ニ依ル手數料ハ塵灰處理券ヲ以テ納付スベシ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　第四條ノ規定ニ依ル區域ノ掃除義務者ハ作業者ニ對シ塵灰搬出ノ際所定ノ容器數ニ相當スル塵灰處理券ヲ交付スベシ
掃除義務者前項ノ塵灰處理券ヲ交付セザルトキハ市長ノ認定ニ依ル手數料ヲ徵收ス

第七條　手數料ハ天災、地變其ノ他特別ノ事由アルトキハ之ヲ免除スルコトヲ得

第八條　既ニ交付シタル塵灰處理券ハ現金ト引換ヲ爲サズ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ昭和十七年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

本條例ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ汚物掃除法施行細則第九條ノ規定ニ依ル區域及掃除義務者ヲ除ク
本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

●塵灰處理手數料條例施行規則

昭和十七年一月三十一日
告示第三十七號

改正　昭和十八年三月二十四日告示第六十三號　昭和十九年三月七日規則第八號

第一條　塵灰處理手數料條例（以下單ニ條例ト稱ス）第二條ノ手數料ハ一月ニ付十五錢トス　但シ塵芥及灰燼ノ月量百五十瓩ヲ超ユル者ニ對シテハ百五十瓩ヲ超ユル量三十瓩ヲ增ス毎ニ五錢ヲ增徵ス

第二條　賃貸價格七十圓未滿ノ家屋ノ占有者ニ對シテハ所定ノ手數料ノ二分ノ一ヲ減額ス

前項ノ賃貸價格ハ名古屋市市稅條例第三十八條第一項ニ定ムル賃貸價格トス

第三條　月ノ中途ニ於テ家屋ノ賃貸價格ニ付異動ヲ生ジタルニ依リ手數料ノ變更ヲ要スル場合ト雖其ノ月ノ手數料ニ付テハ之ヲ增減セズ

第四條　手數料ハ毎年度左ニ依リ之ヲ徵收ス　但シ必要アリト認ムル者ニ對シテハ隨時徵收スルコトヲ得

前期　自四月至九月分　納付期日　六月廿五日限
後期　自十月至翌年三月分　納付期日　十二月廿五日限

第五條　手數料納付後其ノ期ノ手數料ニ付過不足ヲ生ジタルトキハ一期毎ニ精算ノ上之ヲ追徵又ハ還付ス　但シ過納額ニ付テハ次期ニ納付スベキ手數料ニ充當スルコトヲ得

第六條　條例第四條ノ規定ニ依ル區域ノ手數料ハ容器一箇ニ付五錢トス

前項ノ容器ノ容量ハ二立方尺トス

第七條　條例第五條ノ規定ニ依ル塵灰處理券ノ種類左ノ如シ

一箇券　一枚　五錢
特別一箇券　一枚　無料

塵灰處理券ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

第八條　塵灰處理券ハ清掃區作業事務所、同出張所及市長ノ指定シタル場所ニ於テ掃除義務者ニ對シ現金ト引換ニ之ヲ交付ス

第九條　條例第四條ノ規定ニ依ル區域ノ町內會長ヨリ其ノ區域內ノ全掃除義務者（免除該當者ヲ除ク）ニ對スル塵灰處理券ヲ取纏メ交付ノ申出アリタルトキハ券面額ノ百分ノ五ニ相當スル金額ヲ取扱費トシテ當該町內會ニ交付ス

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ其ノ申請ニ依リ手數料ヲ免除ス　但シ條例第四條ノ規定ニヨル區域ノ者ニ對シテハ特別一箇券ヲ交付ス

一　法令ニ依リ扶助又ハ救恤ヲ受クル者
二　戰爭又ハ事變ニ關シ應召若ハ出動シ又ハ在外部隊ニ編入セラレタル下士官兵ノ家族若ハ遺族ニシテ本市要保護者ニ該當スル者
三　其ノ他市長特ニ必要アリト認メタル者

附　則

本細則ハ塵灰處理手數料條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十六年度ニ限リ第四條ノ規定ニ拘ラズ二月及三月分手數料ヲ二月二十五日限リ徵收ス

附　則

本規則ハ塵灰處理手數料條例中改正條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（加除錄第三號三四四）

●屎尿汲取手數料條例

昭和十九年三月七日
條例第三號

第一條　本市ハ屎尿ノ汲取運搬ニ關シ汲取便所ノ掃除義務者（以下掃除義務者ト稱ス）ヨリ本條例ノ定ムル所ニ依リ手數料ヲ徵收ス

第二條　手數料ハ一樽（一樽未滿ヲ含ム）ニ付十五錢以內トス

前項一樽ノ容量ハ市長ノ定ムル所ニ依ル

第三條　手數料ハ屎尿汲取券ヲ以テ之ヲ納付スベシ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　掃除義務者ハ汲取人ニ對シ汲取ノ際其ノ樽數ニ相當スル屎尿汲取券ヲ交付スベシ

掃除義務者前項ノ屎尿汲取券ヲ交付セザルトキハ市長ノ認定ニ依ル手數料ヲ徵收ス

第五條　手數料ハ天災、地變其ノ他特別ノ事由アルトキハ之ヲ免除スルコトヲ得

第六條　既ニ交付シタル屎尿汲取券ハ現金ト引換ヲ爲サズ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス　但シ汚物掃除法施行規則第二十二條ノ規定ニ依リ告示サレタル區域及市ガ契約ヲ締結シ屎尿ヲ無償汲取ラシムル地域ヲ除ク

●屎尿取手數料條例施行規則

昭和十九年三月七日
規則第七號

（加除錄第三號三四五）

第一條　屎尿汲取手數料條例（以下單ニ條例ト稱ス）第二條ノ規定ニ依ル手數料ハ一樽ニ付十錢トス

前項一樽ノ容量ハ一斗六升トス

第二條　特ニ多量ノ汲取ヲ要スルトキ又ハ別段ノ汲取作業ヲ要スルモノ其ノ他市長必要ト認ムルトキハ前條第一項ノ規定ニ拘ラズ別ニ手數料ヲ定メ納額告知書ニ依リ納付セシムルコトアルベシ

第三條　條例第三條ノ規定ニ依ル屎尿汲取券ノ種類左ノ如シ

一樽券　一枚　十錢
特別一樽券　一枚　無料

屎尿汲取券ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　屎尿汲取券ハ清掃區作業事務所、同出張所及市長ノ指定シタル場所ニ於テ掃除義務者ニ對シ現金ト引換ニ之ヲ交付ス

第五條　町內會長ヨリ其ノ區域內ノ全掃除義務者（免除該當者ヲ除ク）ニ對スル屎尿汲取券ヲ取纏メ交付ノ申出アリタルトキハ券面額ノ百分ノ五ニ相當スル金額ヲ取扱費トシテ當該町內會ニ交付ス

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ其ノ申請ニ依リ手數料ヲ免除シ特別一樽券ヲ交付ス

一　法令ニ依リ扶助又ハ救恤ヲ受クル者
二　戰爭又ハ事變ニ關シ應召若ハ出動シ又ハ在外部隊ニ編入セラレタ

ル下士官兵ノ家族若ハ遺族ニシテ本市要保護者ニ該當スル者
三　其ノ他市長特ニ必要アリト認メタル者

附　則

本細則ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
昭和十七年度ニ限リ第五條ノ規定ニ拘ラズ自四月至六月分手數料ヲ五月二十五日限リ徴收ス

附　則

本規則ハ屎尿汲取手數料條例改正條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

汚物處理券取扱規程

昭和十九年三月十二日
達第十四號

第一條　屎尿汲取券及塵灰處理券（以下汚物處理券ト稱ス）ノ取扱ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條　汚物處理券ハ作業部庶務課長（以下課長ト稱ス）之ガ管理、受拂ヲ爲ス

第三條　清掃區作業事務所長（以下所長ト稱ス）ハ毎月所管區域内ニ於ケル翌月分ノ汚物處理券交付豫定數ヲ汚物處理券請求書（第一號樣式）ニ依リ課長ニ請求シ之ガ交付ヲ受クベシ

第四條　毀損、汚染其ノ他ニ因リ使用ニ耐ヘザル汚物處理券アルトキハ所長ハ無效汚物處理券引換請求書（第二號樣式）ニ其ノ券ヲ添付シ課長ニ返納シ再交付ヲ受クベシ
課長無效處理券ノ返納ヲ受クタルトキハ作業部長（以下部長ト稱ス）ノ決裁ヲ受ケ物品會計吏ニ合議ノ上燒却又ハ破棄スベシ

第五條　汚物處理券ヲ個人ニ交付スル場合ハ汚物處理券個人交付整理簿（第三號樣式）ニ登載スベシ
町内會扱ニ屬スル掃除義務者ニ對シテハ特別ノ場合ノ外個人交付ハ之ヲ爲サズ

第六條　町内會長ノ請求ニ依リ汚物處理券（特別券ヲ除ク）ヲ交付スル場合ハ町内會扱汚物處理券交付申込書（第四號樣式）ニ依リ申込ヲ爲サシメ現金ト引換ニ汚物處理券ヲ交付シ同時ニ汚物處理券取扱交付金

（加除錄第三號三四六）

請求並領收書（第五號樣式）ヲ提出セシメ交付金ヲ交付スベシ

第七條　所長ハ受領シタル現金ヲ所定ノ納付書（第六號樣式）ニ依リ即日又ハ翌日市收入役ニ拂込ムベシ

第八條　所長ハ汚物處理ノ際已ムヲ得ザル事情ニ依リ掃除義務者ヨリ汚物處理券ニ代ル證ノ提出アリタル場合ハ直チニ課長ニ報告スベシ
課長ハ前項報告ニ基キ部長ノ決裁ヲ經テ未納者台帳兼收納簿（第七號樣式）ニ登載ノ上納額告知書（第八號樣式）ヲ發行シ料金ノ納付ヲ爲サシムベシ

第九條　所長ハ屎尿汲取手數料條例施行規則第二條ニ依リ證明書（第九號樣式）ニ依ル汲取ヲ爲シタル場合臨時ノモノハ其ノ都度、定期ノモノハ一月分ヲ取纏メ特殊汲取處理量報告書（第十號樣式）ヲ提出スベシ
課長ハ前項報告書ニ基キ特殊汲取台帳兼收納簿（第十一號樣式）ニ登載ノ上納額告知書ヲ發行シ別ニ定ムル料金ノ納付ヲ爲サシムベシ

第十條　屎尿汲取手數料及塵灰處理手數料ノ免除ヲ受ケントスル者アルトキハ區長ノ證明ヲ受ケタル所定ノ申請書（第十二號樣式）ヲ提出セシメ部長ノ決裁ヲ經テ免除承認書（第十三號樣式）ヲ發行シ特別汚物處理券交付票（第十四號樣式）ニ記入シタル後特別券ヲ交付スベシ
前項ノ場合部長ハ處理量ニ應ズル交付券數ヲ決定スベシ
處理量ノ認定ハ屎尿ハ一人一日一立以内塵灰ハ當該區域ノ一月豫定蒐集回數ヲ基準トシテ之ヲ爲スベシ

第十一條　天災、地變其ノ他特別ノ事由發生シタルトキハ所長ハ直チニ其ノ情況ヲ調査シ料金ノ免除方ヲ部長ニ具申スベシ
前項ノ具申アリタルトキハ部長ハ市長ノ決裁ヲ受ク免除ノ認定ヲ爲スベシ

（加除錄第三號三四七）

第十二條　屎尿汲取手數料條例第六條及塵灰處理手數料條例第八條但書ノ規定ニ依リ汚物處理券返還ノ申出アリタルトキハ所長ハ事情ヲ審査ノ上已ムヲ得ザルト認メタルトキハ還付ノ手續ヲ爲スベシ

第十三條　所長回收汚物處理券ヲ査收シタルトキハ回收汚物處理券整理簿（第十五號樣式）ニ登載スベシ
回收汚物處理券ノ保存期間ハ三月トシ其ノ處分ニ關シテハ課長之ヲ指示ス

第十四條　汚物處理券ノ受拂及整理ニハ課長ハ汚物處理券受拂簿（第十六號樣式）及還付金整理簿（第十七號樣式）ヲ、所長ハ汚物處理券並現金受拂簿（第十八號樣式）特別汚物處理券受拂簿（第十九號樣式）及町内會別汚物處理券整理票（第二十號樣式）ヲ備ヘ其ノ收支ヲ明ニスベシ

第十五條　所長ハ毎日現金收入報告書並徴收日報（第二十一號樣式）ヲ作成シ翌日課長ニ提出スベシ

第十六條　所長ハ毎月徴收月報（第二十二號樣式）汚物處理券受拂報告書（第二十三號樣式）回收汚物處理券報告書（第二十四號樣式）及汚物處理手數料免除狀況報告書（第二十五號樣式）ヲ作成シ翌月五日迄ニ課長ニ報告スベシ

第十七條　本規程施行ニ關シ必要ナル事項ニ付テハ凡テ部長ノ指揮ニ依ル

附　則

本達ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

樣式目次

第一號樣式　汚物處理券請求及領收書
第二號樣式　無效汚物處理券引換請求及領收書
第三號樣式　汚物處理券個人交付整理簿
第四號樣式　町內會扱汚物處理券交付申込書
第五號樣式　汚物處理券取扱交付金請求並領收書
第六號樣式　納付書
第七號樣式　未納者台帳兼收納簿
第八號樣式　納額告知書
第九號樣式　汲取證明書
第十號樣式　特殊汲取處理量報告書
第十一號樣式　特殊汲取台帳兼收納簿
第十二號樣式　屎尿汲取塵灰處理手數料免除申請書
第十三號樣式　屎尿汲取塵灰處理手數料免除承認書
第十四號樣式　特別汚物處理券交付票
第十五號樣式　回收汚物處理券整理簿
第十六號樣式　汚物處理券受拂簿
第十七號樣式　還付金整理簿
第十八號樣式　汚物處理券並現金受拂簿
第十九號樣式　特別汚物處理券受拂簿
第二十號樣式　町內會別汚物處理券整理票
第廿一號樣式　現金收入報告書兼徴收日報
第廿二號樣式　汚物處理手數料徴收月報
第廿三號樣式　汚物處理券受拂報告書
第廿四號樣式　回收汚物處理券報告書
第廿五號樣式　汚物處理手數料免除狀況報告書

第一號樣式

汚物處理券請求及領收書

第　　號　　月分

課長		係長		係員	

券名		請求數	現保有數
屎尿汲取券	一樽券	枚	枚
	特別一樽券		
塵灰處理券	一箇券		
	特別一箇券		
摘要			

出張所長

上記ノ通請求ス
昭和　年　月　日
第　清掃區作業事務所長

上記ノ通領收ス
昭和　年　月　日
第　清掃區作業事務所長

（加除錄第三號三四八）

第二號樣式

無效汚物處理券引換請求及領收書

第　　號　　月分

部長	處分 燒却或棄	課長		係長		係員	

券名		請求數	事由
汲取屎尿券	一樽券	枚	
	特別一樽券		
塵灰處理券	一箇券		
	特別一箇券		

上記ノ通請求ス
昭和　年　月　日
第　清掃區作業事務所長

上記ノ通領收ス
昭和　年　月　日
第　清掃區作業事務所長

出張所長

第三號樣式　汚物處理券個人交付整理簿

交付年月日		屎尿汲取券 一樽券	金額	特別一樽券	塵灰處理券 一箇券	金額	特別一箇券	金額合計	住所	氏名
		枚	円	枚	枚	円	枚	円		

（加除錄第三號三四九）

第五號様式

記附	目	項	款	濟繰	度年	歳
交付金	雑費	塵芥屎尿分費	清掃費	普通		出

名古屋市第　清掃區作業事務所長　町内會長　殿　丁目　番地　㊞

右金領收候也

昭和　年　月　日

名古屋市第　清掃區作業事務所長　町内會長　殿　丁目　番地　㊞

但名古屋市屎尿汲取手數料條例施行規則第九條ニ依リ右領收候也

昭和　年　月　日　聯區

※金　圓　錢也

汚物處理券　屎尿汲取券　塵芥（一）處理券　屎尿（一）汲取券

枚　枚

汚物處理券交付金請求並領收書

長所務事

長所務事

主任

第六號様式

名古屋市長　殿　町内會長　殿　丁目　番地　㊞

條例施行規則第九條ニ依リ右汚物處理券交付相成度此段申込候也

昭和　年　月　日　聯區

名古屋市屎尿汲取手數料條例施行規則第五條並ニ塵芥處理手數料

一塵芥處理券	一屎尿汲取券
枚	枚

町内會扱汚物處理券交付申込書

屎尿※	塵芥※	計※
円	円	円

※印ハ記入セザルコト

第五號様式

名古屋特零番	振替貯金口座	清掃區	名古屋市第	納

昭和年度	普通	使用料手數料	手數料	汚物處理手數料	金
千	百	拾	円	拾	錢

右領收ス

名古屋市收入役

押印ハ法令ニ據ヨリ効力ヲ生ズ

役所扱領行ノ領收月日印

名古屋市收入役之印

領收月日印附

屎尿汲取手數料	塵芥處理手數料

納付金	内訳	金	昭和年度	普通	使用料手數料	手數料	汚物處理手數料	屎尿汲取手數料	塵芥處理手數料
		千		百	拾	円	拾	錢	

右納付候也

但領收月日印附

納付期限　平日午後三時半限　土曜日午後二時限

名古屋特零番	振替貯金口座	清掃區	名古屋市第	納

昭和年度	普通	使用料手數料	手數料	汚物處理手數料	金
千	百	拾	円	拾	錢

但領收ス

名古屋市收入役

押印ハ法令ニ據ヨリ効力ヲ生ズ

役所扱領行ノ領收月日印

名古屋市收入役之印

領收月日印附

屎尿汲取手數料	塵芥處理手數料

第六號様式

名古屋特零番	振替貯金口座	清掃區	納

昭和年度	普通	使用料手數料	手數料	汚物處理手數料	金
千	百	拾	円	拾	錢

領收月日印附

屎尿汲取手數料	塵芥處理手數料

第八號樣式

1　原符

振替貯金口座
名古屋特壹番

名古屋市　區　町　丁目　殿納　番地

昭和　年度　普通　使用料手數料　手數料　汚物處理手數料

金　千　百　拾　円　拾　錢

尿尿汲取手數料
塵芥處理手數料

加入者　名古屋市收入役

日計　口數　金額　萬　千　百　十　円　十　錢

備考

領收日附印

◎納期限内ハ各區役所内錄行取扱所ニ於テモ取扱ヒマス

1　納額告知書

振替貯金口座
名古屋特壹番　番號

名古屋市　區　町　丁目　殿納　番地

昭和　年度　普通　使用料手數料　手數料　汚物處理手數料

金　千　百　拾　円　拾　錢

尿尿汲取手數料
塵芥處理手數料

内訳　千　百　拾　円　拾　錢

尿尿汲取手數料
塵芥處理手數料

但昭和　年度　月分
右昭和　年　月　日限本市内郵便局
又ハ名古屋市收入役ヘ納付
昭和　年　月　日
名古屋市長

愛知縣名古屋市長印

領收日附印

1　領收證書

振替貯金口座
名古屋特壹番

名古屋市　區　町　丁目　殿納　番地

昭和　年度　普通　使用料手數料　手數料　汚物處理手數料

金　千　百　拾　円　拾　錢

尿尿汲取手數料
塵芥處理手數料

右領收
名古屋市收入役

本領收證ハ貯金局本市内郵便局又ハ取扱銀行ノ領收月日印押捺ニヨリ効力ヲ生ス

名古屋市收入役之印

領收日附印

納金取扱時間　郵便局　午後四時限　土曜日　午後三時限
市、區役所　午後三時半限　上曜日　午後二時限

◎納期限ヲ誤マラヌ樣御納メ下サイ

第七號樣式

未納者台帳兼收納簿

決裁 月日	納額告知書 番號	納額告知書 發行指定 月日期限	汚物處理手數料 尿尿汲取手數料 處理量(樽)	汚物處理手數料 尿尿汲取手數料 金額	汚物處理手數料 塵芥處理手數料 處理量(箇)	汚物處理手數料 塵芥處理手數料 金額	納付 月日	摘要	町内會名	住所氏名
										區町丁目番地
										區町丁目番地
										區町丁目番地
										區町丁目番地
										區町丁目番地
										區町丁目番地

第九號樣式

第　號

尿尿汲取證明書控

樽

月　日

第　號

住所　區　町　丁目　番地
會社工場其他
責任者氏名　印

尿尿汲取證明書

樽

月　日
名古屋市

注意
一、本券ハ尿尿汲取ノ際樽數御記入ノ上汲取人ニ御渡シ下サイ
二、樽數ハ汲取料金ノ基礎トナルモノニ付正確ニ墨書願ヒマス

第十號樣式

作業部庶務課長　殿

昭和　年　月　日

第　清掃區作業事務所長

特殊汲取處理量報告書

（區）　月分

番號	汲取回數	汲取樽數	料金	住所	氏名
	回	樽	円		

上記ノ通報告候也

出張所長	主任

（區役所出張所用）

第十一號樣式

		人員			一ケ月排出量推定
聯區	町內會	常住	出通	入通	石
		人	人	人	

區町丁目番地	便所數	便壺數	容量	便房
	箇所		石	

世帶主

職業	氏名	電話番號	摘要

月別	汲取樽數	金額	告知書發行月日	納付月日	備考
4月					
5月					
6月					
7月					
8月					
9月					
10月					
11月					
12月					
1月					
2月					
3月					

第十二號樣式

尿尿汲取
塵灰處理　手數料免除申請書

聯區
區　町內會
職業　丁目
氏名　㊞　番地

扶助又ハ救護家族數	常住	出通	入通
	人	人	人
免除ヲ要スル理由			

右之通ニ付名古屋市尿尿汲取手數料條例施行規則第六條並ニ塵灰處理手數料條例施行規則第十條ニ依リ手數料免除相成度此段及申請候也

昭和　年　月　日

名古屋市長　殿

右申請者ハ施行規則適用者ニ相違ナキコトヲ證ス

名古屋市　區長

（區役所出張所用）

第　號

調査		
一ケ月處理量	尿尿	塵灰
一ケ月交付數	斗升	寬容器數 集回數 排出量 立方尺 箇回
枚	枚	枚

事務所長	出張所長	清掃監視
見意		

第十三號樣式

第　號

尿尿汲取
塵灰處理　手數料免除承認書

聯區
住所　區　町內會
氏名　町　丁目　番地

免除期間　自昭和　年　月　日
至昭和　年　月　日

一ケ月尿尿券	一ケ月塵灰分
枚	枚

昭和　年　月　日

名古屋市長

注意
一、本書ヲ他人ニ讓渡又ハ貸與シナイ樣願ヒマス
二、毎月券受取ノ際本書及印ヲ御持參下サイ
三、作業ノ際本書ノ提示ヲ求メラレタ時ハ御見セ願ヒマス

第十六號樣式　特別汚物處理券受拂簿

年月日	摘要	受入					拂出					差引殘		
		尿尿汲取券	塵灰處理券	別一箇特一箇券	別一個特一箇券	別一樽特一樽券	番號	尿尿汲取券	塵灰處理券	別一箇特一箇券	別一個特一箇券	別一樽特一樽券	別一箇特一箇券	別一個特一箇券

第十七號樣式　回收汚物處理券整理簿

年月日	摘要	尿尿汲取券			塵灰處理券			摘要	拂出			差引殘		
		一樽特一換樽券	別一樽特一換樽券	算數	一箇特一換箇券	別一箇特一換箇券	算數		取扱數	一箇特一換箇券	別一箇特一換箇券	一箇特一換箇券	別一箇特一換箇券	理數

（市條例第三號三五七）

第十八號樣式　汚物處理券受拂簿

年月日	受領番號	受入			拂出			摘要	差引殘		
		特一樽別券	特一箇別券	計	取扱件數	特一樽別券	特一箇別券		特一樽別券	特一箇別券	計
		枚	枚	枚	枚	枚	枚		枚	枚	枚

第十九號樣式　特別汚物處理券受拂簿

年月日	受領番號	受入			拂出			摘要	差引殘		
		特一樽別券	特一箇別券	計	取扱件數	特一樽別券	特一箇別券		特一樽別券	特一箇別券	計
		枚	枚	枚	枚	枚	枚		枚	枚	枚

第十四號樣式　特別汚物處理券交付票

※本票ハ町內會別ニ手數料免除者臺帳番號ニ依ル原簿番號ニ整理スルコト

年月日	特別汚物處理券交付數		受領印	摘要	世帶人員	住所	
	特別一樽券	特別一箇券				原簿第	町內會
	枚	枚			人	號	聯區
				一ヶ月分	人	町	番地
				坂量	丁目		名氏
				樽量			
				立方尺			
				昭和			
				年			
				月			
				日ヨリ			

第十七號樣式

原簿番號	月命令番號	月命令日	還付命令番號	還付命令日	尿汲取券	塵灰處理券	枚數	金額	計	還付物處理券	還付金整理簿	請求日	月日	還付	拂戻	事由	會名	町內	住所氏名	聯區	丁目	番地	聯區	丁目	番地

第十五號樣式　町內會別汚物處理券整理票

聯區	町內會	事務所所在地	町	丁目	番地	號番	

年月日	一樽券		一箇券		合計金額	取扱交付金	摘要
	枚數	金額	枚數	金額			

（市條例第三號三五七）

第二十一號樣式

第　號

作業部庶務課長　殿

昭和　年　月　日

第　清掃區作業事務所長

現金收入報告書兼徴收日報

（　區　月　日收入分）

年度	經濟	款	項	目
昭和　年度	普通經常	使用料 手數料	手數料	汚物處理手數料

附記種別	拂込額	拂込番號	拂込月日
屎尿汲取手數料	円	第　號	月　日
塵灰處理手數料			
計			

扱別	件數	屎尿汲取券	塵灰處理券	金額
町内會		枚	枚	円
個人				
計				
特別券				
摘要				

上記ノ通報告候也

出張所長	主任

第二十二號樣式

作業部庶務課長　殿

昭和　年　月　日

第　清掃區作業事務所長

汚物處理手數料徴收月報

（區）　月分

扱別＼種別	件數 本月中	件數 累計	拂込額 本月中	拂込額 累計	内譯 屎尿汲取手數料 本月中	屎尿汲取手數料 累計	塵灰處理手數料 本月中	塵灰處理手數料 累計
町内會			円	円	円	円	円	円
個人								
計								
特別券			摘要					

上記ノ通報告候也

出張所長		主任	

（加除錄第三號三五八）

第二十三號樣式

作業部庶務課長　殿

昭和　年　月　日

第　清掃區作業事務所長

汚物處理券受拂報告書

（區）　月分

種別		受入數 本月中	受入數 累計	交付數 本月中 町内會	交付數 本月中 個人	交付數 本月中 計	交付數 累計 町内會	交付數 累計 個人	交付數 累計 計	現在保管數
屎尿汲取券	一樽券	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚	枚
	特別一樽券									
	計									
塵灰處理券	一箇券									
	特別一箇券									
	計									
合計										

摘要　無效券　一樽券　枚　特別一樽券　枚　一箇券　枚　特別一箇券　枚

上記ノ通報告候也

出張所長	主任

第二十四號樣式

作業部庶務課長　殿

昭和　年　月　日

第　清掃區作業事務所長　印

回收汚物處理券報告書

（區）　月分

種別		交付枚數 本月中交付	交付枚數 累計	回收枚數 本月中回收	回收枚數 累計	回收券換算處理量	實處理量	差引	掃除義務者手持數 區計	掃除義務者手持數 一戸當
屎尿汲取券	一樽券					樽	樽			
	特別一樽券					樽	樽			
	計					樽	樽			
塵灰處理券	一箇券					車	車			
	特別一箇券					車	車			
	計					車	車			

備考　屎尿直營區域　戸　塵灰直營區域　戸

上記ノ通報告候也

出張所長	主任

◎汲取證明其他ニ依ル處理量ハ實處理量欄ニ朱記ノコト

（加除錄第三號三五九）

第二十五號様式

作業部庶務課長　　殿

昭和　　年　　月　　日

第　　清掃區作業事務所長

汚物處理手數料免除狀況報告書

（區）　　月分

種別		軍事扶助法		國民徵用扶助規則		醫療保護法		救護法		母子保護法				第二號該當者		其ノ他		計	
		戸數	枚數	戸數	枚數	戸數	枚數	戸數	枚數	戸數	枚數	戸數	枚數	戸數	枚數	戸數	枚數	戸數	枚數
屎尿汲取手數料	本月中																		
	累計																		
塵芥焼却手數料	本月中																		
	累計																		
計	本月中																		
	累計																		
摘要																			

上記ノ通及報告候也

出張所長		主任	

●塵芥處理手數料及屎尿汲取手數料徴收事務規程

昭和十八年四月二十七日
達第二十五號

第一條　塵芥處理手數料及屎尿汲取手數料（以下手數料ト稱ス）ノ徴收事務ハ本規程ノ定ムル所ニ依ルベシ

第二條　作業部ニ徴收兼收納簿其ノ他ノ帳簿ヲ設ケ異動報告、諸願屆其ノ他ノ資料ニ依リ其ノ都度徴收ニ關シ必要ナル事項ヲ登載シ徴收ノ基礎ト爲スト共ニ調定及收納ヲ整理スベシ

第三條　徴收額算定ニ際シ徴收額全額ニ付錢位未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツ

第四條　納額告知書ハ徴收兼收納簿ニ依リ之ヲ作成シ指定納期限前十日迄ニ之ヲ納人又ハ代理人ニ交付スベシ

但シ隨時納入ヲ要スルトキハ期限ヲ定メ納額告知書ヲ作成シ之ヲ納人又ハ代理人ニ交付スベシ

第五條　手數料ヲ指定期限迄ニ納付セザル者アルトキハ徴收兼收納簿ヨリ滯納額整理簿ニ轉記シ滯納額ノ整理ヲ爲スベシ

（加除錄第三號三六〇）

第六條　督促狀ハ前條ノ整理簿ニ依リ期限ヲ指定シテ之ヲ發付スベシ

第七條　名古屋市會計規程第三十八條ノ規定ニ依ル收入事務員督促手數料滯納處分費及滯納金ヲ領收セントスルトキハ領收證ニ領收月日ヲ記入シ自己ノ認印ヲ押捺シテ納人又ハ代理人ニ交付スベシ

第八條　收入事務員前條ノ規定ニ依リ現金ヲ領收シタルトキハ納付書ニ依リ市收入役ニ納付スルト共ニ現金收入報告ヲ作業部長ニ提出スベシ

第九條　本規程ニ依ル帳簿書類ハ別記様式ニ依リ調製スベシ

第十條　市稅賦課徴收事務規程第二十二條、第三十一條乃至三十四條、第三十八條、第三十九條、第四十四條乃至第八十二條、第八十六條乃至第八十九條及第九十一條乃至第九十三條ノ規定ハ手數料ノ徴收ニ付之ヲ準用ス

附　則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

手數料徴收員規程ハ之ヲ廢止ス

様式目次

第一號様式　徴收兼收納簿
第二號様式　納額告知書
第三號様式　過誤納額還付整理簿
第四號様式　滯納額整理簿
第五號様式　督促狀發行簿
第六號様式　督促狀
第七號様式　納付書
第八號様式　領收證
第九號様式　現金出納簿兼領收證用紙受拂簿
第十號様式　現金領收證用紙交付簿
第十一號様式　現金收入報告
第十二號様式　徴收及滯納處分囑託整理簿
第十三號様式　缺損處分簿
第十四號様式　缺損調書

（加除錄第二號三四一）

第一號樣式　（表）

家屋所在地			徴收種別			
聯區	町内會		下水處分別		賃貸價格別	
區町丁目	番地戸		賃貸價格			
			昭和　年	昭和　年	昭和　年	昭和　年

居住者		
職業	氏名	摘要

便壺便房及手數料金								排出量及手數料金						
便所	便壺			便房	手數料徴收個數	一ヶ月手數料金		區分	容器數	一ヶ月排出量	徴收區分	徴收區分	一ヶ月手數料金	
	區分	數	容量								規定	超過		
簡所	尿		石				円	塵芥		瓩			円	
	尿							灰燼						
	計							計						

年度	區分	尿徴收金額	塵灰徴收金額	納付月日	摘要
昭和18年度	前期	円	円		
	後期				
昭和19年度	前期				
	後期				
昭和20年度	前期				
	後期				
昭和21年度	前期				
	後期				
昭和22年度	前期				
	後期				

（加除錄第二號三四二）

（裏）

摘要	
尿	尿
報告月日	事項

塵	灰
報告月日	事項

（加除錄第二號三四三）

第二號樣式

振替貯金口座番號	名古屋特定番號	名古屋市	區	町	丁目	番地	納	昭和年度	普通	使用料手數料	手數料	尿汲取手數料	塵芥處理手數料	金	千	百	拾	圓	錢	何種何額手數料	何額手數料

納期限内ハ各區役所内銀行取扱所ニ於テモ取扱ヒマス

加入者	名古屋市	區	町	丁目	番地	納	昭和年度	普通	使用料手數料	手數料	尿汲取手數料	塵芥處理手數料	金	千	百	拾	圓	錢	何種何額手數料	何額手數料

計	日口數	金額	千	百	拾	圓	錢	入役

備考
印附日收領

第一號樣式

振替貯金口座番號	名古屋特定番號	名古屋市	區	町	丁目	番地	納	昭和年度	普通	使用料手數料	手數料	尿汲取手數料	塵芥處理手數料	金	千	百	拾	圓	錢	何種何額手數料	何額手數料

納金取扱時間　市郵便局　午後四時限　午後三時限　一土曜日　午後三時限

但昭和年度前期分	限本市市内郵便局	月分	又ハ名古屋市收入役ヘ納付	右	氏	名

市長印	愛知縣名古屋	印附日收領

何額手數料	何種何額手數料	塵芥處理手數料	尿汲取手數料	使用料手數料	手數料	丁目	町	區	名古屋市	納	昭和年度	普通	使用料手數料	手數料	尿汲取手數料	塵芥處理手數料	金	千	百	拾	圓	錢	譯	内

振替貯金口座番號	名古屋特定番號	名古屋市	區	町	丁目	番地	納	昭和年度	普通	使用料手數料	手數料	尿汲取手數料	塵芥處理手數料	金	千	百	拾	圓	錢	何種何額手數料	何額手數料

●納期限内ハ各區役所内銀行取扱所ニ於テモ取扱ヒマス

加入者	名古屋市	區	町	丁目	番地	納	昭和年度	普通	使用料手數料	手數料	尿汲取手數料	塵芥處理手數料	金	千	百	拾	圓	錢	何種何額手數料	何額手數料

計	日口數	金額	千	百	拾	圓	錢	入役

備考
印附日收領

第三號樣式

過誤納額還付整理簿

課長	係長	號番	期別年度	科目	過誤納手數料金	算出基礎	納付濟手數料金	納付年月日	更正手數料	還付請求月日	拂戻月日	摘要	住所氏名
				尿汲取手數料									
				塵芥處理									
				尿汲取									
				塵芥處理									
				尿汲取									
				塵芥處理									
				尿汲取									
				塵芥處理									

第四號樣式

督促狀

納告知書額

號番	日月行發	限期定指	科目	滯納金額	督促手數料	滯納處分費	領收月日	顚末	町内會名	住所氏名	區町	丁目番地
			尿汲取手數料									
			塵芥處理									〃
			尿汲取									
			塵芥處理									〃
			尿汲取									
			塵芥處理									〃
			尿汲取									
			塵芥處理									〃

第五號樣式

督促狀發行簿

部長 課長 主任	納告知書	督促狀	年度 期別	科目	滯納金額	督促手數料	事由	住所氏名
	發行日 指定期間	發行日 指定期間						
				尿尿汲取手數料	円	円		區 町 丁目 番地
				塵灰處理〃	円	円		
				尿尿汲取〃	円	円		
				塵灰處理〃	円	円		
				尿尿汲取〃	円	円		
				塵灰處理〃	円			
				尿尿汲取〃	円			
				塵灰處理〃	円			

第六號樣式

第　番　號　第　簿　原　區

督促狀

第　號	名古屋市　區　町　丁目　番地納				
昭和　年度	使用料手數料	尿尿汲取手數料	金　百　拾　円　拾　錢	內訳 尿尿汲取手數料 百　拾　円　拾　錢	督促手數料
	手數料	塵灰處理手數料	期分	塵灰處理手數料 額手數料	增手數料

一金貳拾錢
一金貳拾錢

右昭和　年　月　日限名古屋市收入役ヘ納付スベシ
若シ右期限ヲ過ギ完納セザルトキハ其ノ財産差押ノ處分ヲ爲スベシ

昭和　年　月　日

名古屋市長　氏　名印

（加除錄第二號三四六）

第七號樣式ノ一

納付原簿

現	名古屋市	區	町	丁目	番地	納	何	尿尿汲取手數料	塵灰處理手數料	督促手數料	何額何種何額手數料	市稅其他督促手數料	金
	昭和	年度	普通	使用料手數料	手數料								千　百　拾　円　拾　錢

印附日收領

納付書

現	名古屋市	區	町	丁目	番地	納	何	尿尿汲取手數料	塵灰處理手數料	督促手數料	何額何種何額手數料	市稅其他督促手數料	金
	昭和	年度	普通	使用料手數料	手數料								千　百　拾　円　拾　錢

印附日收領

（加除錄第二號三四七）

第七號樣式ノ二

納付書

右納付候也	譯內	尿尿汲取手數料	塵灰處理手數料	督促手數料	金
		千　百　拾　円　拾　錢			

印附日收領

三ヨリ効力ヲ生ズ	本領收證ハ市區役所內取扱銀行ノ領收月日印押捺	右領收ス	名古屋市收入役	名	氏	金	昭和　年度	普通	使用料手數料	手數料	尿尿汲取手數料	塵灰處理手數料	督促手數料	何額何種何額手數料	市稅其他督促手數料	納	何	尿尿汲取手數料	塵灰處理手數料	督促手數料	何額何種何額手數料	市稅其他督促手數料	來納	現	名古屋市	區	町	丁目	番地
						千　百　拾　円　拾　錢																							

印附日收領

納金取扱時間　平日午後三時半限ニ土曜日午前二時限

第八號樣式

第　　號

名古屋市　　區　　町　　丁目　　番地

殿

領　収　證

金	円　錢	昭和　年度　期分	塵灰處理手數料
金		昭和　年度　期分	屎尿汲取手數料
金			督促手數料
金			增手數料

上記金額領収候也

昭和　年　月　日

名古屋市作業部出張所區　収入事務員

本領収證ハ複寫式トス
本書ハ一冊百枚綴トス

備考
1
2

本領収證ニ書ハレタル領収事務員ノ印ナキモノハ無効トス

（加除錄第二號三四九）

書證收領（過）

右但元昭和年度期分名古屋市收入役氏名ニ領收ス	金	昭和年度	雜收入	過年度收入	稅外收入	新規調定分
印附日收領	何錢	何種何額手數料（塵灰屎尿）	市稅其他督促手數料			

名古屋市　區　町　丁目　番地　何　某納

本領收證ハ市區役所ヲ生ス　過年度新規調定ハ過年度納入ノ領收ヲ行フ　欄外○印ニハ効力ナシ　納期內取扱銀行ノ領收月日印押捺

備考

書付納（過）

右但元昭和年度期分納付候也	督促手數料	塵灰處理手數料	屎尿汲取手數料	內譯	金	昭和年度
印附日收領					何種何額手數料（塵灰屎尿）	市稅其他督促手數料

雜收入	過年度收入	稅外收入	新規調定分	名古屋市區町丁目番地	何某納	號番

納金取扱時間　平日午後三時半限リ　土曜日午後二時限

書付納（過）

名古屋市區町丁目番地	何某納	稅外收入	過年度收入	雜收入	昭和年度	金
印附日收領						何種何額手數料（塵灰屎尿）

市稅其他督促手數料	第七號樣式ノ二					

（加除錄第二號三四八）

第十二類　保健　第四章　汚物處理

現金出納簿兼領收證用紙受拂簿

作業部　　區出張所

（自昭和　年　月　日）
（至昭和　年　月　日）

（自昭和　年　月　日）
（至昭和　年　月　日）

自昭和　　年度
至昭和　　年度

（加除錄第二號三四九）

第十一號樣式　現金領收報告

(甲)

部長	課長	係長	主任

第　號　現金領收報告書

年度	税目	附記	金額	領收證枚數	摘要
	屎尿汲取手數料	甲種全額手數料			
	同	甲種半額手數料			
	同	乙種全額手數料			
	同	乙種半額手數料			
	塵芥處理手數料	全額手數料			
	同	半額手數料			
	督促手數料	市税其他督促手數料			
	税外收入	親規調定分			
	同	繰越分			
計					

上記ノ通リ領收ニ付報告候也
昭和　年　月　日
作業部　區出張所

上記合計金額領收濟ヲ證ス

現金領收報告書內譯用紙

(乙)

| 年度 | 期分 | 內譯 | | | | |

第十二號樣式

徴收及滯納處分囑託整理簿

部長 課長 主任	年度 期別	科目	滯納督促 金額	滯納督促 手數料	囑託 月日	囑託 番號	囑託先	現住所 氏名	摘要
		尿尿汲取手數料							
		塵灰處理手數料							
		尿尿汲取手數料							
		塵灰處理手數料							
		尿尿汲取手數料							
		塵灰處理手數料							
		尿尿汲取手數料							
		塵灰處理手數料							
		尿尿汲取手數料							
		塵灰處理手數料							
		尿尿汲取手數料							
		塵灰處理手數料							

第十三號樣式

缺損處分簿

部長 課長 主任	年度 期別	科目	滯納督促 金額	滯納督促 手數料	住所	氏名	收入役	備考
		尿尿汲取手數料						
		塵灰處理手數料						
		尿尿汲取手數料						
		塵灰處理手數料						
		尿尿汲取手數料						
		塵灰處理手數料						
		尿尿汲取手數料						
		塵灰處理手數料						
		尿尿汲取手數料						
		塵灰處分手數料						
		尿尿汲取手數料						
		塵灰處分手數料						

（加除錄第二號三五二）

第十四號樣式

缺損調書

告知書番號	年度	期別	科目	滯納督促 金額	滯納督促 手數料	囑託 月日	住所	氏名	事由
			尿尿汲取手數料						
			塵灰處分手數料						
			尿尿汲取手數料						
			塵灰處分手數料						
			尿尿汲取手數料						
			塵灰處分手數料						
			尿尿汲取手數料						
			塵灰處分手數料						
			尿尿汲取手數料						
			塵灰處分手數料						
			尿尿汲取手數料						
			塵灰處分手數料						

右事由ニ依リ缺損相成可然哉

●名古屋市清掃區作業事務所竝同出張所設置ノ件

昭和十九年二月十二日
告示第三十二號

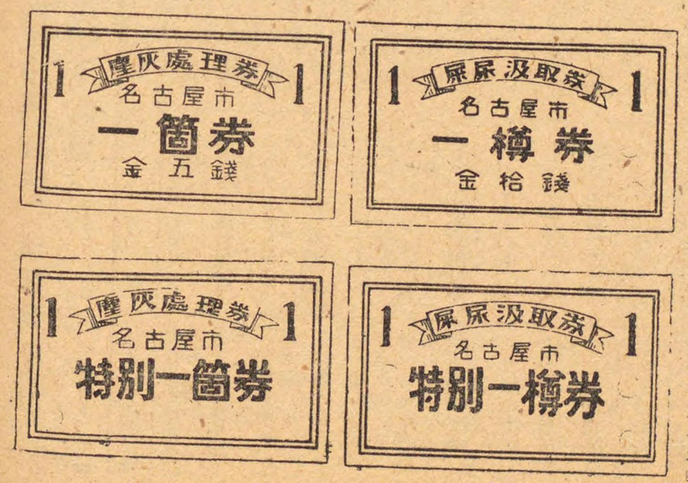
名稱	位置	管轄區域
名古屋市第一清掃區作業事務所	名古屋市千種區役所構内	名古屋市千種區昭和區一圓
名古屋市第一清掃區昭和出張所	名古屋市昭和區役所構内	名古屋市昭和區一圓
名古屋市第二清掃區作業事務所	名古屋市東區役所内	名古屋市東區、北區一圓
名古屋市第二清掃區北出張所	名古屋市北區役所内	名古屋市北區一圓
名古屋市第三清掃區作業事務所	名古屋市榮區長畝町三丁目五番地	名古屋市西區、中村區一圓
名古屋市第三清掃區中村出張所	名古屋市中村區役所構内	名古屋市中村區一圓
名古屋市第四清掃區作業事務所	名古屋市榮區役所内	名古屋市榮區、中區、熱田區一圓
名古屋市第四清掃區中出張所	名古屋市榮區役所内	名古屋市中區一圓
名古屋市第四清掃區熱田出張所	名古屋市熱田區役所内	名古屋市熱田區一圓
名古屋市第五清掃區作業事務所	名古屋市瑞穗區瑞穗町田光八二番地	名古屋市瑞穗區、南區一圓
名古屋市第五清掃區南出張所	名古屋市南區役所構内	名古屋市南區一圓
名古屋市第六清掃區作業事務所	名古屋市港區役所構内	名古屋市港區、中川區一圓
名古屋市第六清掃區中出張所	名古屋市中川區役所構内	名古屋市中川區一圓

（加除錄第三號三六一）

屎尿汲取券及塵灰處理券ノ樣式

昭和十九年三月十一日告示第六十號

改正　昭和十九年七月八日告示第百七十二號



（加除錄第三號三六二）

第五章　衛生研究所其ノ他

●名古屋市衛生研究所條例

昭和十九年七月十五日
條例第十四號

第一條　名古屋市衛生研究所ハ衛生ノ研究並ニ指導ヲ爲ス

第二條　衛生研究所ニ試驗研究等ヲ依賴セントスル者ニ對シテハ左ノ範圍内ニ於テ市長ノ定ムル手數料ヲ徵收ス

一　檢査料　一件　五十圓以内
二　製作料　一件　二十圓以内
三　文書料　一件　五圓以内

特ニ期日ヲ指定シ又ハ費用ヲ要シ前各號ニ依リ難キ場合ノ手數料ニ付テハ其ノ都度市長之ヲ定ム

第三條　市長ハ適當ト認ムル者ニ對シ一月百圓以内ノ使用料ヲ徵收シテ衛生研究所ノ設備ノ一部ヲ使用セシムルコトヲ得

第四條　市長特別ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ使用料及手數料ヲ減免スルコトヲ得

第五條　使用料及手數料ハ之ヲ前納セシム但シ市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ後納セシムルコトヲ得

第六條　既納ノ使用料及手數料ハ特別ノ事由アル場合ノ外之ヲ還付セズ

第七條　供試品ハ特別ノ事由アル場合ノ外之ヲ還付セズ

第八條　衛生研究所ノ使用ニ關シ必要アルトキハ入所者ノ數等ヲ制限シ又ハ退所ヲ命ズルコトアルベシ

第九條　本條例又ハ本條例ニ基ク規程ニ違反シタル者其ノ他必要アリト認メラルル者ニ對シテハ依賴及使用ヲ拒否シ又ハ停止シ若ハ其ノ承認ヲ取消スコトアルベシ

第十條　衛生研究所ハ衛生上必要ナル藥劑其ノ他ヲ製作シ別ニ市長ノ定ムル價格ヲ以テ賣拂フコトヲ得

第十一條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
衛生試驗所手數料條例ハ之ヲ廢止ス

（加除錄第三號三六三）

●名古屋市衛生研究所條例施行細則

昭和十九年七月十五日
規則第四十九號

第一條　名古屋市衛生研究所（以下研究所ト稱ス）ニ試驗研究等ヲ依賴セントスルモノハ依賴書ニ供試品ヲ添ヘ願出ヅベシ但シ供試品變敗シ易キ場合其ノ他必要ト認ムルトキハ別ニ期日ヲ指定シテ提出セシム

第二條　研究所ハ供試品不可抗力ノ爲毀損又ハ滅失シタル場合ハ其ノ責ニ任ゼズ

第三條　名古屋市衛生研究所條例（以下條例ト稱ス）第二條ニ依ル手數料左ノ如シ

一　檢査料

醫學的檢査

喀痰	五十錢以上
糞便	一圓五十錢以下
尿	五十錢以上
血液及血清	二圓五十錢以下
細菌ノ診定	二圓五十錢以上
健康診斷	五十錢以上
レントゲン線應用檢査	五圓以下
胃內容物檢査	五十錢以上
胃液	九圓以下
腦脊髓液檢査	二圓五十錢
乳汁	一圓

理化學的檢査

飲食物	一圓以上十圓以下
藥品	三圓以上十五圓以下
消毒藥殺菌劑等	五圓以上十圓以下
水及氷雪	一圓以上二十五圓以下
鑛泉	三圓以上二十五圓以下
油類	三圓以上十五圓以下
空氣	五圓以上三十圓以下
肥料類ノ性質定量分析	十圓以內
合有成分中ノ一成分檢査	六圓
體溫器檢査	五十錢
裁判所關係諸品ノ試驗	二圓以上五十圓以下
榮養學的檢査	
榮養學的檢査	三圓以上三十圓以下
獻立一食ニ付	五十錢以上一圓以下
檢査濟封緘料	十錢以上二圓以下

二　製作料

ワクチン類	十錢以上六圓以下
培養基類	十錢以上三十錢以下
試藥類	五十錢以上五圓以下
消毒藥類一本ニ付	二十五錢以上七圓五十錢以下

三　文書科

邦文成績書及鑑定書謄本	十錢以上三十錢以下
戰課文一枚ニ付	一圓
成績書附屬文書謄本	二十錢以上五十錢以下
レントゲン寫眞燒付	二十錢以上八十錢以下
普通證明書一通ニ付	三十錢
質疑回答一件ニ付	一圓以上五圓以下

第四條　依頼事務ノ爲職員ノ出張ヲ要スル場合ニ於テハ本市ノ旅費ニ關スル規程ニ依ル旅費並ニ試驗用器具運搬費等ヲ依頼者ニ於テ負擔スベシ

第五條　條例第二條ニ依リ設備ノ一部ヲ使用セントスルモノハ設備使用願ヲ提出スベシ

（加除錄第三號三六四）

前項ニ依ル設備使用料左ノ如シ但シ附屬器具電氣水道及調味料等ハ設備使用者ノ負擔トス

イ　研究室	一ケ月十五圓
ロ　榮養講習室	一回十圓

設備使用者ハ凡テ所長ノ指揮ヲ受クベシ

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ使用料及手數料ヲ減免ス

一　一時ニ同種多數ノ事項ヲ依頼スルトキ

二　本市職員、市立學校、幼稚園、圖書館ノ職員並ニ其ノ他之ニ準ズル者ノ任用採用等ノ爲普通身体檢査ヲ行フトキ

三　法令ニ依リ扶助又ハ救恤ヲ受クル者其ノ他無資力者ニシテ其ノ居住地ノ區長又ハ方面委員ノ證明書ヲ提出スルトキ

四　其ノ他所長ニ於テ必要アリト認ムルトキ

第七條　官公署、公共團體ノ依頼又ハ使用ニ係ルトキ其ノ他所長ニ於テ特ニ必要ト認ムルトキハ使用料及手數料ヲ後納セシムルコトヲ得

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ使用料及手數料ノ全部又ハ一部ヲ還付スルコトアルベシ

一　研究所ノ都合ニ依リ依頼事項ヲ處理シ得ザルニ至リタルトキ又ハ處理ニ着手前依頼ノ取消又ハ變更ヲ願出タルトキ

二　設備使用開始前ニ許可ノ取消又ハ變更ヲ願出デ相當ノ理由アリト認ムルトキ

三　不可抗力ニ依リ設備ノ使用不可能トナリタルトキ

四　其ノ他所長ニ於テ必要アリト認ムルトキ

第九條　研究所ニ於テ檢査ヲナシタル物品及同種ノモノニ付テハ其ノ容器包紙等ニ研究所ノ保證又ハ試驗濟ノ表示ヲナシ或ハ廣告揭示ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合試驗成績ヲ表示スルトキハ其ノ成績書ノ全文ヲ記載スベシ

第十條　條例第十條ニ依ル製作品賣拂價格ハ其ノ都度市長ノ決裁ヲ經テ所長之ヲ定ム

第十一條　本細則施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長ノ決裁ヲ經テ所長之ヲ定ム

附　則

本規則ハ名古屋市衛生研究所條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

衛生試驗所規程ハ之ヲ廢止ス

（加除錄第三號三六五）

●特別健康地區規程

昭和十一年八月二十日
告示第四百七十三號

第一條　特別健康地區トハ市ノ指導ノ下ニ自治的ニ保健衛生事業ノ整備徹底ヲ期スル地域ニシテ市長ノ指定シタルモノヲ謂フ

前項ノ地區ハ特別ノ事情ナキ限リ小學校兒童通學區域ニ依ル

第二條　特別健康地區ニ於テ行フ事業ノ概目左ノ如シ

一　環境改善竝清掃ニ關スル事項
二　保健衛生施設ノ擴充竝統制連絡ニ關スル事項
三　傳染病ノ豫防ニ關スル事項
四　母性竝乳幼兒保護指導ニ關スル事項
五　家庭衛生ノ指導普及ニ關スル事項
六　結核、花柳病、トラホーム竝寄生蟲病等ノ豫防ニ關スル事項
七　醫療救護ニ關スル事項
八　青少年衛生ニ關スル事項
九　保健衛生ノ調査研究ニ關スル事項

（加除錄第三號三六六）

一〇　其ノ他一般保健衛生ニ關スル事項

第三條　特別健康地區ノ指定ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ市長ニ申出ツルモノトス

一　地區ノ名稱
二　事務所所在地
三　代表者ノ住所氏名
四　事業ノ概目竝執行方法
五　經費支辨ノ方法

指定後前項各號ニ異動アリタルトキハ速ニ其旨市長ニ通告スヘシ

第四條　市長必要アリト認ムルトキハ特別健康地區事業ノ指導ニ關スル重要事項ヲ調査審議スル爲メ委員會ヲ設クルコトアルヘシ

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●特別清淨蔬菜栽培地指定規程

昭和十二年十一月十三日
告示第六百四十二號

第一條　特別清淨蔬菜栽培地トハ市ノ指導監督ノ下ニ農事改良實行組合カ屎尿ヲ使用セス蔬菜ヲ栽培スル圃場ニシテ市長ノ指定シタルモノヲ謂フ

第二條　指定地ニ於テハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　屎尿ヲ使用セサルコト
二　灌水ニハ井戸水ヲ使用シ水田、溝渠ノ汚水又ハ川水等ヲ使用セサルコト
三　既設ノ屎尿溜ハ之ヲ撤去シ又ハ之ヲ清掃消毒シテ調合液肥溜又ハ灌水溜ニ變更スルコト
四　指定地ニハ井戸、用水溜、擔桶、柄杓、調合液肥溜及生產品ノ洗場ヲ設置スルコト
五　指定地ニ於テ使用スル擔桶、柄杓等ニハ「清淨蔬菜指定地專用」ト墨書シ且指定地外ニ於テ使用スルモノト嚴重ナル區別ヲ爲スコト
六　指定地ト之ニ隣接スル普通耕地トノ境界ニハ兩地域ヲ區分スル柵ヲ設ケ且市ノ指定地ナルコトヲ表示スル標札ヲ立ツルコト
七　常ニ除草、病虫害驅除及圃場ノ清潔保持ニ留意シ生產品ノ清淨化ニ努力スルコト

第三條　指定地生產品及圃場ノ土壤ニ對シテハ隨時ニ疫學的竝ニ寄生蟲病學的檢査ヲ行フモノトス　但シ右檢査ノ爲使用シタル生產品ノ代償ハ生產者ノ負擔トス

第四條　前條檢査ノ結果ニ依リ免疫學上竝寄生蟲病學上危險ナシト認メラレタルモノニ對シテハ「名古屋市清淨蔬菜指定地產」ト明記シタル證票ヲ附スヘシ

第五條　指定ヲ受ケントスル組合長ハ指定申請書ヲ作成シ市農會ヲ經テ市長ニ提出スルモノトス

前項申請書ニハ栽培設計書ヲ添附スルノ外希望耕作人ヨリ市ノ指示ニ違背セサル旨ノ誓約書ヲ徵シ之ヲ添附スルモノトス

第六條　本規程ニ違背シ若ハ不正ノ行爲アリタル場合又ハ生產品ノ疫學

（加除錄第一號二一七）

的又ハ寄生蟲病學的檢査ノ結果監督上必要アリト認ムルトキハ組合ノ一部又ハ全部ニ對シ圍場ノ指定ヲ取消シ證票ノ使用ヲ禁止スルコトアルヘシ

●名古屋市立武道場條例

昭和十二年六月十九日
條例第十八號

第一條　名古屋市立武道場ヲ使用セントスル者ハ市長ノ承認ヲ受クヘシ

第二條　本場ヲ使用セントスル者ハ左ノ區分ニ依ル使用料ヲ前納スヘシ

	晝間午前八時ヨリ午後五時マデ	夜間午後六時ヨリ午後十時マデ	一日
劍柔道場	四圓	五圓	八圓
弓場	三圓	三圓	四圓
相撲場	二圓	二圓	三圓

市長ハ特別ノ事由アリト認メタルトキハ前項ノ使用料ヲ減免スルコトヲ得

第三條　特ニ費用ヲ要スル講習ニ在リテハ其ノ都度市長ノ定ムル所ニ從ヒ講習料ヲ徵收スルコトアルヘシ

第四條　既納ニ係ル使用料及講習料ハ之ヲ還付セス　但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五條　本條例ニ定ムルモノノ外本場ノ管理並本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市墓地及葬齊場使用條例

大正三年二月四日
條例第一號

改正　大正三年九月三十日條例第九號　大正四年一月二十六日條例第一號　大正四年四月九日條例第二號　大正八年十一月十七日條例第二號　大正四年六月二十一日條例第六號　昭和三年四月一日條例第九號ノ二　昭和四年三月十四日條例第一號　昭和六年三月三十一日條例第五號　昭和十年四月八日條例第七號

第一條　墓地及葬齊場ヲ使用セムトスル者ハ市長ニ願出テ其ノ承認ヲ受クヘシ

前項ニ於テ葬齊場トハ火葬場、葬儀場及其ノ附屬施設物タル遺骸保管室、休憩室、葬儀自動車、燒却所等ヲ謂フ　以下同シ

第二條　墓地及葬齊場使用ノ承認ヲ受ケタル者ハ左ノ區別ニ依リ使用料ヲ納付スヘシ

一　墓　地　別表ニ定ムル所ニ依ル
二　火葬場
　遺骸一體　一圓以下　十圓以下
三　葬儀場
　一回　一圓以上　十圓以下
四　葬儀自動車
　一回一臺　一圓以上　三圓以下
五　遺骸保管室
　一棺一日　五十錢以上　一圓以下
六、休憩室
　一回一室　五十錢以上　一圓以下
七、燒却場
　斃獸一頭　五十錢以上　十五圓以下

第三條　市長ハ特別ノ事由アリト認ムルトキハ前條ノ使用料ヲ減免スルコトヲ得

第四條　市長ハ必要アリト認ムルトキハ墓地及葬齊場ヲ他ノ用途ニ使用ノ許可ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於ケル使用料ニ關シテハ市長之ヲ定ム

第五條　市長ハ墓地及葬齊場ノ使用ニ關シ管理上必要ナル制限ヲ爲スノ外使用ノ承認若ハ許可ニ付必要ト認ムル條件ヲ附シ又ハ負擔ヲ命ズルコトヲ得

第六條　使用料ハ承認若ハ許可ノ際之ヲ前納セシム　但シ市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七條　既納使用料ハ之ヲ還付セズ　但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ市長ハ既納使用料ノ全部若ハ一部ヲ還付スルコトヲ得

一、使用承認ヲ受ケタル墓地ヲ使用前豫メ市長ノ承認ヲ受ケ返地シタルトキ
二、第八條第一號ニ該當シタルトキ
三、其ノ他市長ニ於テ必要アリト認メタルトキ

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ市長ハ使用ノ承認又ハ許可ヲ取消シ使用ヲ禁止シ又ハ使用箇所ノ變更其ノ他必要ナル處置ヲ命ズルコトヲ得

一、管理上支障アリト認メタルトキ
二、本條例又ハ本條例ニ基ク規程ニ違反シタルトキ
三、使用承認又ハ許可ノ條件ニ違反シタルトキ
四、公益上其ノ他市長ニ於テ必要アリト認メタルトキ

第九條　本條例ニ定ムルモノノ外墓地及葬齊場ノ管理並本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例施行ノ日ハ市長之ヲ定ム（昭和十年五月二十八日告示第二百六號ヲ以テ昭和十年六月一日ヨリ施行）

從前ノ規定ニ依リ墓地ノ使用許可ヲ得タルモノハ本條例ニ依ル墓地ノ使用承認ヲ受ケタルモノト看做ス

墓地及葬齊場ノ使用ニシテ本條例施行前ヨリ繼續スル場合ノ使用料ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル　但シ別表第四號ノ規定ニ該當スル場合ハ此ノ限リニ在ラズ

別表

一、墓地使用料表

面積	單位	一等地	二等地	三等地	四等地	五等地
一平方米	一平方米ニ付	円 一	円 一	円 一	円 一、〇〇	円 〇、五〇
二〃	一平方米ニ付	一	一	一	一、一〇	〇、五五
三〃	一平方米ニ付	六、〇〇	四、〇〇	二、〇〇	一、二〇	〇、六〇
四〃	一平方米ニ付	六、五〇	四、三〇	二、二〇	一、三〇	〇、六五

五〃	米ニ付一平方	七、〇〇	四、六〇	二、四〇	一、二〇
六〃	米ニ付一平方	七、五〇	四、九〇	二、六〇	一、三〇
七〃	米ニ付一平方	八、〇〇	五、二〇	二、八〇	一、四〇
八〃	米ニ付一平方	八、五〇	五、五〇	三、〇〇	一、五〇
九〃	米ニ付一平方	九、〇〇	五、八〇	三、二〇	一、六〇
一〇〃	米ニ付一平方	九、五〇	六、二〇	三、四〇	一、七〇

二、使用面積十平方米以上一平方米ヲ超ユル毎ニ使用料單位ハ一平方米ニ付一等地ニ在リテハ五十錢、二等地ニ在リテハ三十錢、三等地ニアリテハ二十錢、四等地ニ在リテハ十錢、五等地ニアリテハ五錢ヲ追增ス

三、市長ノ定メタル地割ノ爲一平方米未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ其ノ親地ノ標準ニ依リ使用料額ヲ算定ス

四、擴張使用ニ對スル使用料ニ關シテハ市長之ヲ定ム

名古屋市墓地及葬齋場使用條例施行細則

大正三年二月十二日告示第十號

改正　大正三年八月六日告示第九十九號　昭和十年五月二十七日告示第二百四號　昭和十年九月九日告示第二百九十四號　昭和十八年三月二十二日告示第六十二號

第一條　墓地及葬齋場ノ使用承認又ハ許可ヲ願出デムトスルモノハ別記様式（第一號、第二號、第三號）ニ依ル願書ヲ墓地及葬齋場事務所長（以下所長ト稱ス）ニ提出スベシ

第二條　墓地ハ本市ニ本籍若ハ住所ヲ有スルモノニ限リ之ガ使用ヲ承認シ其ノ使用面積ハ在ノ範圍内トス　但シ特別ノ事由アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一、一等地及二等地　三平方米以上　百平方米以内
二、三等地　三平方米以上　五十平方米以内
三、四等地　一平方米以上　二十平方米以内
四、五等地　一平方米以上　十平方米以内

墓地ノ位置ハ使用者之ヲ選定スルコトヲ得　但シ市長必要アリト認ムル場合ハ位置及面積ノ指定ヲ爲スコトアルベシ

第三條　墓地使用ノ承認ヲ爲シタルトキハ別記様式（第四號）ニ依ル使用券ヲ交付ス

第四條　葬齋場使用料ハ左ノ通トス

一、火葬場
寢棺　十二歳以上　遺骸一體　八圓
但シ大火爐使用ノ場合ハ二圓ヲ增徵ス
十二歳未滿　遺骸一體　六圓
死、流産兒　遺骸一體　二圓
座棺　十二歳以上　遺骸一體　五圓
但シ大火爐使用ノ場合ハ一圓ヲ增徵ス
十二歳未滿　遺骸一體　三圓
死、流産兒　遺骸一體　一圓
二、葬儀場　一回（四時間以内）　七圓
第一種　一回（四時間以内）　五圓
第二種　一回（四時間以内）　三圓
第三種　一回（四時間以内）　二圓
第四種　一回（四時間以内）　一圓
第五種
三、葬儀自動車
靈柩用　一回一臺　二圓五十錢
四、遺骸保管室
寢棺　一棺一日（二十四時間以内）　一圓
座棺　一棺一日（二十四時間以内）　五十錢
五、休憩室　一回一室（五時間以内）　五十錢
六、燒却所
斃獸
1、牛、馬又ハ之ト同等大ノモノ　一頭　十二圓
2、羊、豚又ハ之ト同等大ノモノ　一頭　五圓
3、犬又ハ之ト同等大ノモノ　一頭　一圓
4、猫、幼犬又ハ之ト同等大ノモノ　一頭　五十錢

第五條　市内ニ在ル寺院等ニシテ其ノ墓地改廢等ノ爲一時ニ百平方米以上、墓石一基ニ付四平方米未滿ノ墓地ヲ使用スル場合ニ限リ其ノ位置等級、面積ヲ指定シ使用料ヲ左ノ通減額ス、面積ニ關シ制限外ノ使用ヲ爲ス場合ト雖市長特別ノ事由アリト認ムルトキ亦同ジ

第十二類　保　健　第五章　衛生試驗所其ノ他

死、流産兒　遺骸一體　二圓
二、葬儀場
第一種　一回（四時間以内）　七圓
第二種　一回（四時間以内）　五圓
第三種　一回（四時間以内）　三圓
第四種　一回（四時間以内）　二圓
第五種　一回（四時間以内）　一圓
三、葬儀自動車
靈柩用　一回一臺　二圓五十錢
四、遺骸保管室
寢棺　一棺一日（二十四時間以内）　一圓
座棺　一棺一日（二十四時間以内）　五十錢
五、休憩室　一回一室（五時間以内）　五十錢
六、燒却所
斃獸
1、牛、馬又ハ之ト同等大ノモノ　一頭　十二圓
2、羊、豚又ハ之ト同等大ノモノ　一頭　五圓
3、犬又ハ之ト同等大ノモノ　一頭　一圓
4、猫、幼犬又ハ之ト同等大ノモノ　一頭　五十錢

第五條　市内ニ在ル寺院等ニシテ其ノ墓地改廢等ノ爲一時ニ百平方米以上、墓石一基ニ付四平方米未滿ノ墓地ヲ使用スル場合ニ限リ其ノ位置等級、面積ヲ指定シ使用料ヲ左ノ通減額ス、面積ニ關シ制限外ノ使用ヲ爲ス場合ト雖市長特別ノ事由アリト認ムルトキ亦同ジ

二等地　一平方米ニ付　四圓八十錢
三等地　一平方米ニ付　二圓五十錢
四等地　一平方米ニ付　一圓五十錢
五等地　一平方米ニ付　七十五錢

第六條　墓地ヲ擴張使用セムトスルモノハ使用券ヲ添ヘ市長ニ願出テ其ノ承認ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テハ左ノ各號ニ依リ使用料ヲ徵收ス　但シ前條ニ依ル使用ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

一、同等位ニシテ接續地ナルトキハ前後ノ面積ヲ合算シ條例別表第一號及第二號ノ標準ニ依リ既納使用料ノ不足額ヲ徵收ス
二、同等位ニシテ接續セサルトキハ前後ノ面積ヲ合算シ條例別表第一號及第二號ノ標準ニ依リ擴張地ニ對スル使用料ヲ徵收ス
三、前後ノ等位異ナルトキハ其ノ面積ヲ合算シ條例別表第一號及第二號ノ標準ニ依リ擴張地ニ屬スル等位ニ依リ計算シ擴張地ニ對スル使用料ヲ徵收ス

第七條　條例第四號ニ依ル墓地及葬齋場ノ使用ハ其ノ位置ヲ指定シ二百平方米ノ範圍内トス

前項ノ場合ニ於ケル使用料ハ左ノ範圍内ニ於テ市長其ノ都度之ヲ定ム

土地　一平方米ニ付　月額三錢以上　十錢以内
建物　一平方米ニ付　月額三十錢以上　二圓以内

第八條　墓地使用者市内ニ住所ヲ有セサルトキハ市内ニ代理人ヲ定メ連署ノ上屆出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第九條　墓地使用者墓碑、石垣、柵欄、圍障等ノ施設若ハ埋葬ヲ爲サム

トスルトキハ使用券ヲ提示シ所長ノ指揮ヲ受クベシ

第十條　墓地使用者ハ常ニ其ノ使用區域ヲ清掃シ墳墓其ノ他ニシテ危險顚倒ノ虞アルトキハ直ニ修理ヲ加フベシ

使用者前項ノ義務ヲ履行セザルトキ又ハ繼承者ナキニ至リタルトキハ其ノ使用ヲ取消シ墳墓アルトキハ之ヲ六等地ニ改葬スルコトアルベシ

第十一條　火葬場使用者ハ所長ノ指定セル日時ニ遺骨、遺物ノ引取ヲ爲スベシ

前項ノ日時ニ遺骨、遺物ノ引取ヲ爲サザルトキハ市長ニ於テ假埋葬ニ付シ其ノ費用ヲ徵收スルコトアルベシ

遺骨、遺物ノ引取後ニ於ケル殘骨灰ハ適宜處分スルモ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十二條　遺骸保管室ノ使用ハ一遺骸ニ付二日ヲ超ユルコトヲ得ス　但シ市長ニ於テ已ムヲ得サル事由アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　條例第七條但書ノ規定ニ依ル還付額ハ左ノ各號ニ依ル

一、第一號ノ場合ハ返地面積ニ應ジ既納使用料ノ半額

二、第二號及第三號ノ場合ハ其ノ都度事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

使用中ノ墓地ヲ改葬等ノ爲返地スルモノハ原形ニ復スベシ

第十四條　墓地使用者使用券ヲ毀損若ハ亡失シタルトキ又ハ記載事項ニ變更アリタルトキハ書替又ハ再交付ノ請求ヲ爲スベシ　但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ戸籍抄本又ハ寄留抄本ヲ添附スベシ

一、相續ニ依リ墓地使用ヲ繼續セムトスルトキ

二、改氏名シタルトキ

三、本籍地又ハ住所ニ異動アリタルトキ

第十五條　墓地使用ハ相續ニ依ルノ外他人ニ承繼セシムルコトヲ得ス

但シ寺院等ニ名義ノ變更ヲ要スル場合ハ連名ニヨリ相續人ナキ場合ハ親族ヨリ其ノ事由ヲ具シ市長ニ願出テ特ニ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條　本市住民ニシテ墓地又ハ葬齋場ノ使用料ヲ納付スルノ資力ナシト認ムル者ニ對シテハ墓地ニ在リテハ六等地一平方米以内ヲ使用セシメ、火葬場ニ在リテハ座棺爐ヲ、葬儀場ニ在リテハ第五種一回ヲ、葬儀自動車ニ在リテハ靈柩用一回一台ノ使用ノ場合ニ限リ其ノ使用料ノ免除ヲ爲スコトアルベシ

免除ノ願出ニハ區長ノ證明書ヲ添附スベシ

第十七條　本細則施行ニ關シ必要ナル規定ハ市長ノ認定ヲ經テ所長之ヲ定ム

附　則

本細則ハ名古屋市墓地及葬齋場使用條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

八事墓地使用願

（寺院等ニアリテハ住職及信徒總代ノ連署ヲ以テ願出スベシ）

墓地豫定圖番號　第　號

等位及面積　等地　平方米

使用料　金　圓　錢

右使用御許可相成度候也

昭和　年　月　日

本籍

名古屋市長　殿

住所

第二號樣式

八事火葬場竝葬儀自動車使用願

死亡者氏名年齡			
使用年月日	昭和　年　月　日　午　時		
大人、小人及死流産兒ノ別			
棺ノ種別	寢棺、座棺		
遺骸保管室	寢棺、座棺		
葬儀自動車	臺		
使用料	圓　錢	出棺場所及目標	

右使用御許可相成度候也

追而火葬骨揚ケ後ノ殘骨灰ハ御市ニ於テ適宜御處理相願度申添候

住所

氏名

死者トノ續柄

名古屋市長　殿

第三號樣式

八事墓地及葬齋場土地建物使用願

一、使用ノ目的

一、使用ノ場所竝ニ面積

一、使用料

一、使用許可ノ期間

右ノ通リ使用御許可相成度保證人連署ノ上此段御願申上候

昭和　年　月　日

住所

氏名

住所

保證人

名古屋市長　殿

第四號樣式

番號	第　號		
墓籍番號	等地　第　號		
使用者	本籍		
	住所		
	氏名		
墓地使用面積	等地　平方米		

墓地使用許可條件

名古屋市墓地及葬齋場使用條例竝ニ名古屋市墓地及葬齋場使用條例施行細則ヲ遵守スルモノトス

注　意

一、墓地使用權ハ相續ニ因ル場合及寺院等ニ名義變更ノ場合ノ外他人ニ移轉スルコトヲ得ズ相續ニ依リ墓地使用權ヲ繼承セントスルモノハ其ノ事由ヲ具シ戸籍抄本ヲ添ヘ使用券ノ書換ヲ請求スベシ使用者ノ改氏名若ハ本籍住所ニ異動アリタルトキ亦同ジ

二、墓地使用券ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ書替若ハ再下付ヲ請求スベシ

三、墓地使用者ハ各自其ノ使用區域内ヲ掃除シ墳墓竝ニ附屬建物又ハ樹木等危險顚仆ノ虞アルトキハ直ニ修理ヲ加フベシ

四、墓地使用ノ際ハ其ノ都度使用券ヲ墓地事務員ニ呈示スベシ

五、墓地ニ碑墓石垣柵欄圍障ヲ設ケントスルトキハ墓地事務員ニ申出デ指揮ヲ受クベシ

使用券	
使用料	金　圓　錢
許可年月日	年　月　日
代理人住所氏名	
摘要	

名古屋市長

●屠場使用規則

明治四十三年七月十九日告示第二十三號

第一條　屠場ハ屠場法ニ從ヒ食用ニ供スル獸畜ヲ屠殺解體スル所トス

第二條　屠場ヲ使用セムトスル者ハ第一號樣式ニ依リ屠畜ノ種別、胤種牝牡、年齡、毛色、特徵（依賴ニ係ルモノハ其者ノ住所氏名）屠殺ノ日時等ヲ記載シタル書面ヲ其前日午前中ニ場長ニ屆出スベシ

第三條　大祀、禮節、國祭ノ日ハ屠場ノ使用ヲ停止ス

第四條　屠場使用時間ハ毎日午前八時ヨリ午後二時マデトス但シ七月一日ヨリ九月三十一日迄ノ期間ニ在テハ午前六時ヨリ正午十二時迄トス

埋葬者

埋火葬認許證番號	死亡ノ日時	埋火葬日時	死亡者住所氏名年齡	備考
	午　年　月　日　時	午　月　日　時		
	午　年　月　日　時	午　月　日　時		
	午　年　月　日　時	午　月　日　時		
	午　年　月　日　時	午　月　日　時		
	午　年　月　日　時	午　月　日　時		
	午　年　月　日　時	午　月　日　時		
	午　年　月　日　時	午　月　日　時		
	午　年　月　日　時	午　月　日　時		

前項ノ時間ハ時宜ニ依リ場長ニ於テ之ヲ伸縮スルコトヲ得

第五條　屠場使用者ハ獸畜ノ生體檢査ヲ受クル前屠畜稅及屠場使用料納濟ノ證ヲ場長ニ開示スベシ

第六條　屠場使用者ハ場内ノ取締ニ關シテハ總テ場長ノ指揮ニ從フベシ

（第一號樣式）

屠場使用請求書

左記獸畜屠殺ノ爲メ場使用致度此段請求候也

昭和　年　月　日

住所

氏名　㊞

名古屋市屠場長　殿

屠殺ノ日時	屠畜ノ種別	胤種	牝牡ノ別	年齡	毛色	特徵	依賴者ノ氏名

備考

●屠場使用料條例

明治四十三年四月二十三日第四號條例

改正　大正三年三月三十一日條例第三號　大正八年十二月二十七日條例第三號　昭和八年四月八日條例第七號　昭和十六年十一月二十日條例第十八號

第一條　市制第百十三條ニ依リ屠場使用者ヨリ左ノ使用料ヲ徵收ス

第十二類　保　健　第五章　衞生試驗所其ノ他

一、牛　壹頭　金壹圓四拾錢

一、馬　壹頭　金壹圓貳拾錢

一、犢、羊、豚　各壹頭　金五拾錢

但ノ市長特別ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ免除スルコトヲ得

第二條　屠場使用料ハ屠場使用請求ノ際之ヲ徵收ス

第三條　獸畜營業者若ハ獸肉販賣業者ハ年度内ニ限リ豫メ頭數ヲ定メ其頭數ニ相當スル使用料ヲ豫納スルコトヲ得

第十三類　社會事業

第十三類　社會事業

第一章　保護

●救護法取扱規程

昭和六年十二月二十八日
告示第三百八十九號

改正 昭和十六年九月三十日
告示第四百四十八號

第一條 救護法ニ依ル救護ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ別記樣式ニ依ル申請書ヲ所轄區長ニ提出スヘシ

第二條 區長前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ救護ノ種類程度及方法ニ付方面委員ノ意見ヲ徵シ左ノ區分ニ依リ之ヲ處理スヘシ

一　收容救護又ハ生業扶助ヲ爲スヘキ者ト認メタルトキハ其ノ旨市長ニ進達スヘシ

二　其他ノ場合ニ於テハ救護ノ要否ハ區長之ヲ決定ス

市長前項第一號ノ進達ヲ受ケタルトキハ救護ノ要否ヲ決定シ區長ニ之ヲ通知ス

第三條 區長第一條ニ定ムル申請ナキ場合ニ於テ救護ノ必要アリト認ムルトキハ收容救護及生業扶助ニ付テハ方面委員ノ意見ヲ徵シ直ニ市長ニ意見ヲ具申スヘシ市長ハ救護ノ要否ヲ決定シ區長ニ之ヲ通知ス

第四條 區長救護ノ開始ヲ爲シタルトキハ其ノ旨申請者ニ通知スルト共ニ遲滯ナク市長ニ報告スヘシ

區長前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ昭和六年愛知縣令第百三十一號救護法施行細則（單ニ細則ト稱ス）以下第一條ニ定ムル救護臺帳ニ所定ノ事項ヲ記載スヘシ

區長方面委員ノ意見ヲ徵シ救護ノ廢止停止、又ハ變更ヲ爲シタルトキハ前二項ノ例ニ依ル

第五條 救護ノ金錢又ハ物品ハ當月分ヲ翌月五日迄ニ區長之ヲ本人ニ交付スヘシ但シ醫療又ハ助產ノ爲メ支出スル金錢ハ之ヲ醫師、齒科醫師藥劑師又ハ產婆ニ交付スヘシ

第六條 救護金品ヲ受ケムトスル者ハ毎月二十五日迄ニ當月分ヲ區長ニ請求スヘシ

第七條 區長ハ救護法施行規則第十二條ニ依ル埋葬費支給ノ申請書ヲ受理シタルトキハ方面委員ノ意見ヲ徵シ埋葬費支給ノ要否ヲ決定シ支給ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 區長ハ常ニ被救護者ノ生活狀態ニ注意シ毎月五日迄ニ細則第十三條ニ定ムル樣式ニ準シ前月分ノ救護狀況報告書ヲ作製シ且其ノ期間內ノ救護概況ヲ具シ市長ニ報告スヘシ

第九條 區長ハ毎月七日迄ニ細則第十五條ニ定ムル樣式ニ準シ前月分ノ支出計算書ヲ作製シ縣ノ負擔スル費用ノ繰替支辨ヲ爲シタルトキハ支出ニ關スル證憑書類ヲ添附シ之ヲ市長ニ提出スヘシ

附則

本規程ハ救護法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記様式

救護申請書

救護ヲ受クヘキ者			
氏名	生年月日	職業	救護ヲ受クヘキ事由
何某			
本籍			
居住地又ハ現在地			
居住期間			

右ノ通ニ付救護被成下度候也

年　月　日　右

本人又ハ親族又ハ縁故者　何某　印

名古屋市何區長宛

備考

本申請書ハ各人別ニ作製スルモノトス

●母子保護法取扱規程

昭和十三年一月十九日告示第十八號　**改正**　昭和十六年九月三十日告示第四百四十八號

第一條　母子保護法ニ依ル扶助ヲ受ケントスルトキハ本人又ハ親族其ノ他ノ縁故者ヨリ別記第一號様式ニ依ル申請書ヲ其ノ居住地擔任ノ方面委員ヲ經テ所轄區長ニ提出スベシ

第二條　方面委員前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ實情ヲ調査ノ上別記第二號様式ニ依ル母子保護調書ヲ作成シ本人ノ戸籍謄本及本人ヲ入院セシムルノ必要アリト認ムルトキハ診斷書ヲ添ヘ申請書ト共ニ所轄區長ニ進達スベシ

方面委員扶助ヲ要スル者アルトキハ第一條ノ規定ニ依ル申請ナキ場合ト雖前項ノ規定ニ準ジ所轄區長ニ意見ヲ具申スベシ

第三條　區長第一條ノ申請書ヲ受理シ又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ意見ノ具申アリタルトキハ左ノ區分ニ依リ之ヲ處理スベシ

一　入院又ハ生業扶助ヲ爲スベキ者ト認メタルトキハ其ノ旨市長ニ進達スベシ

二　其ノ他ノ場合ニ於テハ扶助ノ要否ハ區長之ヲ決定スベシ

市長前項第一號ノ進達ヲ受ケタルトキハ扶助ノ要否ヲ決定シ區長ニ之ヲ通知ス區長ハ之ニ基キ速ニ申請者ニ通知スベシ

第四條　區長扶助ノ開始ヲ爲シタルトキハ其ノ旨申請者ニ通知スルト共ニ速ニ市長ニ報告スベシ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ方面委員ハ意見ヲ具シ區長ニ報告スベシ

一　扶助ノ廢止、停止若ハ變更ヲ爲シ又ハ子ノ養育ニ關シ注意ヲ爲スノ必要アルトキ

二　扶助ヲ受ケタル者扶助ニ要シタル費用ノ辨償ヲ爲スノ資力アルニ至リタルトキ

三　扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テ埋葬ヲ行フ者ナキトキ

區長前項各號ニ付報告ヲ受ケタルトキ入院又ハ生業扶助ニ關スルモノニ付テハ市長ニ其ノ旨進達スベシ

第六條　市長又ハ區長扶助ノ廢止、停止若ハ變更又ハ子ノ養育上必要ナル注意ヲ爲シタルトキ竝扶助及埋葬ニ要シタル費用ヲ徵收シ若ハ其ノ償還ヲ命ジ又ハ充當シタルトキハ左ノ區分ニ依リ之ヲ處理スベシ

一　入院若ハ生業扶助ノ場合ニ於テハ市長之ヲ區長ニ通知シ區長ハ之ニ基キ速ニ申請者ニ通知スベシ

二　其ノ他ノ場合ニ於テハ區長ハ之ヲ申請者ニ通知スルト共ニ速ニ其ノ旨市長ニ報告スベシ

第七條　扶助ノ金錢又ハ物品ハ當月分ヲ入院又ハ生業扶助ニ在リテハ翌月十五日迄ニ市長ヨリ其ノ他ノ場合ニ在リテハ翌月五日迄ニ區長ヨリ扶助ヲ受クル者ニ之ヲ交付ス

第八條　扶助ノ金錢又ハ物品ヲ受ケントスル者ハ當月分ヲ入院又ハ生業扶助ニ在リテハ翌月五日迄ニ市長ニ其ノ他ノ場合ニ在リテハ毎月二十五日迄ニ區長ニ請求スベシ

第九條　扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テ埋葬ヲ行ヒタル者埋葬費ノ支給ヲ受ケントスルトキハ別記第三號様式ニ依ル申請書ニ埋葬ニ關スル證憑書類ヲ添ヘ其ノ居住地擔任ノ方面委員ヲ經テ入院シ若ハ生業扶助ヲ受クル者ノ埋葬費ニ付テハ市長ニ其ノ他ノ者ノ埋葬費ニ付テハ區長ニ之ヲ提出スベシ

第十條　市長又ハ區長前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ埋葬費支給ノ要否ヲ決定シ支給ノ手續ヲ爲スモノトス

第十一條　扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テ埋葬ヲ行フ者ナキトキハ入院シ若ハ生業扶助ヲ受クル者ノ埋葬ニ付テハ市長、其ノ他ノ者ノ埋葬ニ付テハ區長之ヲ行フ

第十二條　左ノ場合ニ於テハ扶助ヲ受クル者ハ速ニ其ノ旨居住地擔任ノ方面委員ヲ經テ區長ニ屆出ヅベシ

一　居住地ニ異動アリタルトキ

二　世帯ノ構成ニ異動アリタルトキ又ハ資産若ハ收入ノ狀況ニ著シク異動アリタルトキ

三　扶助ヲ受クベキ事由消滅シタルトキ

扶助ヲ受クル者死亡シタルトキハ同一世帯ニ在ル者ハ速ニ居住地擔任ノ方面委員ヲ經テ區長ニ屆出ヅベシ

區長前二項ノ屆出アリタルトキハ入院シ若ハ生業扶助ヲ受クル者ノ屆出ニ付テハ市長ニ其ノ旨進達スベシ

第十三條　扶助ヲ受クル者左ニ掲グル事由ノ一ニ該當スルトキハ扶助ヲ停止シ又ハ廢止スルコトアルベシ

一　母子保護法又ハ母子保護法ニ基ク命令ニ依リ市長又ハ區長ノ爲シタル處分ニ從ハザルトキ

二　故ナク扶助ニ關スル調査ヲ拒ミタルトキ

三　母子保護法第七條ノ規定ニ依ル市長又ハ區長ノ注意ニ從ハザルトキ

第十四條　區長ハ常ニ扶助ヲ受クル者ノ生活狀態ニ注意シ毎月十五日迄ニ昭和十二年愛知縣令第七十號母子保護法施行細則（以下單ニ細則ト稱ス）第十二條ニ定ムル様式ニ準ジ前月分ノ扶助狀況報告書ヲ作成シ

且其ノ期間內ノ扶助概況ヲ具シ市長ニ報告スベシ

第十五條　區長ハ縣ノ負擔スル費用ノ繰替支辨ヲ爲シタルトキハ每月十五日迄ニ細則第十四條ニ定ムル樣式ニ準ジ前月分ノ繰替支辨金計算書ヲ作成シ支出ニ關スル證憑書類ヲ添ヘ市長ニ提出スベシ

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記）

第一號樣式

母子保護申請書

要扶助者					
本籍					
居住地					
母（祖母）	何某				
氏名					
生年月日					
居住始期					
職業					
保護ヲ受クベキ事由					
子	同				
同					

右母子保護法ニ依リ扶助相受度此段申請候也

昭和　年　月　日

住所

申請者　氏名　何某㊞

續柄（本人又ハ親族ハ緣故者）

區長宛

第二號樣式

母子保護調書

| 母（母又ハ祖母）氏名 | | 本籍地 | | 居住地 | | 要扶助世帶ノ狀況 | | | | |

ノ具申アリタルトキハ左ノ區分ニ依リ之ヲ處理スベシ

一　收容醫療又ハ收容助産ヲ爲スベキ者ト認メタルトキハ其ノ旨市長ニ進達スベシ

二　其ノ他ノ場合ニ於テハ保護ノ要否ハ區長之ヲ決定シ申請者ニ通知スベシ

市長前項第一號ノ進達ヲ受ケタルトキハ保護ノ要否ヲ決定シ區長ニ之ヲ通知ス區長ハ之ニ基キ速ニ申請者ニ通知スベシ

第四條　左ノ場合ニ於テハ方面委員ハ意見ヲ具シ區長ニ報告スベシ

一　醫療又ハ助産ノ廢止又ハ停止ヲ爲スノ必要アルトキ

二　醫療又ハ助産ヲ受ケタル者醫療又ハ助産ニ要シタル費用ノ辨償ヲ爲スノ資力アルニ至リタルトキ

區長前項ノ報告アリタルトキハ收容醫療又ハ收容助産ヲ受クル者ノ報告ニ付テハ其ノ旨市長ニ進達スベシ

第五條　市長又ハ區長ハ醫療又ハ助産ノ廢止、停止若ハ醫療又ハ助産ニ要シタル費用ヲ徵收シ又ハ其ノ償還ヲ命ジタルトキハ左ノ區分ニ依リ之ヲ處理スルモノトス

一　收容醫療又ハ收容助産ノ場合ニ於テハ市長之ヲ區長ニ通知シ區長ハ之ニ基キ速ニ申請者ニ通知スベシ

二　其ノ他ノ場合ニ於テハ區長之ヲ申請者ニ通知スベシ

第六條　左ノ場合ニ於テハ醫療又ハ助産ヲ受クル者ハ速ニ其ノ旨居住地擔任ノ方面委員ヲ經テ區長ニ屆出ヅベシ

一　居住地又ハ現住地ニ異動アリタルトキ

二　世帶ノ構成ニ異動アリタルトキ又ハ收支ノ狀況ニ著シク異動アリタルトキ

三　醫療又ハ助産ヲ受クベキ事由消滅シタルトキ

被保護者死亡シタルトキハ同一世帶ニ在ル者ハ速ニ居住地擔任ノ方面委員ヲ經テ區長ニ屆出ヅベシ

區長前二項ノ屆出アリタルトキハ收容醫療又ハ收容助産ヲ受クル者ノ屆出ニ付テハ市長ニ其ノ旨進達スベシ

第七條　醫療保護法施行令第八條第二項及昭和十六年九月三十日愛知縣令第九十一號醫療保護法施行細則（以下細則ト稱ス）第二十條ニ依ル承認ハ收容醫療及收容助産ニ付テハ市長其ノ他ノ場合ハ區長之ヲ爲ス

第八條　區長ハ毎年六月、九月、十二月及三月ノ末日ヲ期シ細則第六條ニ定ムル樣式ニ準ジ醫療券ノ交付狀況ヲ各事業者毎ニ取纒メ翌月八日迄ニ市長ニ報告スベシ

附　則

第九條　本規程ハ昭和十六年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十條　救護法取扱規程中左ノ通改正ス

第二條第一項第二號ヲ左ノ通改ム

二　其ノ他ノ場合ニ於テハ救護ノ要否ハ區長之ヲ決定ス

第五條中但書ヲ削ル

第十一條　母子保護法取扱規程中左ノ通改正ス

第七條中但書ヲ削ル

第一號樣式

醫療保護申請書

要保護者					
本籍地					
居住地又ハ現住地					
氏名					
生年月日					
職業					
醫療又ハ助産ヲ受クベキ事由					

右醫療保護法ニ依リ醫療（助産）相受度此段申請候也

昭和　年　月　日

住所

申請者氏名　何　某　㊞

續柄（本人又ハ親族縁故者）

區　長　宛

第二號樣式

醫療保護調書

世帶主	本籍地
氏名	居住地

（加除錄第一號二一九）

| 世帶狀況 | | | | |

●戰時災害保護法事務取扱規程

昭和十七年十月十二日
達第五十二號

第一條　戰時災害保護法（以下法ト稱ス）ニ依ル事務ノ取扱ハ別ニ定アルモノヲ除クノ外本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條　區長戰時災害ニ依リ危害ヲ受ケタル者アルトキハ直ニ其ノ狀況ヲ第一號樣式ニ依リ市長ニ報告スベシ

第三條　區長戰時災害ニ依リ危害ヲ受ケタル者アルトキハ直ニ市長ノ指示ヲ受ケ救助ヲ爲スベシ但シ事態急迫ニシテ市長ノ指示ヲ待ツノ暇ナシト認メタルトキハ避難所ノ設置及焚出ニ限リ直ニ之ガ實施ニ着手スベシ

區長前項但書ノ規程ニ依リ救助ノ實施ニ着手シタルトキハ直ニ其ノ旨市長ニ報告シ爾後ノ處置ニ關シ指示ヲ請フベシ

第四條　區長救助ヲ爲スニ當リ戰時災害保護法施行細則（以下細則ト稱ス）第二條第一項ニ定ムル限度ヲ超エテ支出ヲ爲ス必要アリト認ムルトキハ直ニ市長ノ指示ヲ受クベシ

第五條　區長法第五條ノ規定ニ依リ救助（焚出ヲ除ク）ヲ受ケントスル者アルトキハ第二號樣式ニ依ル救助願二通ヲ提出セシムベシ

區長前項ノ出願アリタルトキハ第三號樣式ニ依ル救助調書二通ヲ作成シ必要書類ヲ添附シテ市長ニ進達スベシ

第六條　區長救助ヲ行フ爲特ニ必要アリト認ムルトキハ法第七條乃至第十條及第十四條第二項ニ定ムル職權ノ發動ヲ市長ニ申請スベシ

第七條　區長救助ヲ終了シタルトキハ直ニ其ノ狀況ヲ第四號樣式ニ依リ市長ニ報告スベシ

第八條　區長法第八條ノ規定ニ依リ要救助者ヲシテ救助ノ實施ニ協力セシメタルトキハ救助協力者臺帳ニ之ヲ登錄スベシ

前項救助協力者臺帳ノ樣式ハ細則第五號樣式ニ準ズ

第九條　區長法第八條ノ規定ニ依リ救助ノ實施ニ協力スル者之ガ爲傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ直ニ救助協力者臺帳ニ所要事項ヲ記入シタル上本人又ハ其ノ遺族ニ對シ細則第十八條ニ定ムル危害證明書ノ交付方ヲ市長ニ具申スベシ

第十條　區長法第十一條ニ依リ實費ノ辨償ヲ受ケントスル者アルトキハ細則第十七條第一項ニ定ムル請求書ヲ提出セシムベシ

區長前項ノ請求書ヲ受理シタルトキハ審査ノ上意見ヲ具シテ直ニ市長ニ進達スベシ

第十一條　細則第二十一條ノ規定ニ依ル損失補償請求書ハ管理、使用、收用又ハ保管ノ目的タル施設、土地、家屋又ハ物資ノ所在地區長之ヲ受理シ審査ノ上意見ヲ具シテ直ニ市長ニ進達スベシ

第十二條　區長必要アリト認メタルトキハ戰時災害保護法施行規則（以下規則ト稱ス）第九條ノ規定ニ依ル救助費又ハ出頭旅費ヲ支拂フベシ

區長前項旅費ノ支拂ヲ爲シタルトキハ從事令書ノ裏面ニ區名年月日及「旅費金何圓何錢支拂濟」ト記載證印ノ上返付スベシ

第十三條　區長前條第一項ニ依リ支拂ヲナシタルトキハ第五號樣式ニ依ル調書及證憑書類ヲ市長ニ提出スベシ

第十四條　區長法第十二條ノ扶助金ヲ受ケントスルモノアルトキハ細則第二十條第一項ニ定ムル扶助金支給申請書ニ同條第二項ノ所要書類ヲ添附シテ之ヲ提出セシムベシ

區長前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ審査ノ上意見ヲ具シテ直ニ市長ニ進達スベシ

第十五條　區長法第十六條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケントスル者アルトキハ細則第二十四條ニ定ムル扶助願ニ細則第十八條又ハ同第四十八條ノ證明書ヲ添附シテ之ヲ提出セシムベシ

區長前項ノ扶助願ヲ受理シタルトキハ細則第二十五條第一項ニ定ムル扶助調書及戸籍謄本其ノ他必要書類ヲ添附シテ直ニ市長ニ進達スベシ

區長ニ於テ扶助ノ必要アリト認ムルモノアルトキハ第一項ノ願書提出ナキ場合ト雖細則第二十五條第二項ノ所要書類ヲ添附シテ市長ニ意見ヲ具申スベシ

第十六條　區長法第十九條ノ規定ニ依リ埋葬費ノ支給ヲ受ケントスル者アルトキハ細則第三十一條第一項ニ定ムル埋葬費給與願ニ埋葬ニ關スル經費證憑書竝死亡診斷書ヲ添附シテ之ヲ提出セシムベシ

區長前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ審査ノ上直ニ市長ニ進達スベシ

第十七條　區長扶助ヲ受クル者死亡シタル場合ニ於テ埋葬ヲ行フ者ナキトキハ直ニ市長ニ報告スベシ

第十八條　區長扶助ヲ受クル者細則第二十七條第四號ノ規定ニ依ル費用ヲ超過スル處置手術其ノ他ノ治療ヲ受ケントスル者又ハ看護若ハ移送ヲ受ケントスル者アルトキハ細則第三十三條ニ定ムル承認願ヲ提出セシムベシ但シ急迫ノ事情アルトキハ其ノ事情止ミタル後遲滯ナク願書ヲ提出セシムベシ

第十三類　社會事業　第一章　保　護

（加除錄第一號二二一）

區長前項ノ願書ヲ受理シタルトキハ審査ノ上意見ヲ具シテ市長ニ進達スベシ

第十九條　區長ニ於テ療養又ハ出產ニ關シ急速手當ノ必要アリト認ムル者アルトキハ直ニ之ガ手當ヲ開始シタル上速ニ細則第二十五條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スベシ現ニ扶助ヲ受ケツツアル者ニシテ療養又ハ出產ノ併給ヲ要スル事情生ジタルトキハ細則第三十四條第一項ニ定ムル併給願ヲ提出セシムベシ

區長前項後段ノ規定ニ依ル願書ヲ受理シタルトキハ細則第三十四條第二項ニ定ムル醫療又ハ出產券ヲ交付シタル後審査ノ上意見ヲ具シテ市長ニ進達スベシ

第二十條　區長ハ細則第三十五條ニ定ムル扶助臺帳ヲ備ヘ記載事項ニ異動アル毎ニ加除訂正スベシ

第二十一條　區長扶助ヲ受クル者願書記載ノ事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ第十五條ノ願出人又ハ之ニ代ル者ヲシテ直ニ屆出シムベシ

區長前項ノ屆出アリタルトキハ直ニ市長ニ進達スベシ

第二十二條　區長扶助ノ廢止若ハ停止又ハ扶助ノ程度若ハ方法ノ變更ノ必要アリト認ムルトキハ其ノ理由及意見ヲ具シ細則第三十七條ノ規定ニ定ムル樣式ニ依リ市長ニ報告スベシ

第二十三條　區長法第二十二條ノ給與金ヲ受ケントスル者アルトキハ細則第四十條第一項ニ定ムル給與金支給申請書ヲ提出セシムベシ

前項ノ申請ニハ細則第四十八條ノ證明書ノ外細則第二十條第二項第二號乃至第四號ノ區別ニ準ジ必要書類ヲ添附セシムベシ

第二十四條　區長前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ戰時災害保護法施行

（加除錄第一號二二〇）

令（以下令ト稱ス）第九條規則第十四條及同第十八條該當ノ有無ニ付調査シ支給ノ適否ニ關シ意見ヲ具シ直ニ市長ニ進達スベシ

第二十五條　區長法第二十三條ノ給與金ヲ受ケントスル者アルトキハ細則第四十二條第一項ニ定ムル給與金支給申請書ニ同條第二項ノ所要書類ヲ添附シテ之ヲ提出セシムベシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ所有者死亡シタルニ依リ其ノ遺族ヨリ申請アリタルトキハ細則第四十二條第二項各號ノ書類ヲ添附セシムベシ

第二十六條　區長前條ノ申請書ノ提出アリタルトキハ令第十條及規則第十六條ニ該當ノ有無ヲ調査シ其ノ支給ノ適否ニ關シ意見ヲ具シ直ニ市長ニ進達スベシ

第二十七條　區長法第二十四條ノ給與金ノ支給ヲ受ケントスル者アルトキハ細則第四十五條第一項ニ定ムル給與金支給申請書ニ同條第二項ノ所要書類ヲ添附シテ之ヲ提出セシムベシ

第二十八條　區長前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ令第十一條規則第十七條及第十八條ニ該當ノ有無ニ付調査シ支給ノ適否ニ關シ意見ヲ具シ直ニ市長ニ進達スベシ

第二十九條　區長令第十四條ノ規定ニ依リ障害扶助金又ハ障害給與金ノ加給ヲ受ケントスル者アルトキハ細則第四十七條第一項ニ定ムル加給申請書ニ同條第二項ノ所要書類ヲ添附シテ之ヲ提出セシムベシ

區長前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ審査ノ上意見ヲ具シテ直ニ市長ニ進達スベシ

第三十條　區長細則第四十八條ノ規定ニ依ル證明書交付申請書ノ提出アリタルトキハ審査ノ上意見ヲ具シテ直ニ市長ニ進達スベシ

附　則

本規程ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

戰時災害被害狀況調書

| 被害原因 | | | 人的被害 | | | 物的被害 | | |

備考
一、避難所設置ノ場所及名稱等ヲ記入スルコト
二、「假設住宅收容」ノ備考欄ニハ其ノ場所及名稱別收容實人員ヲ記入スルコト
三、人夫賃運搬費等ハ其ノ詳細ヲ備考欄ニ記入スルコト

第四號樣式

戰時災害救助狀況報告

區分	避難所設置	假設住宅收容	焚出	食品ノ給與	被服			寢具			給生活必需品	醫療		居宅		埋葬		助産		學用品		其ノ他	運搬費等	計
					貸與	給與	計	貸與	給與	計		收容	計	居宅	收容	埋葬	計	居宅	收容	教科書	文房具				
救助期間	自月日至月日																							
實人員	人										世帶人	世帶人	世帶人	世帶人	世帶人									
延人員	人																							
單價	圓																							
金額	圓																							
摘要																								

（加除錄第一號二一三）

第五號樣式ノ一

戰時災害保護法ニ依ル應急救助費支出額調書

一金　　圓

內譯

費目	單價	員數	金額	摘要
避難所費				
焚出費				
食品給與費				
被服給與費				
夏季				
冬季				
春秋季				
寢具給與費				
生活給與品給費				
醫療費				
助産費				
學用品給與費				
教科書				
文房具				
埋葬費				
人夫費				
運搬費				
何々				
計				

第五號樣式ノ二

戰時災害救助從事者出頭旅費ニ關スル繰替支拂金調書

一金　　圓

內譯

氏名	出發地	到着地	金額	備考
計				

●方面委員手當支給規程

昭和十六年十月二十五日
告示　第四百八十六號

第一條　方面委員ニハ救護法、母子保護法及醫療保護法ニ依ル職務ヲ行フニ必要ナル費用トシテ各職務ニ付年額七圓宛ノ手當ヲ支給ス

第二條　各手當ハ其ノ金額ヲ毎年三月末ニ支給ス

第三條　新ニ就任シタル者ハ其ノ月分ヨリ退職若ハ死亡シタル者ハ其ノ月迄ノ分ヲ各月割ヲ以テ支給ス

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市草薙寮規程

昭和十五年四月一日
告示　第九十九號

第一條　草薙寮ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ入寮セシム但シ現ニ十五歳以上ノ男子ヲ擁スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　母子保護法ニ依リ扶助ヲ受クル者

二　其ノ他市長ニ於テ入寮ヲ要スト認メタル者

第二條　草薙寮ニ入寮セントスル者ハ戸籍謄本ヲ添附シ別記樣式ニ依ル申請書ヲ市長ニ提出スベシ

前項ノ場合ニ於テハ市長ハ實情ヲ調査ノ上入寮ノ要否ヲ決定シ申請者ニ之ヲ通知ス

第三條　室料ハ無料トス但シ電燈料、水道料其ノ他ノ費用ハ在寮者ヲシテ負擔セシムルモノトス

第四條　在寮者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ市長ハ退寮ヲ命ズルコトヲ得

一　母子保護法ニ依ル扶助ヲ廢止セラレタルトキ

二　寮ノ秩序ヲ紊ス行爲ヲ爲シタルトキ

三　其ノ他必要ヲ認メタルトキ

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●東山寮規程

大正十五年三月三十日
告示　第三十八號

改正　昭和四年十二月二十三日告示第二百十三號　昭和六年十二月二十八日告示第三百九十號　昭和十七年四月一日告示第百三十八號　昭和十七年七月七日告示第五百二十三號

第一條　東山寮ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ入寮セシム

一　救護法ニ依リ收容救護ヲ要スル者

二　醫療保護法ニ依リ收容醫療ヲ要スル者

三　行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ依ル行旅病人其ノ同伴者及準行旅病人

四　精神病者ニシテ監督ヲ要スルモ監護義務者其ノ義務ヲ履行スル能ハザル事由ヲ有スルカ又ハ監護義務者ナク且本市ニ住所ヲ有シ又ハ住所地ナク若ハ不明ナルモ本市内ニ所在スル者

五　療養ノ途ヲ有セス且救護者ナキ癩患者及其ノ同伴者若ハ同居者ニシテ行政官廳ヨリ一時引渡ヲ受ケタル者

第二條　定員ニ餘裕アルトキハ前條ニ該當セサル者ト雖特ニ市長ニ於テ適當ト認ムル者ハ實費ヲ辯償セシメ入寮セシムルコトアルヘシ

第三條　在寮ノ必要止ミタルトキハ隨時退寮セシム

第四條　在寮者ノ親族中扶養ノ義務アル資力者判明シタルトキハ直ニ本人ニ引取ラシム

第五條　在寮者ニシテ寮則ヲ遵守セサル者ハ退寮セシム

第六條　本規程施行ニ付必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

●名古屋市若葉寮規程

昭和十五年十二月九日
告示　第三百二十一號

改正　昭和十七年七月七日告示第五百二十四號

第一條　若葉寮ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル十三歳以下ノ健康兒ヲ入寮セシム

一　救護法ニ依リ收容救護ヲ要スル者

二　行旅病人ノ同伴者トシテ行政官廳ヨリ引渡ヲ受ケタル者

三　癲豫防法ニ依リ患者ノ同伴者トシテ一時救護ヲ要スル者

第二條　定員ニ餘裕アルトキハ前條ニ該當セザル者ト雖特ニ市長ニ於テ適當ト認ムル者ハ實費ヲ徵シ入寮セシムルコトアルベシ

第三條　在寮ノ必要止ミタル時ハ隨時退寮セシム

第四條　寮長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ入寮ヲ拒否シ又ハ退寮セシムルコトヲ得

一　精神耗弱者

二　盲　者

三　聾　啞　者

四　不具癈疾者

五　不良行爲ヲ爲シ又ハ不良行爲ヲ爲ス虞アル者

六　在寮者ノ親族中扶養ノ義務アル資力者判明シタルトキ

七　在寮者定數ニ充チタルトキ

第五條　寮長ハ在寮者ニ對シ年三回以上ノ健康診斷ヲ行フベシ

第六條　寮長ハ在寮中疾病ニ罹リ應急處置ヲ要スル者ニ對シ最寄病院ニ診療ヲ受ケシムルコトヲ得

第七條　本規程施行ニ付必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本規程ハ昭和十五年十二月九日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市診療相談所條例

昭和十七年二月三日
條例　第二號

第一條　名古屋市診療相談所ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル患者ノ診療並健康相談ヲ行フ

一　醫療保護法ニ依リ居宅醫療ヲ要スル者

二　本市住民ニシテ中產以下ノ者

三　前二號ニ該當セザル者ト雖市長ニ於テ特別ノ事情アリト認ムル者

第二條　本所ハ患者ノ收容及往診ハ之ヲ行ハズ但シ急迫ノ場合又ハ已ムヲ得ザル事由アリト認ムルトキハ往診ヲ行フコトアルベシ

第三條　第一條第二號及第三號ニ掲グル者診療ヲ受ケ又ハ健康相談ヲ爲サントスルトキハ市長ノ承認ヲ受クベシ

前項ノ者ニ對シ必要アルトキハ證明書其ノ他ノ書類ヲ提出セシメ且身元調査ヲ行フコトアルベシ

第四條　前條第一項ニ掲グル者ニ對シテハ左ノ範圍内ニ於テ市長ノ定ムル使用料及手數料ヲ徴收ス但シ市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ減免スルコトヲ得

一　手術料	一回五十錢以上	七圓以下
二　處置料	一回十錢以上	七圓以下
三　藥劑料又ハ治療材料	一種一劑又ハ一日五錢以上	三十錢以下
四　文書料	一通十錢以上	二圓以下

前項各號ニ依リ難キトキハ別ニ市長ノ定ムル使用料及手數料ヲ徴收ス

第五條　使用料及手數料ハ之ヲ前納セシム但シ市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ後納セシムルコトヲ得

第六條　市長必要アリト認ムルトキハ本市ニ事務所ヲ有スル健康保險者又ハ各種共濟組合其ノ他之ニ準ズベキ團體ノ委託ヲ受ケ其ノ被保險者又ハ團體員及其ノ家族ノ診療ヲ行フコトアルベシ

前項ノ場合ニ於テハ市長ハ其ノ使用料及手數料ヲ減額スルコトヲ得

第七條　市長ハ本條例又ハ本條例ニ基ク規定ニ違反シタル者又ハ其ノ必要アリト認ムル者ニ對シテハ診療又ハ健康相談ヲ拒否スルコトアルベシ

第八條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市診療相談所條例施行細則

昭和十七年二月三日告示第三十九號

第一條　本所ニ於テ診療ヲ受ケ又ハ健康相談ヲ爲サントスル者ハ所長ニ申出デ診療券ノ交付ヲ受クベシ但シ醫療保護法ニ依リ居宅醫療ヲ要スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ場合所長ハ受療資格ヲ調査シ診療券ヲ交付ス但シ必要アリト認ムルトキハ身元調査ヲ行ヒ所轄區長、警察署長又ハ方面委員ノ證明書ヲ提出セシムルコトヲ得

第二條　名古屋市診療相談所條例（以下單ニ條例ト稱ス）第四條ノ規定ニ依ル使用料及手數料左ノ如シ

一　手術料		
第一種	一回	三圓五十錢以上　四圓五十錢以下
第二種	一回	一圓五十錢以上　二圓五十錢以下
第三種	一回	五十錢以上　一圓以下
二　處置料		
第一種	一回	三圓以上　四圓五十錢以下
第二種	一回	一圓五十錢以下
第三種	一回	十錢以上　五十錢以下
三　藥劑料又ハ治療材料		
一種一劑又ハ一日五錢以上		二十錢以下
四　文書料		
診療券	一通	十錢
普通文書	一通	五十錢
精密文書	一通	一圓

診療上前項各號ニ依リ難キトキハ別ニ市長ノ承認ヲ經テ主管課長之ヲ定ム

本市住民ニ非ザル者ニ對シテハ前二項ノ料金ノ百分ノ五十迄ヲ增徴スルコトヲ得

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ所長ハ使用料及手數料ヲ後納セシムルコトヲ得

一　診療ノ結果ニ非ザレバ料金算定シ難キトキ

二　應急ノ診療ヲ要シ料金ヲ前納シ難キトキ

三　其ノ他所長ニ於テ已ムヲ得ザル事由アリト認メタルトキ

第四條　條例第六條ノ規定ニ依リ保險者又ハ團體ノ委託ニ基キ診療ヲ行フトキハ受療者ハ當該保險者又ハ團體ノ發行スル所屬員又ハ其ノ家族タルコト其ノ他必要事項ニ關スル證票ヲ提出スベシ

前項ノ受療者ハ本細則ニ定ムルモノノ外別ニ定ムル手續ヲ經テ診療ヲ受クベシ

（別除錄第三號三六七）

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ所長ハ診療又ハ健康相談ヲ拒否スルコトヲ得

一　受療資格ノ調査ニ際シ虚僞ノ申立ヲ爲シタルコトヲ發見シタルトキ

二　風紀ヲ紊シ又ハ他人ニ迷惑ヲ與フル等ノ行爲アリト認メタルトキ

三　市ガ特ニ設置セル他ノ診療機關ニ於テ診療スルヲ適當ト認メルトキ

四　其ノ他所長ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ

附　則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市社會館條例

昭和十九年三月三十一日條例第八號

第一條　名古屋市社會館ハ隣保共同ノ精神ニ基キ市民ノ勤勞精神ノ昂揚教化竝ニ福利增進ヲ圖ル

第二條　社會館ヲ使用スル者ニ對シテハ左ノ範圍内ニ於テ市長ノ定ムル使用料ヲ徴收ス

一　講堂	一回	五十圓以内
二　日本間	一回	十圓以内
三　集會室	一回	十圓以内

四　兒童寮　一人一月　五圓以内
五　特殊備品　一回　二十圓以内

特ニ費用ヲ要シ前各號ニ依リ難キトキハ市長ノ定ムル使用料ヲ徴收スルコトアルベシ

第三條　市長特別ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ使用料ヲ減免スルコトヲ得

第四條　使用料ハ之ヲ前納セシム但シ特別ノ事由アルトキハ之ヲ後納セシムルコトヲ得

第五條　既納ノ使用料ハ之ヲ還付セズ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條　必要アルトキハ社會館ノ使用ニ關シ入場者ノ數ヲ制限シ又ハ退場ヲ命ズルコトアルベシ

第七條　本條例又ハ本條例ニ基ク規定ニ違反シタル者其ノ他必要アリト認メラルル者ニ對シテハ使用ヲ拒否シ又ハ停止シ若ハ使用ノ承認ヲ取消スコトアルベシ

第八條　社會館ニ於ケル診療ニ關シテハ名古屋市診療相談所條例ヲ、乳幼兒ノ保育ニ關シテハ名古屋市保育園條例ヲ、勤勞作業ニ關シテハ名古屋市市民勤勞作業場條例ヲ準用ス

第九條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋市海上從業員休憩所使用條例及名古屋市水上兒童寮條例ハ之ヲ廢止ス

●名古屋市社會館條例施行細則

昭和十九年三月三十一日
規則第十八號

第一條　社會館ヲ使用セントスル者ハ館長ニ願出デ其ノ承認ヲ受クベシ

前項ノ場合證明書其ノ他必要ナル書類ヲ提出セシメ且身元調査ヲ爲スコトアルベシ

第二條　社會館兒童寮ニ入寮シ得ル者ハ水上勞務者ノ兒童其ノ他館長ニ於テ必要アリト認ムル者ニ限ル

使用承認ニ付管理上必要ナル條件ヲ附スコトアルベシ

第三條　保護者其ノ兒童ヲ入寮セシメントスルトキハ身元引受人ヲ立テ館長ニ願出デ其ノ承認ヲ受クベシ但シ已ムヲ得ザル事由アルトキハ親族其ノ他關係者ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

第四條　社會館條例第二條ニ依ル使用料左ノ如シ

一　講堂	晝間十圓	夜間二十圓
二　日本間	晝間二圓	夜間四圓
三　集會室	晝間三圓	夜間六圓
四　兒童寮	一人一月三圓	
五　特殊備品	一回二圓以上二十圓以下	

入場料及會費等ヲ徴スルモノニ對シテハ前項第一號ノ使用料ヲ夫々五圓增徴ス

晝間トハ午前九時ヨリ午後四時迄、夜間トハ午後五時ヨリ午後十時迄ヲ謂フ

（加除錄第三號三六八）

第五條　在寮者ニ對シテハ其ノ保護者ノ申出ニ依リ食事ヲ給ス

前項ノ場合ニ於テハ一人三食ニ付六十錢以内ニ於テ別ニ定ムル食費ヲ前納スルモノトス

第六條　入寮者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ使用料ヲ減免スルコトアルベシ

一　同一世帶ニシテ二人以上ノ在寮者ヲ擁スルトキ
二　入寮セザルコト十日以上ニ及ビ館長ニ於テ正當ノ事由アリト認ムルトキ
三　月ノ中途ニ於テ入寮シタルトキ
四　其ノ他館長ニ於テ必要アリト認ムルトキ

第七條　使用者故意又ハ過失ニ因リ施設又ハ附屬設備ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ館長ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ損害ヲ賠償スベシ

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ既納ノ使用料ハ之ヲ還付ス

一　使用者ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ使用スルコト能ハザルトキ
二　市ノ都合ニ依リ使用ノ承認ヲ取消シタルトキ
三　使用期日前三日迄ニ使用ノ承認ノ取消ヲ申出デ館長ニ於テ相當ノ事由アリト認ムルトキ

第九條　使用者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ入場ヲ制限シ又ハ退場ヲ命ズルコトアルベシ

一　泥醉セルトキ及之ニ類スルトキ
二　兒器、劇藥其ノ他危險物ヲ所持スト認メラルルトキ
三　其ノ他館長ニ於テ必要アリト認ムルトキ

第十條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ使用ヲ拒否シ又ハ停止シ若ハ承認ヲ取消スコトアルベシ

一　收容定員ニ滿チタルトキ
二　入寮ノ必要ヲ認メザルトキ
三　使用者ニシテ公安又ハ風紀ヲ紊シ若ハ他人ニ迷惑ヲ與フル等ノ行爲アリト認メラルルトキ
四　使用者ニシテ施設又ハ附屬設備ヲ滅失若ハ毀損スル虞アリト認メラルルトキ
五　使用者ニシテ市ニ特ニ設置セル施設又ハ設備ヲ使用スルヲ適當ト認メラルルトキ
六　其ノ他館長ニ於テ必要アリト認ムルトキ

第十一條　社會館ニ於ケル診療ニ關シテハ名古屋市診療相談所條例施行細則ヲ、トラホーム治療ニ關シテハトラホーム治療所規則ヲ、乳幼兒ノ保育ニ關シテハ名古屋市保育園條例施行細則ヲ、勤勞作業ニ關シテハ名古屋市市民勤勞作業場條例施行細則ヲ準用ス

附　則

本規則ハ條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

名古屋市海上從業員休憩所使用條例施行細則及名古屋市水上兒童寮條例施行細則ハ之ヲ廢止ス

（加除錄第三號三六九）

●傷痍軍人診療條例

昭和七年三月三十日
條例第七號

第一條　市長ハ軍人傷痍記章ヲ有スル本市住民ニシテ本市診療機關ニ就キ診療ヲ受クル者ニ對シテハ本人ノ願出ニ依リ使用料、手數料ヲ減免スルコトヲ得

第二條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例施行ノ日ハ市長之ヲ定ム（昭和七年三月三十日告示第二百二十六號ヲ以テ昭和七年四月一日ヨリ施行ス）

●傷痍軍人診療條例施行細則

昭和七年三月三十日
告示第二百二十四號

改正　昭和十四年一月八日告示第十四號

第一條　傷痍軍人診療條例第一條ニ依リ使用料手數料ノ減免ヲ願出テムトスル者ハ軍人傷痍記章ヲ佩用シ軍人傷痍記章授與證書又ハ傷痍軍人證ヲ診療機關ニ提示スヘシ

第二條　前條ニ依リ診療ヲ受クル者ニ對シテハ診療機關ノ長使用料手數料ヲ減スルコトヲ得

第三條　診療機關ノ長ハ傷痍軍人診療條例ニ依リ診療ヲ受ケムトスル者ノ資格ニ付疑アルトキハ身元調査ヲ行ヒ又ハ使用料、手數料ヲ減免セサルコトアルヘシ

附　則

本細則ハ傷痍軍人診療條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●從軍軍人軍屬ノ家族遺族診療條例

昭和七年三月三十日
條例第八號

第一條　市長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニシテ本市診療機關ニ就キ診療ヲ受クル者ニ對シテハ本人ノ願出ニ依リ當分ノ内使用料、手數料ヲ減免スルコトヲ得

一　戰時若ハ事變ニ際シ從軍中ノ本市住民タル陸海軍軍人軍屬ノ家族

二　前號ニ掲グル陸海軍軍人軍屬ニシテ戰死シタル者ノ遺族

第二條　本條例ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例施行ノ日ハ市長之ヲ定ム（昭和七年三月三十日告示第二百二十七號ヲ以テ昭和七年四月一日ヨリ施行ス）

●從軍軍人軍屬ノ家族遺族診療條例施行細則

昭和七年三月三十日
告示第二百二十五號

第一條　從軍軍人軍屬ノ家族遺族診療條例第一條ニ依リ使用料、手數料ノ減免ヲ願出テムトスル者ハ居住地區長ノ證明書ヲ診療機關ニ提出スベシ

第二條　前條ニ依リ診療ヲ受クル者ニ對シテハ診療機關ノ長使用料、手數料ヲ減免スルコトヲ得

第三條　診療機關ノ長ハ從軍軍人軍屬ノ家族診療條例ニ依リ診療ヲ受ケムトスル者ノ資格ニ付疑アルトキハ身元調査ヲ行ヒ又ハ使用料、手數料ヲ減免セザルコトアルベシ

附　則

本細則ハ從軍軍人軍屬ノ家族遺族診療條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●軍事扶助法取扱規程

昭和十七年十二月十二日
告示第六百四十六號

第一條　軍事扶助法ニ依ル事務ノ取扱ハ別ニ定アルモノヲ除クノ外本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條　扶助ヲ受ケントスル者ハ軍事扶助法施行細則（以下細則ト稱ス）第一條ニ依リ申請書ヲ作成シ戸籍謄本添附ノ上所轄區長ヲ經テ市長ニ申請スベシ扶助ヲ受ケツツアル者ニシテ醫療又ハ助産ノ扶助ヲ要スル事情生ジタルトキ亦同ジ

第三條　區長前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ家庭狀況其ノ他ヲ扶助調書ニ依リ調査シタル後扶助ノ程度及方法又ハ扶助拒否ノ決定ヲ爲スベシ

扶助ノ必要アリト認ムル者アルトキハ前條ノ申請ナキ場合ト雖扶助ヲ行フベシ

扶助ヲ受ケントスル者一世帶二人以上アルトキハ世帶主又ハ之ニ代ルベキ者ヲシテ申請セシムベシ

第四條　埋葬費ノ支給ヲ受ケントスル者ハ埋葬費給與申請書二通ヲ作成シ死亡者ノ所轄區長ヲ經テ市長ニ申請スベシ

區長前項ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ埋葬費ノ支給又ハ支給拒絶ノ決定ヲ爲スベシ

第五條　區長扶助又ハ埋葬費支給ノ決定ヲ爲シタルトキハ申請者ニ對シ指令ヲ交付スベシ

醫療又ハ助産ノ扶助ヲ爲ス場合ハ醫療券又ハ助産券ヲ發行スベシ

第六條　區長ハ扶助若ハ埋葬費支給ノ決定ヲ爲シタルトキハ扶助調書ヲ添附シ直ニ知事ニ報告スベシ

扶助若ハ埋葬費支給決定ノ取消、扶助ノ廢止若ハ停止又ハ扶助ノ程度若ハ方法ノ變更ノ決定ハ區長之ヲ爲スベシ

區長前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ知事ニ報告スルト共ニ申請者ニ其ノ旨指令ヲ交付スベシ

第七條　區長扶助ノ決定ヲ爲スニ當リ支出スベキ費用ニシテ細則第四條乃至第七條ノ規定ニ依リ難キモノアリト認メタルトキハ直ニ其ノ事由ヲ詳記シテ知事ノ承認ヲ受クベシ

第八條　市長必要アリト認ムルトキハ扶助ノ實施狀況ニ付報告ヲ徵スルコトアルベシ

第九條　軍事扶助法施行令第十一條ノ規定ニ依リ知事ニ審査ヲ出願セントスル者アルトキハ區長ハ扶助調書ヲ添ヘ意見書ヲ知事ニ提出スベシ

第十條　區長ハ軍事扶助法第十三條ノ二ノ規定ニ依リ扶助ヲ繼續スル必要アリト認ムルモノアルトキハ現役兵ノ退營又ハ下士官兵ノ召集解除前豫メ扶助申請者ヲシテ其ノ期間並理由ヲ具シテ申請セシムベシ

第十一條　區長ハ被扶助者ニシテ扶助申請書記載事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ扶助申請者ヲシテ直ニ屆出シムベシ

第十二條　區長ハ軍事扶助臺帳ヲ備ヘ記載事項ニ異動アル毎ニ加除訂正スベシ

第十三條　區長ハ被扶助者ノ屬スル世帶ニシテ管外ニ移轉シタルモノアルトキハ直ニ關係書類ヲ當該世帶ノ新居住地ヲ管轄スル區長ニ引繼グベシ

市外ニ轉出シタルモノアルトキハ區長ハ當該被扶助者ノ扶助ヲ廢止スルト共ニ新居住地ヲ管轄スル地方事務所長、支廳長又ハ市長ニ通報スベシ

第十四條　區長扶助ノ決定ヲ爲シ又ハ扶助ノ取消、廢止若ハ停止又ハ扶助ノ程度若ハ方法ノ變更ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク被扶助者ノ本籍地ヲ管轄スル地方事務所長又ハ市長及聯隊區司令官又ハ海軍人事部長ニ對シ通報スベシ

第十五條　區長扶助開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ支拂命令ヲ發行スベシ

第十六條　本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本規程ハ昭和十七年十二月一日ヨリ之ヲ適用ス

●名古屋市保育園條例

昭和十九年三月三十一日
條例第六號

第一條　名古屋市保育園ハ本市ニ居住スル勤勞者其ノ他ノ者ノ乳幼兒ニシテ國民學校就學ノ始期ニ達スル迄ノ者ニ對スル保育ヲ爲ス

第二條　保育料ハ一人一月ニ付五圓以內ニ於テ市長之ヲ定ム

第三條　市長ハ特別ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ保育料ヲ減免スルコトヲ得

第四條　保育料ハ之ヲ前納セシム但シ特別ノ事由アルトキハ之ヲ後納セシムルコトヲ得

第五條　本條例又ハ本條例ニ基ク規定ニ違反シタル者其ノ他必要アリト認メラルル者ニ對シテハ入園ヲ拒否シ又ハ退園ヲ命ズルコトアルベシ

第六條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市保育園條例施行細則

昭和十九年三月三十一日
規則第十六號

第一條　入園セシメントスルトキハ保護者ヨリ市長ニ願出デ其ノ承認ヲ受クベシ

第二條　保育料ハ一人一月ニ付三圓トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ減免スルコトアルベシ

一　同一世帶ニシテ二人以上ノ園兒ヲ擁スルトキ

二　一月ノ出席日數十五日未滿ニシテ正當ノ事由アリト認メラルルトキ

三　其ノ他必要アリト認ムルトキ

第三條　園兒ノ身上ニ異動ヲ生ジタルトキハ保護者ハ速ニ其ノ旨市長ニ屆出ヅベシ

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ入園ヲ拒否シ又ハ退園ヲ命ズルコトアルベシ

一　收容定員ニ滿チタルトキ

二　園兒傳染病又ハ惡質ノ疾患ヲ有スルトキ

三　園兒ニシテ他ノ園兒ニ惡感化ヲ及ボス虞アリト認ムルトキ

四　園兒ニシテ出席常ナラザルトキ

五　其ノ他必要アリト認ムルトキ

附　則

本規則ハ條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●兒童進學奬勵金給與規程

昭和十五年四月一日
告示第百一號

改正　昭和十六年五月七日告示第二百十號

第一條　貧困ノ爲國民學校高等科ニ就學スルコト困難ニシテ左ノ各號ニ該當スル者（以下奬學兒童ト稱ス）ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ豫算ノ範圍內ニ於テ兒童進學奬勵金ヲ給與ス

一　本市在住カード者其ノ子弟若ハ同居人又ハ公私ノ救護施設ニ收容セラルル者

二　操行、體位、學業成績共ニ佳良ニシテ將來成業ノ見込確實ナル者

三　關係國民學校長並居住地擔任方面委員ノ推薦アル者

第二條　本規程ニ依リ兒童進學奬勵金ノ給與ヲ受ケントスルトキハ保護者ヨリ兒童進學奬勵金下附申請書ヲ市長ニ提出スベシ

保護者前項ノ申請書ヲ提出スルコト能ハザルトキハ保護者又ハ之ニ代ルベキ親族其ノ他ノ緣故者ヨリ之ヲ爲スコトヲ得

第三條　市長前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ給與ノ要否ヲ決定シ所轄區長並居住地擔任方面委員ヲ經テ申請者ニ其ノ旨通知ス給與ヲ廢止シタルトキ亦同ジ

第四條　兒童進學奬勵金ハ當月分ヲ其ノ月五日迄ニ申請者ニ交付ス但シ五日以後ニ給與ノ開始ヲ決定シタル場合ニ在リテハ其ノ都度之ヲ交付ス

第五條　奬學兒童死亡修了退學若ハ他市町村內ニ轉任シ又ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノト認メタルトキハ其ノ給與ヲ廢止ス

一　操行不良ニシテ改善ノ見込ナキモノ

二　體位、學業成績劣等ニシテ改善ノ見込ナキモノ

三　其ノ他給與ノ要ナキニ至リタルモノ

第六條　左ノ場合ニ於テハ申請者ヨリ直ニ其ノ旨市長ニ屆出ツヘシ

一　奬學兒童死亡、修了又ハ退學シタルトキ

二　奬學兒童居住地ヲ變更シタルトキ

三　申請者ニ變更アリタルトキ

第七條　本規程ニ依ル書類ヲ提出セントスル場合ハ凡テ居住地擔任方面

委員並所轄區長ヲ經由スヘシ

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施ス

●名古屋市乳幼兒牛乳配給規程

昭和十五年四月一日
告示第百號

第一條　本市在住カード者ニシテ牛乳補給ノ必要アリト認ムル二年未滿ノ乳幼兒ニ對シテハ本規程ノ定ムル所ニ依リ牛乳ヲ配給スルモノトス

第二條　牛乳ノ配給ハ無料ニテ之ヲ行フ

第三條　牛乳ノ配給ヲ受ケントスルトキハ第一條ノ乳幼兒ヲ擁スル者ヨリ牛乳配給申請書ヲ市長ニ提出スベシ

第四條　市長前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ配給ノ許否ヲ決定シ所轄區長並居住地擔任方面委員ヲ經テ申請者ニ其ノ旨通知ス配給ヲ廢止若クハ停止シタルトキ亦同ジ

第五條　牛乳ノ配給期間ハ三月以內トス期間滿了後引續キ配給ヲ受ケントスルトキハ更ニ第三條ノ申請ヲ爲スベシ

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ牛乳ノ配給ヲ廢止若クハ停止スルコトアルベシ

一　市長ニ於テ配給ノ必要ナシト認メタルトキ

二　本規程又ハ之ニ基ク指示ニ違背シタルトキ

三　其ノ他本市ノ都合ニ依ルトキ

第七條　左ノ場合ニ於テハ申請者ヨリ速ニ其ノ旨市長ニ屆出ヅベシ

一　受給ノ要ナキニ至リタルトキ

二　申請者ノ居住地ニ變更アリタルトキ

第八條　本規程ニ依ル書類ヲ提出セントスル場合ハ凡テ居住地擔任方面委員並所轄區長ヲ經由スベシ

第九條　本規程ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ其ノ都度之ヲ指示ス

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（加除錄第三號三七四）

第二章　福　利

●市設住宅條例

昭和十七年四月一日
條例第十三號

第一條　市設住宅ヲ使用セントスル者ハ市長ノ承認ヲ受クベシ

第二條　住宅ノ使用ハ中產以下ノ者ニシテ市長ノ適當ト認メタル者ニ限リ之ヲ承認ス

第三條　使用ノ承認ヲ受ケタル者ハ承認ノ日ヨリ五日以內ニ使用料三月分ニ相當スル保證金並保證人連署ノ請書ヲ差出スベシ

保證人ハ本市內ニ居住シ相當ノ資產又ハ信用ヲ有スル者タルコトヲ要シ使用者ト連帶シテ其ノ責ニ任ズルモノトス

第四條　市長特ニ必要アリト認メタル者ニ對シテハ保證金ヲ減免スルコトヲ得

第五條　使用料ハ一戶ニ付一月五圓以上五十圓以下ノ範圍ニ於テ市長之ヲ定ム但シ市長特ニ必要アリト認メタル者ニ對シテハ之ヲ減免スルコトヲ得

前項ノ使用料ハ毎月五日迄ニ之ヲ納付スベシ但シ該期日以後使用ノ承認ヲ受ケタル者ハ其ノ際之ヲ納付スルモノトス

第六條　左ノ費用ハ使用者ノ負擔トス

一　電燈、瓦斯、水道、下水道ノ使用ニ要スル費用

二　襖及障子張替並硝子嵌替（全額）、疊表替及裏返（半額）ニ要スル費用

三　屎尿、塵芥處分ニ要スル費用

第七條　使用者ハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

一　住宅ヲ他人ニ貸與シ又ハ其ノ使用權ヲ讓渡スルコト

二　住宅ヲ毀損汚染スベキ家內工業ヲ營ムコト

三　住宅ノ外觀ヲ損シ又ハ比隣ノ迷惑トナルベキ行爲ヲ爲スコト

四　市長ノ承認ヲ得ズシテ地形ノ變更、樹木ノ移植又ハ建築模樣替若ハ增設ヲ爲スコト

五　市長ノ承認ヲ得ズシテ家族及使用人以外ノ者ヲ同居セシムルコト

第八條　使用者建物又ハ備付物件ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ市長ノ命ズル所ニ從ヒ遲滯ナク之ヲ補塡シ又ハ損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

前條第四號ノ行爲アリタルトキ亦同ジ

第九條　左ノ場合ニ於テ市長ハ何時ニテモ使用ノ承認ヲ取消スコトヲ得

一　使用料ヲ滯納シタルトキ

二　本條例若ハ本條例ニ基ク規定ニ違背シタリト認ムルトキ

三　本市ニ於テ必要アルトキ

前項ノ場合ニ於テ損害ヲ生ズルコトアルモ本市ハ其ノ責ニ任セズ

第十條　使用者住宅ノ使用ヲ廢止セントスルトキハ五日前ニ市長ニ屆出デ建物其ノ他備付物件ノ檢査ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ滅失又ハ毀損セルモノアルトキハ退去前ニ之ヲ原形ニ復シ又ハ其ノ費用ヲ賠償スベシ

第十一條　市長ニ於テ管理上必要ト認ムルトキハ隨時屋內ノ檢査ヲ爲シ

又ハ使用者ニ對シ指示ヲ爲スコトアルベシ

第十二條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

第十三條　本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條　市設住宅貸與規程ハ之ヲ廢止ス

本條例施行ノ際現ニ市設住宅貸與規程ニ依リ其ノ使用ヲ承認セラレタル者ハ本條例ニ依リ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

●市設住宅例條施行細則

昭和十七年四月一日
告示第百三十號

第一條　住宅使用ノ承認ヲ受ケントスル者ハ第一號樣式ニ依ル住宅使用願ヲ提出スベシ

第二條　使用ノ承認ヲ受ケタル者ハ第二號樣式ニ依ル請書ヲ提出スベシ

第三條　居住者ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度之ヲ屆出ヅベシ

第四條　使用料ハ別表ノ通之ヲ定ム但シ月ノ中途ニ於テ使用承認ヲ受ケタルトキハ其ノ日ヨリ退去ヲ爲シタルトキハ其ノ日迄各日割ヲ以テ其ノ月ノ使用料ヲ計算ス

第五條　保證人死亡シ又ハ資格ヲ喪失シタルトキハ使用者ハ速ニ之ニ代ルベキ保證人ヲ立ツベシ

保證人ニシテ住所ヲ變更シタルトキハ使用者之ヲ屆出ヅベシ

第六條　保證金ハ使用者退去ノトキ又ハ市長ニ於テ其ノ必要ヲ認メザルニ至リタルトキハ之ヲ還付ス但シ延滯使用料又ハ賠償額ニ付テハ市長ハ保證金ヨリ控除スルコトヲ得

附　則

第七條　本細則ハ市設住宅例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第八條　市設住宅貸與規程施行細則ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式

名古屋市設住宅使用願

| | | |

●市設住宅使用料徴收事務規程

昭和十七年四月一日
達第十五號

第一條　庶民局ニ第一號樣式ノ徴收兼收納簿ヲ設ケ徴收ニ關シ必要ナル事項ヲ登記シ徴收ノ基礎トナスト共ニ調定及收納ヲ整理スベシ

第二條　納額告知書ハ前條ノ徴收兼收納簿ニ依リ之ヲ作成シ毎月納期前三日目迄ニ第二號樣式ノ納額告知書ヲ納人ニ交付スベシ

隨時納入ヲ要スルトキハ相當期日ヲ定メ納額告知書ヲ作成シ之ヲ納人ニ交付スベシ

第三條　市稅賦課徴收事務規程第二十二條、第二十四條、第二十五條、第三十一條乃至第三十四條、第四十三條乃至第八十二條、及第九十一條乃至第九十三條ノ規程ハ住宅使用料ノ徴收ニ付之ヲ準用ス

附則

本規程ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス市設住宅賃貸料徴收手續ハ之ヲ廢止ス但シ昭和十六年度以前ノ賃貸料ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

（第一號樣式）

家屋所在種別番號	使用料	使用料收入月別												異動月日及事由	使用者氏名
	告知書番號	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月		
	第　號														
	調定月日														

三　火災保險料ノ月額
四　共同施設物ノ維持費ノ月額
五　管理ニ要スル費用ノ月額

第六條　住宅料ハ毎月五日迄ニ之ヲ納付スベシ但シ該期日以後供給ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ際之ヲ納付スベシ
受給者前項ノ期限迄ニ住宅料ヲ納付セザルトキハ日歩四錢ノ延滯利息ヲ徴收ス
既納ノ住宅料ハ之ヲ還付セズ

第七條　住宅料ノ納付期間ハ十九年トス
前項ノ期間ハ市長ノ許可ヲ得テ之ヲ短縮シ住宅料ヲ繰上納付スルコトヲ得

第八條　納付期間内住宅料ヲ完全ニ納付シタル者ハ當該住宅ノ所有權ヲ取得ス
所有權移轉ニ必要ナル費用ハ取得者ノ負擔トス

第九條　住宅ノ修繕費用ハ受給者ノ負擔トス
受給者修繕ヲ爲サザルトキハ市長之ヲ命ジ又ハ受給者ニ代ツテ之ヲ執行シ其ノ費用ヲ徴收スルコトヲ得

第十條　受給者ハ市長ノ承認ヲ受クルニ非ザレバ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ
一　住宅受給ノ權利義務ヲ他人ニ讓渡スルコト
二　住宅ノ居住ヲ目的外ニ使用スルコト
三　建物ノ模樣替其ノ他工作ヲ加フルコト

第十一條　受給者ハ住宅ヲ他人ニ貸與シ若ハ其ノ使用權ヲ他人ニ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ズ

第十二條　受給者其ノ責ニ歸スベキ事由ニ因リ住宅ヲ滅失毀損シタルトキハ直ニ之ヲ原形ニ復シ又ハ之ニ要スル費用ヲ賠償スベシ

第十三條　左ノ場合ニ於テハ市長ハ承認ヲ取消シ直ニ住宅ノ返還ヲ求ムルコトヲ得
一　住宅料ヲ滯納シタルトキ
二　本規程並之ニ基ク規程ニ違背シタルトキ

第十四條　受給者其ノ住宅ヲ返還セントスルトキハ五日前ニ市長ニ申出デ其ノ檢査ヲ受クベシ

第十五條　市長ニ於テ管理上必要アリト認ムルトキハ隨時住宅ノ檢査ヲ爲シ又ハ受給者ニ對シ指示ヲ爲スコトアルベシ

第十六條　本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（加除錄第三號三七六）

●名古屋市工員寮使用條例

昭和十六年八月二十六日
條例第十四號

第一條　本市工員寮ハ市内ニ一定ノ職業ヲ有スル單身ノ男子ヲ宿泊セシムル所トス

第二條　工員寮ヲ使用セントスル者ハ市長ノ承認ヲ受ケ保證金トシテ使用料ノ二月分ニ相當スル金額ヲ前納スベシ

第三條　工員寮ノ使用ハ一室三人迄トシ使用料ハ一室ニ付一月十八圓以内ニ於テ市長之ヲ定ム但シ市長特別ノ事由アリト認ムルトキハ減免スルコトアルベシ
前項ノ使用料ハ其ノ月分ヲ毎月末日迄ニ納付スルヲ要ス

第四條　使用者建物又ハ備付物件ヲ滅失若ハ毀損シタルトキハ市長ノ命ズル所ニ從ヒ之ヲ補修シ又ハ損害ヲ賠償スベシ

第五條　工員寮ノ管理並本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市工員寮使用條例施行細則

昭和十六年八月二十六日
告示第四百二十一號
改正　昭和十七年四月六日告示第二百七十七號

第一條　名古屋市工員寮使用條例（以下單ニ條例ト稱ス）第二條ニ依リ工員寮ヲ使用セントスル者ハ別記樣式ニ依ル願書ヲ市長ニ提出スベシ

第二條　使用料ハ左ノ區分ニ依リ承認ノ翌日ヨリ之ヲ算定ス但シ一月ニ滿タザル期間ノ使用料ハ其ノ月ノ日數ニ依リ日割ヲ以テ計算ス

豐本寮	四疊半室	十圓八十錢
	六疊室	十四圓四十錢
	八疊室	十八圓
報德寮	四疊半室	九圓六十錢
	六疊室	十二圓九十錢
港樂寮	四疊半室	十圓
	六疊室	十四圓九十錢

第三條　使用者ハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ
一　居室ヲ轉貸シ又ハ他ノ目的ニ使用スルコト
二　居室ノ模樣替ヲ爲スコト
三　他人ヲ宿泊セシムルコト
四　風俗秩序ヲ紊シ又ハ他人ノ迷惑トナルベキ行爲ヲ爲スコト

第四條　管理上必要アリト認ムルトキハ使用者ノ携帶品ヲ檢査シ又ハ醫師ヲシテ檢診ヲ爲サシムルコトアルベシ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ使用承認ヲ取消スコトアルベシ
一　使用料ヲ滯納シタルトキ
二　條例第一條ニ定ムル使用者資格ヲ喪失シタルトキ
三　其ノ他管理上支障アリト認ムルトキ
前項ノ取消ニ因リ使用者ニ損害ヲ生ズルコトアルモ本市ハ其ノ責ニ任ゼズ

第六條　保證金ハ退寮ノ際之ヲ返還ス但シ滯納使用料又ハ條例第四條ノ

（加除錄第三號三七七）

賠償金アル場合ハ之ヲ充當シ尚不足アルトキハ其ノ不足額ヲ追徵ス

第七條　使用者退寮セントスルトキハ五日前迄ニ其ノ旨ヲ市長ニ屆出ヅベシ

前項ノ屆出ヲ爲サズシテ退寮シタル者ニ對シテハ其ノ事實ヲ知リタル日迄ノ使用料ヲ徵收スルコトアルベシ

附　則

本細則ハ名古屋市工員寮使用條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式）

名古屋市工員寮使用願書

一　氏　　名

一　本　　籍

一　生年月日

一　勤務先竝職名

一　收　　入

一　家族關係

一　現住家屋狀況

一　其ノ他參考トナルベキ事項

右之通相違無之候條使用承認相成度候也

昭和　年　月　日

名古屋市長　殿

右

現住所

氏　　名　　印

（加除錄第三號三七八）

●共同宿泊所使用條例

大正十四年八月十五日　條例第六號

改正　大正十五年十二月十一日　條例第十二號　昭和四年十一月一日　條例第十號　昭和十八年四月一日　條例第五號

第一條　共同宿泊所ニ宿泊セントスル者ハ市長ノ許可ヲ受クベシ

第二條　使用料ハ宿泊料下宿料ニ分チ左記金額ノ範圍內ニ於テ市長之ヲ定ム

一　宿泊料　一人一泊　金二十錢

一　下宿料

一室一人ニテ使用ノトキ　一箇月　金五圓

一室二人ニテ使用ノトキ　一箇月一人ニ付　金三圓五十錢

一室三人ニテ使用ノトキ　一箇月一人ニ付　金三圓

市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムル者ニ對シテハ前項ノ規定ニ拘ハラズ之ヲ減免スルコトヲ得

第三條　使用料ハ前納トシ既納ノ料金ハ之ヲ還付セズ但シ市長ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ宿泊ヲ許サズ

一　同宿者ノ嫌忌スベキ疾病ヲ有スル者

二　精神病者泥醉者ト認ムル者

三　其他市長ニ於テ宿泊ヲ許スベカラズト認ムル者

第五條　宿泊者ニシテ本條例ニ違背シ又ハ風俗秩序ヲ紊シ若クハ他人ノ迷惑トナルベキ行爲アル者ニ對シテハ市長ハ臨時退所ヲ命ズルコトアルベシ

第六條　宿泊者備付物品ヲ滅失若クハ毀損シタルトキハ市長ノ認定ニ依ル損害ヲ賠償セシムルコトアルベシ

第七條　本條例施行ニ關シ必要ナル細則ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（加除錄第二號三五七）

●共同宿泊所使用條例施行細則

昭和二年一月十三日　告示第二號

改正　昭和四年十一月一日　告示第百七十七號　昭和十八年四月一日　告示第八十號　昭和四年十一月二十八日　告示第百九十五號　昭和十年十一月六日　告示第三百五十五號

第一條　共同宿泊所ハ毎日午前八時ヨリ午後十時迄宿泊申込ニ關スル事務ヲ取扱フ但シ時宜ニ依リテ之ヲ伸縮スルコトアルベシ

第二條　共同宿泊所使用條例第二條ニ依ル使用料左ノ如シ

一　宿泊料　一人一泊　金十五錢

一　下宿料

一室一人ニテ使用ノトキ　一箇月　金四圓

一室二人ニテ使用ノトキ　一箇月一人ニ付　金三圓五十錢

一室三人以上ニテ使用ノトキ　一箇月一人ニ付　金二圓八十錢

下宿料ヲ納ムル宿泊者ニシテ寢具希望ノ者ニ對シテハ左ノ賃貸料ヲ前納セシメ之ヲ貸與スルコトヲ得

一　布團賃貸料　一箇月　金一圓五十錢

一　毛布賃貸料　一箇月　金七十錢

第三條　宿泊中市長ニ於テ必要アリト認メタル者ニ對シテハ適當ナル保證人ヲ立テシメ又ハ保證金ヲ納付セシムルコトアルベシ

第四條　下宿料ハ入所又ハ退所ノ月ニ限リ其ノ日割ヲ以テ計算ス寢具ノ貸與返還ノ場合ニ於ケル料金ニ付テモ亦同ジ

第五條　宿泊者ハ當該係員ノ指示シタル室内ニ於テ宿泊スベシ

第六條　係員ニ於テ必要ト認メタルトキハ宿泊者ノ携帶品ヲ檢査シ又ハ醫師ヲシテ檢診ヲナサシムルコトアルベシ

宿泊者ハ前項ノ檢査又ハ檢診ヲ拒ムコトヲ得ズ

第七條　宿泊者ノ外出時間ハ午後十一時限リトス但シ場合ニ依リ之ヲ伸縮スルコトアルベシ

宿泊者外出時間外ニ歸宿セザルトキハ當日ノ宿泊ヲ拒絶スルコトアルベシ此ノ場合ニ於テハ既納ノ料金ハ之ヲ還付セズ

第八條　宿泊料ヲ納付シテ宿泊シタル者ハ特ニ許可ヲ受ケタル場合ノ外左ノ時間内ニ退去スベキモノトス但シ場合ニ依リ之ヲ伸縮スルコトアルベシ

自三月一日　至十月末日　午前四時ヨリ午後七時迄

自十一月一日　至二月末日　午前四時ヨリ午後八時迄

第九條　前條ノ宿泊者特別ノ事由ニ依リ退去時間以前ニ於テ退去セントスルトキハ當該係員ノ承認ヲ受クベシ

附　則

本則ハ昭和二年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

大正十四年八月十五日告示第九十七號名古屋市共同宿泊所使用條例施行細則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●名古屋市公益質屋條例

昭和三年二月十五日條例第七號

改正　昭和十四年八月十四日條例第六號　昭和十六年四月一日條例第五號

第一條　本市公益質屋ハ公益質屋法及本條例ノ定ムル所ニ依リ本市在住者ニ對シ物品ヲ質トシテ資金ノ貸與ヲナス

第二條　質物ハ市長ニ於テ適當ト認ムルモノニ限ル

第三條　市ハ質置主ニ於テ其ノ物品ヲ質入シ得ベキ權利ヲ有スルコトヲ確認スル爲質置主ヲシテ必要ナル證明ヲ爲サシムルコトヲ得

第四條　貸付金額ハ質物ニ付市長ニ於テ爲ス評價額ノ十分ノ七以下トシ一口二十圓、一世帶百圓以内ニ於テ之ヲ定ム但シ市長ニ於テ生業資金ニ充當スルモノト認メタルトキハ一口百圓、一世帶五百圓以内トス

第五條　貸付利率ハ一月ニ付百分ノ一・二五以内ニ於テ市長之ヲ定ム

第六條　流質期限ハ四月トス但シ市長ニ於テ特別ノ事由アリト認メタル者ニ限リ之ヲ延長スルコトヲ得

第七條　質札又ハ通帳ヲ持參シタル者ニ其ノ質物ヲ返還シタル爲質置主ニ損害ヲ生スルコトアルモ本市ハ其ノ責ニ任ゼズ

第八條　質物カ遺失物又ハ盜品ニシテ警察官署ノ徵收ヲ受ケタルトキハ市長ハ其ノ質物ニ對スル貸付金額ノ返還ヲ質置主ニ請求スルコトヲ得但シ質置主ニ於テ相當ノ物品ヲ更ニ提供シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　天災地變其ノ他本市ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ質物滅失又ハ毀損シタルトキハ本市ハ其責ニ任ゼズ但シ滅失ノ場合ハ其債權ノ全部ヲ毀損ノ場合ハ其ノ債權ノ全部又ハ一部ヲ拋棄ス債權ノ一部ヲ拋棄スル場合ニ於ケル拋棄金額ハ市長之ヲ定ム

第十條　本條例施行ノ爲必要ナル細則ハ市長之ヲ定ム

附　則

（加除線第二號二五八）

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市公益質屋條例施行細則

昭和三年二月十五日告示第百四十二號

改正　昭和七年六月九日告示第三百十五號　昭和十一年十二月二十三日告示第六百八十一號　昭和十四年八月十四日告示第四百七十四號　昭和十六年四月一日告示第百十七號

第一條　貸付利率ハ一月ニ付百分ノ一・二五トス但シ特別ノ事情アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二條　本市公益質屋ノ取扱時間及休日左ノ如シ但シ時宜ニ依リ之ヲ變更スルコトアルヘシ

一　取扱時間　毎日午前九時ヨリ午後七時迄

一　休　日　日曜日

第三條　貸付ヲ受ケムトスル者ハ質物提示ノ上其ノ住所、職業、氏名及借受希望金額ヲ申出ツヘシ

第四條　質物ハ左ノ各號ノ一ニ該當セサル物ニ限ル

一　臟物其ノ他質入シ得ヘキ權利ニ疑アル物

二　傳染病毒汚染ノ疑アル物

三　評價ノ容易ナラサル物

四　動物其ノ他保管ノ容易ナラサル物

五　保管中著シク變質又ハ減價ノ虞アル物

六　惡臭ヲ發シ又ハ他ノ質物ニ障害ヲ與フル虞アル物

七　其ノ他取扱上不適當ト認ムル者

第五條　入質申込ノ際提示ノ質物ハ身元其ノ他調査中一時之ヲ假預リトナスコトアルヘシ

第六條　公益質屋法施行規則第十三條第一項ノ保證人ハ本市内ニ在住シ相當身元確實ナル者タルコトヲ要ス其ノ請求書ハ附錄第一號樣式ニ依ルヘシ

附　則

本細則ハ名古屋市公益質屋條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（附錄第一號樣式）

再交付請求書

借入金額	質物	借入年月日	毀損亡失年月日	番號
金		昭和　年　月　日	昭和　年　月　日	第　號

右名古屋市公益質屋ヘ質置ノ際御交付相成候通帳亡失交付相成度若シ亡失通帳質札後日發見ノ節ハ直チニ返戻可致尙又萬一他人ニ於テ亡失通帳質札ヲ以テ其ノ權利ヲ主張スル等ノコト有之場合ハ萬事拙者及保證人ニ於テ引受ケ解決ノ上貴市ニ對シテハ毫モ御迷惑相掛ケ申間敷爲後日連署ヲ以テ一札仍テ如件

昭和　年　月　日

住　所

質置主

住所
保證人

名古屋市長　殿

●大東亞戰爭ニ際シ應召若ハ出動シタル者及其ノ遺家族ニ對スル公益質屋貸付ニ關スル內規

昭和十二年十二月二十三日
達第三十二號

改正 昭和十七年四月一日
達第二十號

第一條 大東亞戰爭ニ際シ應召若ハ出動シタル者ノ遺族若ハ家族ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對スル公益質屋ノ貸付ニ付テハ應召若ハ出動ノ日ヨリ貸付利率一月ニ付千分ノ一・二五トス但シ從前ノ利率ニヨル既納利子ハ之ヲ還付セス

一　軍事扶助法ニヨル生活扶助ヲ受クル者

二　軍事扶助愛知地方委員會ノ生活扶助ヲ受クル者

三　名古屋市銃後奉公會ノ定期慰問金ヲ受クル者

應召若ハ出動シタル本人ニ對スル貸付ニ付テモ其ノ遺族若ハ家族カ前ル項各號ノ一ニ該當スルトキハ前項ノ規定ヲ適用ス

第二條 前條ノ質置主ヨリ流質期限ノ延長ヲ申出テ其ノ利子ヲ納付シタトキハ前條ノ扶助若ハ慰問金ヲ受クル期間中之ヲ延長ス

附則

本內規ハ昭和十二年十二月二十三日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市公益質屋執務內規

昭和三年三月十二日
達第十八號

第一章　通則

第一條 本內規ニ於テハ左ノ上欄諸規定ハ之ヲ下欄ノ如ク略稱ス

一　公益質屋法	法
一　同法ニ依リ準用ノ質屋取締法	準法
一　同法施行規則	法規則
一　同法施行細則	法細則
一　名古屋市公益質屋條例	條例
一　同條例施行細則	細則

第二條 公益質屋ニ關スル法令、條例及細則ニ依ル事務ハ本內規ノ定ムル所ニ依リ當該主任ニ於テ之カ取扱ヒヲ擔任スヘシ但シ事ノ異例ニ屬シ若ハ規定ノ解釋上疑義ニ涉リ又ハ重要ト認ムル事項ニ付テハ上司ノ指揮ヲ受クヘシ

第二章　入質並貸付ニ關スル取扱方

第三條 入質申込ヲ受ケタル場合ニ於テハ其ノ申込人ニ對シ左ノ各號ノ取扱ヲ爲スヘシ

一　細則第三條ノ規定ニ依リ入質物ノ提示ヲ受ケ申出事項ヲ聽取シ尙本人又ハ同一世帶內ノ者ニシテ現ニ本市公益質屋ニ入質ノ有無其他必要ナル事項ノ口供ヲ求ムルコト

二　申込人カ勞働下宿ニ寄宿セル者ナルトキハ之ヲ準法第四條ノ住所不詳ノ者ト看做スコト但シ下宿主人等ニ於テ相當期間定宿セルモノナルコトヲ證明シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 質トシテ受クヘキ物ハ準法第三條、同第四條、同第七條及細則第四條ノ規定ニ抵觸セサル物品竝ニ無記名債券トス但シ債券ヲ質ニ取ラムトスルトキハ其ノ利札ニ注意シ利札不足ノ場合ハ之ヲ質札又ハ通帳ニ附記スヘシ

第五條 條例第四條ノ規定ニ依ル質物ノ評價ハ入質物提示ノ際各一點毎ニ付市價ノ變動少キ物ハ時價ニ依リ市價ノ變動多キ物ハ之ヲ斟酌シ以テ遞算ナキヲ期スヘシ

第六條 提示質物ノ檢査ハ最モ嚴密ニ之ヲ行ヒ苟モ評價ニ影響スト認ムル瑕疵ハ之ヲ入質申込人ニ告知スヘシ

第七條 提示質物ノ評價終リタルトキハ細則第一條ニヨリ貸付金額ヲ決定ノ上之ヲ入質申込人ニ告知スヘシ細則第一條後段ニヨル特別ノ事情ニヨリ制限ヲ越ヘテ貸付セントスル場合ハ上司ノ決裁ヲ受クヘシ

第八條 入質申込人初度ナルトキハ附錄第一號樣式ノ調査票ニ依リ實地ニ就キ身元其他ヲ調査シ入質申込ノ際ノ申出事項ニ相違ナキヤ又ハ貸付支障ノ有無ヲ考究スヘシ二回以上申込ノ場合ニ於テ疑問アルトキ亦同シ但シ身元其他明カナルトキハ實地調査ヲ省略スルコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ調査票ニ記載スヘシ

調査票ハ氏名ヲ「イロハ」別ニ分類整理シテ檢索ニ便ニシ二回以上入質申込アリタルトキハ亦之ヲ考査資料ト爲スヘシ

第九條 細則第五條ノ規定ニ依リ提示質物假預リノ場合ハ入質申込人ニ對シ附錄第二號樣式ノ假預リ證ヲ交付スヘシ

第十條 第四條乃至第八條ノ規定ニ依リ貸付ニ支障ナシト認メタルトキハ準法第五條第二項、法規則第十二條及法細則第十條ノ規定ニ依ル取扱ヲ爲スヘシ此ノ場合前條ノ取扱ヲ爲シタル者ヨリ假預リ證ヲ返付セシムルコトヲ要ス

第十一條 法細則第十條ノ質札ハ其ノ上方ニ附錄第三號樣式ノ原符ヲ設ケ質札發行ノ都度同一事項ヲ之ニ記入スヘシ

質札及通帳ノ文字ハ之ヲ改竄スヘカラス若シ訂正、挿入又ハ削除ノ場合ハ其ノ旨適當ノ餘白ニ附記シ取扱者調印スヘシ

第三章　入質中ノ取扱方

第十二條 條例第六條ノ流質期限ハ貸付ノ日ヨリ起算シテ四月トス

第十三條 流質期限十日以內ニ切迫シタル質置主ニ對シテハ附錄第四號樣式ノ注意書ヲ發スヘシ但シ特別ノ申出又ハ口頭注意ニ依リ其ノ期限ヲ了知セル者ニ對シテハ此限ニアラス

第十四條 流質期限經過ノ場合ハ其ノ質置主ニ對シ附錄第五號樣式ノ通知書ヲ發シ又ハ其家宅ニ就キ質受ヲ懇諭スヘシ相當期間經過ノ後必要ト認ムルトキハ之ヲ繰リ返シ行フコトヲ得

第十五條 質置主ヨリ流質期限ノ延長ヲ申出其ノ利子ヲ納付シタルトキハ之ニ對シ流質期限ノ日ヨリ更ニ四月以內ノ延長ヲ承認スルコトヲ得

第十六條 質置主ヨリ質札又ハ通帳ノ亡失屆出アリタルトキハ之ヲ調査シ法規則第十三條竝細則第六條ニヨリ取扱ヲナスヘシ此ノ場合質札又ハ通帳ヲ再交付セントスルトキハ其ノ適當トスル箇所ニ再發行ノ旨及

其年月日ヲ朱書スヘシ

第十七條　質物滅失又ハ毀損シタルトキハ速ニ其ノ原因竝損害程度ヲ詳記シ本市ノ責ニ歸スヘキヤ否ヤノ意見ヲ付シ上司ノ指揮ヲ受クヘシ

第十八條　前條報告ニ對シ本市責任ノ有無及條例第九條後段ノ債權拋棄金額若ハ損害賠償額ニ付決定通知アリタルトキハ其ノ必要ト認ムル事項ヲ質置主ニ通知スヘシ

第四章　質物還付ニ關スル取扱方

第十九條　準法第十條ノ規定ニ依リ質物受戻ノ質置主ニ對シテハ其ノ質札ハ之ヲ引揚ケ通帳ニハ其ノ旨記入シ之ヲ交付スヘシ

第二十條　法第十條及法規則第五條ノ規定ニ依リ一部辨濟アリタル爲質物ノ一部ヲ返還スヘキ場合ハ當該貸付元金ノ外利子相當額ヲモ辨濟アリタルトキ竝質物ノ分割可能ニシテ支障ナシト認ムルトキニ限ルヘシ質物ノ一部還付ノ場合ハ質札又ハ通帳ニ其旨記入シテ交付スルコトヲ要ス

第五章　流質物處分ニ關スル取扱方

第二十一條　流質物ハ流質期限經過後二月目末日ニ於テ既往最初ノ一箇月分ヲ取纒メ毎月之ヲ處分スルモノトス但シ臨時處分ヲ必要トスル物ハ其都度之ヲ爲スモノトス

第二十二條　流質物處分方法ヲ分チテ賣却及廢棄トス

第二十三條　賣却ヲ要スル流質物ハ其ノ品名員數評價額、不回收貸付元利金回收不能ニ終リタル經過及賣却豫定期日（報告ノ日ヨリ十日以後ニ定ムルヲ適ス）ヲ具シ遲滯ナク之ヲ報告スヘシ

前項ノ不回收貸付金利子ハ賣却豫定日迄ノモノヲ計上スヘシ

第二十四條　前條報告ニ對シ賣却決定ノ通達ヲ受ケタルトキハ左ノ方法ヲ以テ賣却豫定價額ヲ定ムヘシ

他ノ質屋主任一名ノ立會ヲ求メ之ト共ニ各自ノ認ムル時價ニ依リ記名入札ヲ爲シテ得タル平均價額

第二十五條　流質物ノ返還カ第二十三條ノ規定ニ依ル報告後ナルトキハ速ニ之ヲ報告シ上司ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十六條　流質物賣却ニ關スル市公告ニ依リ入札ノ場所カ質屋ナルトキハ當該質屋ニ於テ法第十一條第一項ノ規定ニ依リ一般競爭入札ニ付スヘシ

第二十七條　一般競爭入札ノ結果豫定價格ニ達セサルトキハ其ノ日ヨリ三日以内ニ指名競爭入札ニ付スヘシ

第二十八條　指名競爭入札ニ付スヘキ場合ニ於ケル入札者ハ適宜之ヲ選定スヘシ

第二十九條　一般又ハ指名競爭入札ニ依リ流質物ヲ賣却シ得サルトキハ速ニ之ヲ報告スヘシ此ノ場合隨意契約ニ依ルヲ利益ナリト認メ且適當ノ買受希望者アルトキハ共ニ之ヲ報告スヘシ

第三十條　第二十四條ノ規定ニ依ル賣却價格豫定ノ場合及第二十六條、第二十七條ノ規定ニ依ル入札ノ場合ニ於テハ本廳出張員ノ立會ノ下ニ之ヲ行フコトヲ要ス

第三十一條　法規則第八條ノ規定ニ依リ廢棄ヲ必要ト認ムル流質物ヲ生シタルトキハ第二十三條ノ例ニヨリ之ヲ報告シ指揮ヲ受クヘシ

第六章　簿册其事務取扱方

第三十二條　貸付ヲ爲サムトスルトキハ先ツ附錄第六號樣式ノ貸付傳票ニ記入シ之ヲ以テ質物貼付札ノ調製貸付原簿ヘノ轉載其ノ他關係簿册整理ノ用ニ供スヘシ

第三十三條　貸付元利金ノ回收アリタルトキハ先ツ附錄第七號樣式ノ收入傳票ニ記入シ之ヲ以テ貸付原簿其他關係簿整理ノ用ニ供スヘシ流質物賣却代ノ收入アリタルトキ亦同シ

第三十四條　貸付資金ハ附錄第八號樣式ノ請求書ニ依リ約七日間ニ於ケル所要見込額ヲ具シ之ヲ請求スヘシ

第三十五條　法第十三條ノ殘餘金ハ流質物賣却後附錄第九號樣式ニヨリ之ヲ請求スルト共ニ遲滯ナク附錄第十號ノ樣式ニヨリ質置主ニ通知スヘシ

第三十六條　現金簿册其ノ他重要ナル書類ハ常ニ之ヲ金庫又ハ鎖鑰アル災害豫防裝置物裝置物内ニ保管スヘシ

第三十七條　金庫及倉庫ノ鎖鑰ハ主任ニ於テ保管シ其ノ責ニ任スヘシ

第三十八條　貸付回收元金利子其ノ他ノ收入金アリタルトキハ各豫算收入別ニ取纒メ本市所定ノ納付書ニヨリ直接市金庫ニ拂込ムヘシ

第三十九條　貸付成績ハ前日分ヲ毎日報告スヘシ

第四十條　準法第十四條乃至第十六條ノ規定ニヨリ警察官署ヘ屆出ヲ爲シ及ヒ仝官署ノ處分アリタルトキハ其都度速ニ之ヲ報告スヘシ

準法第十五條第二項ノ規定ニ依リ警察官ヨリ交付アリタル領置證書ハ之ヲ保存シ置クヘシ

附　則

本内規ハ條例及細則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

調査票

氏名	
住所	
居宅ノ樣模	
居住年數	
家族員數	
生活及事況參考	
調査年月日	
備考	1、生活及事況參考欄ハ必要ト認メサルトキハ無之ヘシ 2、借入人等ノ記入ハ前科ヲ正シク申出ヲ要スル者ニ限リ出世尚ヘ藏ヲ出ト

第二號樣式ノ一

第　號　假預リ証

一、

一、

一、

右希望ニ依リ物品入質確定マデ假ニ御預リ申候也

昭和　年　月　日　名古屋市○○公益質屋

名古屋市　區　町　番地

殿

○注意　本書ハ入質確定ノトキ又ハ不成立ノ爲現品引取リノ際返却セラレタシ

若シ本書紛失ノ場合ハ入質確定ノトキハ無効トシ現金引取ノトキハ調査完了迄現品ヲ引渡サヾル事アルヘシ

第二號樣式ノ二

第六號樣式

貸付傳票

原簿第　號　　年　月　日　　質屋

職業　　住所

質置主　　通知場所

摘要	貸出金額
	円

質物内譯

質物	點數	評價	質物	點數	評價

第七號樣式

收入傳票

質屋

原簿第　號　　質置主

貸出日月	貸付金元	貸付期間	摘要	收入金 回收元金	利子	計
計						

（加除錄第三號三七九）

第三號樣式

質札原符　主務者印

第　號　質入昭和　年　月　日

質置主氏名　　質住所

通知場所

貸付金額　　質物

契

以下質札

ミシン入

評價額	1. 2. 3. 4.	認貸出承金額	1. 2. 3. 4.
質置主氏名			
年齢			
職業			
世帶主氏名			

第　號　假預リ物控

一、
二、
三、
四、

右物品入質申込ニ付假預リヲ爲ス

昭和　年　月　日

名古屋市〇〇公益質屋

區　町　番地　殿

第四號樣式　用紙ハ赤紙トス

注意書

豫て入質せられある左記の品物の流質期限は來る　月　日で切れますから其日迄に御受出し下さい。尤も都合上期限延長の御希望ならば同日迄に利子を御持參の上御相談下さい。其際質札も御持參を願ひます。

右前以て御注意申上ます。

年　月　日　　名古屋市　公益質屋

一、　點　殿

一、此貸出金額金　圓　錢也

第五號樣式　用紙ハ青紙トス

通知書

豫て質入れせられある左記の品物は既に去る　月　日で流質期限が切れましたが今の内ならば御受出し又は期限延長の御希望に應ずる事が出來ますから元利金又は利子御持參の上御相談下さい。若し何等の御申出なきときは適宜流質處分を致すことになります。

右御通知申上ます。

年　月　日　　名古屋市　公益質屋

一、　點　殿

一、此貸出金額金　圓　錢也

第八號樣式

前渡金請求書

一金

前回迄ノ受高	貸付濟高	殘高	前渡請求高	備考
				自　月　日 至　月　日　所要見込

右請求候也

年　月　日

○○公益質屋
書記　氏　　㊞

市長宛

第九號樣式

○○公益質屋殘餘金請求書

一金

但　月　日流質物ノ賣却ニ依ル殘餘金質置主　何　某
外　何　名　分

右御渡シ相成度此段及請求候也

年　月　日

○○公益質屋
書記　　㊞

市長宛

第十號樣式

通知書

先に質入せられたる品物は流質となりましたので今般賣却致ました處元利金を差引いた外に左の金額の殘餘がありました

一金

右金員は公益質屋法の規定に依つて質置主にお渡しすることになつて居りますから當質舗迄受取りに御越しになれば現金を御渡致します

追而御越の節は必ず印鑑、質札又は通帳と此の通知書をお持ち下さい。

年　月　日

名古屋市　○○公益質屋

宛

（別除錄第三號三八〇）

●名古屋市市民勤勞作業場條例

昭和十九年三月三十一日
條例第七號

第一條　名古屋市市民勤勞作業場ハ市民ノ勤務精神ヲ昂揚シ軍需並ニ生活必需物資其ノ他ノ加工若ハ製作ヲ爲サシム

第二條　作業ハ勤勞作業場ニ於テ爲スモノトス但シ特別ノ事由アルトキハ場外ニ於テ作業セシムルコトヲ得

第三條　作業者ニハ出來高若ハ作業時間ニ應ジテ工賃ヲ支給ス

第四條　就業當初工賃收得額特ニ低額ナルトキハ一定ノ期間ヲ限リ市長ノ定ムル補給金ヲ支給スルコトヲ得

第五條　勤勞作業場ニ加工若ハ製作ヲ委託スル者ニ對シテハ之ニ要スル費用及其ノ費用ノ二割以内ニ於テ市長ノ定ムル料金ヲ徵收ス但シ特別ノ事由アルトキハ料金ヲ減免スルコトヲ得

第六條　前條ノ費用及料金ハ之ヲ前納セシム但シ特別ノ事由アルトキハ之ヲ後納セシムルコトヲ得

第七條　本條例又ハ本條例ニ基ク規定ニ違反シタル者其ノ他必要アリト認メラルル者ニ對シテハ作業竝ニ委託ヲ拒否シ又ハ承認ヲ取消スコトアルベシ

第八條　本條例施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本條例ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市市民勤勞作業場條例施行細則

昭和十九年三月三十一日
規則第十七號

第一條　勤勞作業場ニ於テ作業シ得ル者ハ名古屋市内ニ居住スル者ニシテ年齡十三歲以上ノ身體健全ナル者其ノ他市長必要アリト認ムル者ニ限ル

第二條　勤勞作業ニ從事セントスル者及勤勞作業場ニ加工若ハ製作ヲ委託セントスル者ハ市長ニ願出デ其ノ承認ヲ受クベシ
前項ノ場合證明書其ノ他必要ナル書類ヲ提出セシメ且身元調査ヲ爲スコトアルベシ
出征軍人遺家族竝ニ應徵者遺家族ハ優先的ニ從業ヲ許可スルコトアルベシ

第三條　工賃ハ毎月末之ヲ支給ス但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條　市民勤勞作業場條例（以下條例ト稱ス）第四條ノ補給金ハ必要アリト認ムル者ニ限リ一人一日三十錢以内ニ於テ支給ス

第五條　作業者故意又ハ過失ニ因リ設備、材料若ハ製品ヲ減失又ハ毀損シタルトキハ其ノ損害ノ全部又ハ一部ヲ賠償セシムルコトアルベシ

第六條　條例第五條ニ依ル費用ハ其ノ都度之ヲ定メ料金ハ其ノ一割ニ相當スル額トス

第七條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ノ費用竝ニ料金ヲ後納若ハ分納セシムルコトアルベシ

（別除錄第三號三八一）

一　官公署ノ委託ニ係ルトキ
二　加工若ハ製作ノ結果ニ非ザレバ費用ヲ算定シ難キトキ
三　其ノ他已ムヲ得ザル事由アリト認ムルトキ

第八條　加工若ハ製作ヲ委託シタル者其ノ他委託ヲ取消シタルトキハ前納金ヲ以テ所要費用並ニ料金ニ充テ前條ニ依ル委託者其ノ委託ヲ取消シ又ハ納期ヲ過グルモ費用並ニ料金ヲ納付セザルトキハ其ノ者ノ委託物件ヲ任意ニ處分シ其ノ代金ヲ以テ所要費用並ニ料金ニ充テ剩餘アルトキハ之ヲ還付シ不足スルトキハ之ヲ追徵ス

第九條　天災地變其ノ他市ノ責ニ歸スベカラザル事由ニ因リ委託物件ノ滅失又ハ毀損ヲ生ジタルトキハ市ハ其ノ責ニ任セズ

第十條　作業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ作業ヲ拒否シ若ハ承認ヲ取消スコトアルベシ

一　定數ニ滿チタルトキ
二　成業ノ見込ナシト認ムルトキ
三　風紀若ハ秩序ヲ紊シ又ハ他人ニ迷惑ヲ與フル等ノ行爲アリト認ムルトキ
四　作業セザルコト引續キ三十日以上若ハ無屆ニテ作業セザルコト引續キ五日以上ニ及ビタルトキ
五　其ノ他必要アリト認ムルトキ

第十一條　委託者委託條件ニ違反シ又ハ不都合ナル行爲アリト認ムルトキ其ノ他必要アリト認ムルトキハ委託ヲ拒否シ又ハ承認ヲ取消スコトアルベシ

附　則

本規則ハ條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
名古屋市授產場規程ハ之ヲ廢止ス

●公衆食堂規程

大正十五年八月十五日
告示第九十六號

第一條　公衆食堂ニ於テ食事ヲナサントスルモノハ所定ノ料金ヲ支拂ヒ食券ヲ購入スベシ

第二條　食券ノ種類及料金ハ市長之ヲ定メ食堂前見易キ場所ニ掲示ス

第三條　食券ハ食堂內ニ於テ之ヲ發賣ス

第四條　既納ノ料金ハ事由ノ如何ニ拘ラズ之ヲ還付セズ

第五條　食堂ハ左記時間內開堂ス但シ時宜ニ依リ時限ノ變更又ハ休堂スルコトアルベシ

定　食　部

朝　食	自午前五時	至午前八時
晝　食	自午前十一時	至午後一時
夕　食	自午後四時	至午後八時
うどん食其他	自午前五時	至午後八時

第六條　食堂係員ニ於テ他人ノ迷惑トナルノ虞アリト認メタル者ハ入場ヲ謝絕シ又ハ退場ヲ求ムルコトアルベシ

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（加除錄第三號三八二）

●名古屋市結婚相談所規程

昭和十八年五月二十四日
告示第百四十八號

第一條　名古屋市結婚相談所（以下相談所ト稱ス）ハ市住民ノ結婚ニ關シ左ノ事業ヲ行フ

一　結婚ノ相談及斡旋
二　早期結婚及健全結婚ノ奬勵
三　結婚行事ノ改善指導
四　優生相談ノ斡旋
五　其ノ他事業運營上必要トスル事業

第二條　相談所ニ所長及所員若干人ヲ置ク

第三條　結婚相談ノ申込ヲ爲サントスル者ハ所定ノ申込書ニ寫眞一葉ヲ添附シテ之ヲ爲スベシ

第四條　申込ノ有效期間ハ申込ヲ受理シタル月ヨリ一年トス
前項ノ期間ヲ經過シタルトキハ前條ノ規定ニ準ジ申込ヲ更新スベシ

第五條　市長必要アリト認ムルトキハ申込者ノ戶籍謄本、履歷書、身分證明書及健康診斷書ヲ提出セシムルコトアルベシ

第六條　申込ヲ取消サントスルトキ若ハ他ノ斡旋ニ依リ結婚セントスルトキ又ハ住所其ノ他ニ異動アリタルトキハ其ノ旨市長ニ屆出ヅベシ

第七條　相談所ノ斡旋ニ依リ結婚成立シタルトキハ其ノ旨市長ニ屆出ヅベシ

第八條　本規定ノ定ムル所ニ依ル結婚ノ相談斡旋ハ凡テ無料トス

第九條　何人ト雖本所ニ於テ知得シタル一切ノ事項ハ結婚ノ相談、斡旋奬勵ヲ目的トスル場合ノ外之ガ秘密ヲ嚴守スルモノトス

第十條　本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（加除錄第三號三八三）

第十四類　土木

第十四類　土　木

第一章　通　則

●土木管區事務所設置ノ件

大正十三年三月十八日
告示第四十六號
改正 昭和十九年二月五日
告示第二十六號

土木課ニ屬スル事務ノ一部ヲ執行セシムル爲土木管區事務所ヲ置キ本年四月一日ヨリ事務ヲ開始ス

土木管區事務所ノ所轄區域ハ區ノ區域ニ依ル

土木管區事務所ノ所轄區域ヲ更ニ數區ニ分チ工區ヲ設ク

土木管區事務所ノ名稱位置及工區ノ名稱竝其ノ區域ヲ左ノ通定ム

昭和十九年二月十一日ヨリ左ノ通變更ス

土木管區事務所ノ名稱	同上位置	同上所轄區域
名古屋市東土木管區事務所	東區横代官町三十三番地	東區、北區、榮區
名古屋市西土木管區事務所	西區樋ノ口町四丁目十番地	西區、中村區
名古屋市中土木管區事務所	中區東川端町一丁目五十一番地	中區、千種區、昭和區
名古屋市南土木管區事務所	熱田區大瀬子町二百十二番地	南區、瑞穗區
名古屋市中川土木管區事務所	中川區清船町一丁目三番地	熱田區、中川區
名古屋市港土木管區事務所	港區熱田前新田中川流作	港區

●土木管區事務所ヲ經由スヘキ出願事件ノ件

大正十三年三月十八日
告示第四十七號

左ニ掲クル事項ヲ當廳ニ出願スル場合ハ所轄本市土木管區事務所ヲ經由スヘシ

前項ノ定メハ土木管區事務所ノ事務開始ノ日ヨリ之ヲ施行ス

記

一　道路、溝渠、用惡水路、堤塘等ノ新設、變更、廢止ニ關スル願
二　前號ニ掲クルモノヽ敷地ニシテ國有又ハ市有ニ屬スルモノヽ拂下又ハ交換ニ關スル願
三　道路占用規程第三條但書ノ願
四　市費ノ負擔ニ屬スル堤塘、用惡水路等ノ使用ニ關スル願
五　河川法準用河川ノ堤塘使用竝生産物ノ採取、拂下ニ關スル願
六　新堀川運河用地ノ使用ニ關スル願

右第四號ノ出願ニ付テハ副本二通、其他ニ付テハ副本一通添付ヲ要ス

●土地收用法施行令第二條ニ依ル證票ノ件

昭和十年十一月十二日
告示第三百六十一號

九三〇（九三一―九三〇欠）

九糎

（用紙西洋厚紙）

表面

六糎

第　號

土地收用法施行令第二條ニ依ル證票

職　氏　名

裏面

起業者　名古屋市
（又ハ名古屋市長）
名古屋市長　氏　名　印

●土木局所管土木工事材料出納保管規程

大正十三年三月二十四日
達第二十號ノ四

改正　昭和十八年八月二十五日達第四十四號　昭和十八年十月二十八日達第六十四號

第一條　土木局所管土木工事用材料ノ出納保管ハ總テ本規程ニ據ル

第二條　材料ノ出納命令ハ主管課長又ハ廨長、保管及出納ハ土木管區事務所主任又ハ特ニ主管課長又ハ廨長ノ指定シタル工事主任（以下單ニ保管主任ト稱ス）ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　材料ノ購入、保管轉換其他ノ事由ニ因リ收納確定シタルトキハ主管課長又ハ廨長ハ第二號樣式ニ依ル收納命令傳票ヲ保管主任ニ回付スヘシ

第四條　保管主任前條ノ傳票ヲ受ケタルトキハ現品ト對照シ收納保管スヘシ但シ時宜ニ依リ供給者又ハ檢收者ノ立會ヲ求ムルコトヲ得

第五條　保管主任前條ニ依リ材料ヲ收納シタルトキハ第三號樣式ニ依リ收納報告傳票ヲ主管課長又ハ廨長ニ提出シ同時ニ第一號樣式ニ依ル出納簿ニ記帳スヘシ

第六條　材料ノ交付ヲ受ケントスルモノハ第四號樣式ニ依ル交付命令傳票ヲ保管主任ニ提出スヘシ但シ臨時必要ヲ生シタル場合ノ外所要ノ前日迄ニ之ヲ爲スヘシ

第七條　保管主任前條ノ傳票ヲ受理シタルトキハ工事ノ設計書又ハ使用箇所ノ現況ト照査シ其ノ必要ヲ認メタルトキハ直ニ主管課長又ハ廨長ノ命令ヲ受ケ記帳後領收印ヲ徵シ交付スヘシ但シ自己ノ保管ニ屬セサルモノハ購入又ハ保管轉換ノ請求ヲ爲スヘシ

第八條　材料ヲ加工スル場合ニ於テハ前數條ノ規程ニ準シ加工濟ノ上相當品名ノ口座ニ收納ノ手續ヲ爲シ同時ニ第五號樣式ニ依ル報告書ヲ主管課長又ハ廨長ニ提出スヘシ
生産材料ノ價格ハ購入原價ニ所要勞力賃金（職工人夫賃等）ヲ加算記載スヘシ

第九條　保管主任ハ毎月ニ於ケル出納ノ實績ヲ調査シ翌月七日迄ニ第六號樣式ニ依ル報告書ヲ主管課長又ハ廨長ニ提出スヘシ

第十條　主管課長又ハ廨長ハ毎年二回以上吏員ヲシテ保管主任ノ保管ニ屬スル材料ノ檢査ヲ執行セシムヘシ此場合ニ於テハ檢査員ハ簿册ニ其結果ヲ記載シ署名捺印スヘシ
主管課長又ハ廨長ニ於テ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ前項ノ檢査ヲ執行セシムルコトヲ得

第十一條　保管主任交代シタルトキハ新舊主任者立會ノ上關係簿册ト現品ノ對照ヲ爲シ其符合ヲ認メタルトキハ其旨簿册ニ記載シ各自署名捺印スヘシ
前項ノ場合ニ於テ簿册ト現品ト符合セサルモノニ就テハ主管課長又ハ廨長ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ

第十二條　保管主任保管材料ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其原因、年月日、材料名、數量其他處理ノ參考トナルヘキ事項ヲ記載シ即時主管課長又ハ廨長ニ申出テ指揮ヲ受クヘシ

第十三條　保管主任ハ材料ノ亡失又ハ毀損ニ付テハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ノ外賠償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス
一　天災其他不可抗力ニ基因スルトキ

（加除錄第三號二八八）

二　故意過失懈怠ニ因ラサルトキ

第十四條　工事ノ爲生シタル殘材料及古材料ノ出納ニ就テハ前各條ノ規程ヲ準用ス

附　則

第十五條　本規程ハ土木局所管土木工事執行規程施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條　明治四十五年四月一日達第十號工事材料品保管出納規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附　則

本達ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式（用紙半紙判）

年月日	摘要	受高	拂高	殘高
月　日	何某ヨリ購入（何々ヨリ保管轉換）	一〇〇		
月　日	何工區ヘ交付		五〇	
月　日	何々理由ニ依リ棄却		一〇	
月　日	何々ニ加工		一〇	
月　日	翌年度ヘ繰越		三〇	
				〇

備考　本簿ハ材料名毎ニ口座ヲ設ケ月計、年度計ヲ附スヘシ
本簿ハ會計年度ヲ以テ整理シ年度末ノ殘高ハ翌年度ヘ繰越記帳スヘシ

第一號樣式

第　號	課長收納命令㊞	庶務主任㊞	主任㊞	（傳票回付先）何管區保管主任㊞ 何工場
材料收納命令傳票			年　月　日	

檢收月日	月　日	檢收者	何々技手	檢收場所	區	供給者住所氏名又ハ保管轉換先
工事番號設計	材料名	形狀寸法 長	幅又ハ厚 高又ハ徑	數量	單價	合金
					円	円

（加除錄第三號二八九）

第二號樣式

第　號	課長㊞	庶務主任㊞	主任㊞	（報告者）何管區保管主任㊞ 何工場
材料收納報告傳票			年　月　日	

收納命令傳票番號	材料名	寸法	單位	數量	供給者又ハ保管轉換先	氏名	保管場所	備考	記帳印

（議　者）
何管區保管主任㊞
何工場

第四號様式

第　號	課長交付命令㊞	庶務主任㊞	主任㊞

材料交付命令傳票　　年　月　日

工事番號	何道第　號用途		請求月日	月　日	請求書	何工區監督員㊞ 何工區監督員	
材料名	寸法	單位	數量	使用場所	交付月日	領收印	備　考	記帳濟印
					月　日		何倉庫ヨリ出	
							何々濱ヨリ出	

備考　本書ノ番號ハ請求者毎ニ記スヘシ交付月日及備考欄ハ保管主任ニ於テ記入スヘシ

（報　告　書）
何管區保管主任㊞
何工場

第五號様式

第　號	課長㊞	庶務主任㊞	主任㊞

材料加工報告傳票　　昭和　年　月　日

生産材料					原材料		
加工月日	材料名	寸法	單位	數量	單價	合金	品名	寸法	數量
					円	円			

附記　本加工ノ爲ニ要シタル大工何人人夫何人ナリ加工材料ハ何倉庫ニ保管ス

課長㊞　庶務主任㊞　主任㊞　（報　告　者）
昭和　年　月分材料出納報告書　何管區保管主任㊞
何工場

第六號様式

材料名	形狀寸法		單位	受			拂			殘	單	合
	長	高又ハ厚	幅又ハ徑	前月ヨリ繰越高	購入	轉換	計	工區	工區	加工業勞	計	翌月ノ繰越高	位	金

備考　殘材料ノ單價及合金ハ購入原價又ハ之ニ加工勞力賃金ヲ加算シタルモノヲ記載スヘシ但シ其不明ナルモノハ適宜時價ニ依ルコトヲ得

第二章　都市計畫

●名古屋市都市計畫建築敷地處分規程

昭和四年三月二十七日
告示第三十九號

第一條　都市計畫法第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用シタル土地ノ賣却ニ付テハ同法施行令第二十三條乃至第二十五條ノ規定ニ依ルノ外本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條　賣却ハ工區毎ニ其ノ工區ノ換地處分後之ヲ行フ

第三條　都市計畫法施行令第二十四條第一號第一號ノ賣却ヲ爲ス土地ノ附近地ハ運河ニ向ツテ其ノ土地ノ兩側境界線（道路ニ接スルトキハ其ノ道路ノ中心線又ハ對側境界線）ヲ延長シタル線ト運河ノ中心線（對岸ニ賣却ヲ爲ス土地ナキトキハ運河ノ對側境界線）トヲ以テ圍マレタル土地トス

土地ノ形狀ニ依リ前項ニ依リ難キ場合ハ市長ノ定ムル所ニ依ル

第四條　賣却ニ依リ生スル收入ハ都市計畫事業費ニ充ツルノ外他ノ費途ニ充ツルコトヲ得ス

第五條　都市計畫法施行令第二十四條第一項ノ競爭入札ニ於テ豫定價格ニ達セサルトキハ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條　賣却ニ付テハ市長ノ承認ヲ受ケタル設計ニヨリ其他ノ建築物ヲ賣却ノ時ヨリ五年以内ニ完成スヘキ條件ヲ附スルモノトス但シ市長ハ事情ニ依リ其ノ年限ヲ延長スルコトヲ得

第七條　前條ノ條件ニ違反シタルトキハ市ハ賣却代金ヲ以テ買戻スコトヲ得

前項ニ依リ買戻シタル場合ニ於テハ被買戻人ハ遲滯ナク地上物件ヲ收去スル義務アルモノトス其ノ義務ノ履行ニ依リ生スル損害ハ義務者ノ負擔トス

第八條　本規程ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋市都市計畫建築敷地處分規程施行細則

昭和四年三月二十七日
告示第四十號

第一條　名古屋市都市計畫建築敷地處分規程（以下單ニ規程ト稱ス）第八條ニ依ル必要ナル事項ハ本細則ニ定ムル所ニ依ル

第二條　都市計畫法施行令第二十四條ニ規定スル競爭入札ヲ行ハムトスルトキハ入札期限前十五日目迄ニ左ノ事項ヲ公告ス

一　競爭入札ニ付スヘキ土地
二　入札加入ノ資格
三　入札ニ必要ナル文書圖面等ヲ示スヘキ場所
四　入札場所及期限
五　開札場所及日時

六　其ノ他入札ニ關シ必要ナル事項

前項ノ公告事項ハ入札加入ノ資格ヲ有スル者ニ對シ之ヲ通知スルコトアルヘシ

第三條　規程第五條ノ再度ノ入札ニ於テ仍豫定價格ニ達セサルトキハ一般ノ競爭入札ニ依ル

第四條　落札人ハ別記樣式ニ依ル土地賣買契約ト共ニ保證金トシテ賣買價格ノ百分ノ十以上ヲ現金ヲ以テ市ニ提供スヘシ

第五條　賣却ニ關シ規程並本細則ニ定ムルモノノ外市長ハ必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得

第六條　入札及契約ニ關シ規程並本細則ニ別段ノ定ナキ限リ大正四年四月告示第五十一號入札及契約規程ヲ準用ス

附　則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別　記

土地賣買契約書樣式

名古屋市都市計畫建築敷地賣買ニ付賣渡人名古屋市長（以下單ニ市長ト稱ス）ト買受人某（以下單ニ買受人ト稱ス）トノ間ニ左ノ契約ヲ締結ス

第一條　賣買契約土地ハ名古屋市何區何町何番宅地面積何坪トス

第二條　前條土地ノ賣却代金ハ何程也トシ何年何月何日迄ニ市長ニ納付スルモノトス

第三條　第一條ノ土地ニ對シテハ市長ノ承認ヲ受ケタル設計ニ依リ工場其ノ他建築物ヲ何年何月何日迄ニ完成スルモノトス

第四條　前條ニ違反シタルトキハ賣却ノ時ヨリ十年以內ニ於テ市長ハ隨時第二條ノ賣却代金ヲ以テ買戻スコトアルヘシ此ノ場合ニ於テ買戻ニ要スル登錄稅其ノ他ノ費用ハ被買戻人ノ負擔トス

前項ニ依リ買戻シタル場合ニ於テハ被買戻人ハ遲滯ナク地上物件ヲ收去スルノ義務アルモノトス其ノ義務履行ニ依リ生スル損害ハ義務者ノ負擔トス

第五條　前二條ハ轉得者ニ對シテモ其ノ効力ヲ有ス

第六條　買受人ハ本契約ノ締結ト同時ニ保證金トシテ金何程也ヲ現金ヲ以テ市長ニ提供スルモノトス

前項ノ保證金ハ賣却代金ニ之ヲ充當ス但シ買受人第二條ニ違反シタルトキハ保證金ハ市ノ所得ニ歸ス

第七條　第一條ノ土地ハ第二條ノ賣却代金完納ノ後所有權移轉登記ヲ爲シ其ノ登記ヲ以テ引渡ヲ完了シタルモノトス

前項登記ニ要スル登錄稅其ノ他ノ費用ハ買受人ノ負擔トス

第八條　第一條ノ土地ハ公簿登記坪數ニ依ル但シ坪數ニ付不足ヲ生シ又ハ其ノ他ノ損害ヲ生シタル場合ト雖市長ニ之カ賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

第九條　第一條ノ土地ニ對スル公租公課其ノ他ノ負擔ニ付テハ契約締結ノ日ヨリ買受人ノ負擔トス

第十條　買受人本契約ヲ履行セサルトキハ市長ハ履行ノ催告ヲ爲サスシテ直ニ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ市ニ損害アルトキハ之ヲ賠償セシム

第十一條　本契約ニ關スル一切ノ文書ニ付見解ヲ異ニスルトキハ買受人ハ總テ市長ノ認定ニ從フ

第十二條　前各條ニ依ルノ外買受人ハ名古屋市都市計畫建築敷地處分規程並同規程施行細則ヲ遵守スルノ義務アルモノトス

第十三條　本契約書ニハ第一條ノ土地ノ位置ヲ表示スル爲見取圖ヲ添附ス

右契約ヲ證スル爲本證貳通ヲ作成シ各壹通ヲ所持ス

昭和何年何月何日

名古屋市長　氏　名

住　所

買受人　氏　名

●名古屋都市計畫事業名古屋驛前土地區劃整理施行規程

昭和十三年九月十日告示第二百五十八號

改正　昭和十七年一月十四日告示第十三號

第一條　內務大臣ノ命令ニ依リ都市計畫事業トシテ本市ガ施行スル名古屋驛前土地區劃整理事業ニ關シ都市計畫法施行令第十七條ノ規定ニ依ル費用負擔方法及耕地整理法ニ基ク規約ニ代ルベキ必要事項ハ本規程ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本地區ハ名古屋市都市計畫事業名古屋驛前土地區劃整理地區ト稱ス

第三條　從前ノ土地各筆ノ地積ハ都市計畫トシテ內閣ノ認可アリタル日（昭和十一年三月三十日）現在ノ土地臺帳地積ニ依ル但シ同日以後新ニ土地臺帳ニ登錄セラレタルモノハ其ノ日現在ニ依リ國有公用財產ハ所管廳ノ財產臺帳ニ依ル

昭和十六年十二月五日內務大臣ノ施行命令ニ依リ本地區ニ編入シタル區域ノ從前ノ土地各筆ノ地積ハ前項ノ規定ニ拘ラズ名古屋市則武耕地整理組合換地處分ノ總會ノ議決ヲ爲シタル換地說明書記載ノ換地ノ地積ニ依ル

第四條　從前ノ土地及整理後ノ土地各筆ノ評定價格及等位ハ其ノ位置、形質、地積、收益賃貸價格、交通ノ便否、周圍ノ狀況等ヲ斟酌シテ市長之ヲ定ム但シ公共團體所有ノ土地ニシテ道路其ノ他公共ノ用ニ供シツツアルモノ又ハ供セントスルモノニハ評定價格ヲ附セズ

第五條　市長ハ整理施行ノ爲必要アルトキハ第十四條ノ規定ニ準ジ從前ノ土地ニ對スル換地豫定地ヲ指定スルコトヲ得

前項ノ指定ヲ爲シタルトキハ土地所有者ニ通知ス指定ヲ變更シ又ハ更正シタルトキ亦同ジ

前項ノ通知ヲ爲ス場合ニ於テ第十六條第一項ノ規定ニ依ル屆出アリタルトキハ其ノ目的タル土地ノ部分ヲ指定シテ之ヲ爲シ且其ノ權利者ニ對シ指定シタル部分ヲ通知スルモノトス

第六條　市長前條第一項ノ規定ニ依リ換地豫定地ノ指定ヲ爲シタルトキハ第十四條ノ規定ニ準ジ假清算ヲ爲スコトヲ得

前項ニ依リ假清算金ヲ交付スル場合ニ於テハ市長ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供セシムルモノトス

前項ニ依リ難キ場合ニ於ケル交付金ハ耕地整理法第三十條第三項ノ認

可後迄之ヲ保留ス此ノ場合ニ於テハ市長ハ利息ニ相當スル金額ヲ併セ交付スルコトヲ得

第七條　第五條第二項ノ規定ニ依リ通知ヲ受ケタル者ハ換地處分認可告示ノ日迄其ノ換地豫定地ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ從前ノ土地ハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ移轉、除却又ハ破毀スベキ建物、工作物、木石等アル爲若ハ特別ノ事由ニ依リ換地豫定地ノ使用又ハ從前ノ土地ノ使用禁止ヲ爲スコト能ハザルトキハ市長ハ別ニ使用開始又ハ使用禁止ノ期日及其ノ區域ヲ通知スルモノトス

土地所有者又ハ借地權者從前ノ土地又ハ換地豫定地ニ於テ土地ノ形質ヲ變更シ建物若ハ工作物ノ新築、改築、增築、移轉、大修繕、大變更ヲ爲シ物件ヲ附加增置シ又ハ他人ヲシテ之ヲ爲サシメントスルトキハ豫メ市長ノ承認ヲ受クベシ

土地所有者又ハ借地權者市長ノ承認ヲ得ズシテ前項ノ行爲ヲ爲シ又ハ他人ヲシテ之ヲ爲サシメ若ハ之ニ因リ本市ニ損害ヲ及ボシタルトキハ市長ハ其ノ土地所有者又ハ借地權者ニ對シテ原狀回復又ハ損害賠償ヲ命ズルコトヲ得

第八條　移轉、除却又ハ破毀ヲ要スベキ建物、工作物、木石等アルトキハ其ノ所有者及占有者ニ對シ市長ハ相當ノ期限ヲ指定シテ之ヲ移轉、除却又ハ破毀スベキ旨ヲ命ズ

前項ノ移轉、除却又ハ破毀ニ要スル費用及通常受クベキ損害ハ本市ニ於テ之ヲ補償ス但シ法令又ハ本規程ニ違反シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條　本事業施行ノ爲本市ニ於テ必要アルトキハ地區內ノ土地ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ土地ガ使用收益ノ目的ニ供シ得ルモノナルトキハ借賃ヲ見積リ市長之ヲ決定シテ補償スルモノトス

第十條　本事業ノ施行ニ要スル費用ハ整理施行ニ依リ土地ノ價値增進額ヲ標準トシテ土地所有者ヲシテ之ヲ負擔セシム但シ地上權、賃借權其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ヲ消滅セシムル爲ニ要スル費用ハ其ノ土地ノ所有者ヲシテ之ヲ負擔セシム

前項ノ費用ハ豫算ニ定ムル範圍內ニ於テ概算額ニ依リ市長之ヲ徵收スルコトヲ得此ノ場合ニ在リテハ概算額ガ精算額ニ比シ超過スルトキハ之ヲ還付シ不足スルトキハ之ヲ追徵ス

市長ノ定ムル期間內ニ土地所有者ヨリ替費地提供ノ申出アリタルトキハ市長ハ換地豫定地ノ指定ヲ爲シタル後其ノ土地ヲ處分シテ其ノ土地所有者ノ負擔スベキ第一項ノ費用ニ充當スルコトヲ得

第十一條　耕地整理法第十八條第二項若ハ同法第二十一條第二項ノ規定ニ依リ損害補償ノ請求アリタル場合ニ於ケル補償金額ハ市長之ヲ定メ其ノ土地ノ所有者又ハ賃貸人ニ對シテ之ヲ求償ス

第十二條　第六條第一項及耕地整理法第三十條第一項、第二項ノ規定ニ依ル徵收金又ハ第十條第一項、第二項ノ費用納付ノ期限及場所ハ市長之ヲ定メ十日前ニ土地所有者ニ通知ス

前項ノ徵收金又ハ費用若ハ前條ノ規定ニ依ル求償金ヲ期限內ニ納付セザルトキハ納付期限ノ翌日ヨリ納付又ハ滯納處分ノ日ノ前日迄ノ日數ニ應ジ日步四錢ノ延滯利息ヲ徵收スルノ外督促狀ヲ發シタルトキハ本市稅外收入督促竝書類送達條例ニ依リ手數料ヲ徵收ス

第十三條　換地處分ハ市長ノ適當ト認ムル時期ニ於テ之ヲ行フ

第十四條　地換ハ從前ノ土地ニ對シ整理施行ニ依リ其ノ土地ノ利用增進ノ程度ニ應ジ權利地積ヲ定メ之ヲ標準トシテ從前ノ位置若ハ其ノ附近地ニ於テ之ヲ交付ス但シ從前ノ位置若ハ其ノ附近地ニ於テ交付シ得ザルモノニ對シテハ適當ト認ムル位置ニ於テ之ヲ交付スルコトヲ得

國有公用財產及昭和十六年十二月五日內務大臣ノ施行命令ニ依リ本地區ニ編入シタル土地ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラズ從前ノ土地ノ評定價格ヲ以テ權利價格トシ之ヲ標準トシテ換地ヲ交付ス

從前ノ土地僅少ナルカ又ハ特別ノ事情ニ依リ換地ヲ交付スルコト能ハザルモノニ付テハ金錢ヲ以テ淸算スルコトヲ得

前三項ノ適用ニ依リ換地トシテ交付ヲ爲スコト能ハザル土地及第十條第三項ノ規定ニ依ル土地ヲ處分スルトキハ市長ハ地區內土地所有者ノ競爭入札ニ附シ豫定價格ヲ超ユル最高價格ノ者ニ之ヲ交付ス

前項ニ依リ處分シ難キ場合ハ一般ノ競爭入札又ハ隨意契約ニ依リ處分スルコトヲ得

耕地整理法第三十條ノ淸算金額ハ換地ヲ受クベキ權利地積ト交付サレタル換地地積トノ差ニ換地ノ評定單價ヲ乘ジタル金額トス但シ第二項ノ場合ニ於ケル淸算金額ハ權利價格ト換地ノ評定價格ノ差額トス

第十五條　前條第三項、第六項ノ淸算金ニシテ第六條第一項ノ規定ニ依リ徵收シ又ハ交付シタル假淸算金ニ比シ差額ヲ生ジタルトキハ換地處分認可告示後遲滯ナク之ヲ追徵シ又ハ還付スルモノトス

第十六條　本規程施行ノ日現在ニ於テ借地權ノ目的タル土地アルトキハ土地所有者又ハ借地權者ハ相互連署ヲ以テ其ノ目的タル土地ニ付遲滯ナク之ヲ市長ニ屆出ヅベシ但シ連署ヲ得ルコト能ハザルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スベシ

本規程施行ノ日以後ニ於テ新ニ借地權ヲ設定シ又ハ變更ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同ジ

本規程施行ノ日以後ニ於テ地區內ノ土地又ハ建物ニ關シ前項以外ノ權利ヲ設定シ又ハ其ノ權利ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ所有者又ハ權利者ハ遲滯ナク之ヲ市長ニ屆出ヅベシ

第十七條　本事業ノ會計年度ハ本市ノ例ニ依ル

第十八條　本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附　則

本規程ハ都市計畫法施行令第十七條ノ規定ニ依リ愛知縣知事ノ認可アリタル日ヨリ之ヲ施行ス

●名古屋都市計畫事業名古屋驛前土地區劃整理施行規程細則

昭和十四年三月十三日
告示第六十五號

第一章　總　則

〔改正　昭和十八年二月十日告示第四十三號〕

第一條　名古屋市都市計畫事業名古屋驛前土地區劃整理施行規程（以下規程ト稱ス）ノ施行ニ關シテハ本則ノ定ムル所ニ依ル

第二條　規程第四條ノ評定價格及等位ノ決定ニ付利用上合筆シ得ベキ土

地若ハ之ニ準ズベキモノハ之ヲ一筆ニ、一筆ノ土地ニシテ利用上別箇ノ土地ト認メラルルモノ若ハ分割評定ヲ適當ト認ムルモノハ之ヲ數筆ニ看做スコトヲ得

第二章　換　地

第一節　劃　地

第三條　劃地ヲ分チテ左ノ二種トス

一　角　地　　正面及側面ニ道路ヲ有スル土地

二　普通地　　角地以外ノ土地

第四條　劃地ノ標準ハ左ノ通トス

一　正面間口ハ幅員十間以上ノ道路ニ接スル角地ニ在リテハ之ヲ五間以上、其ノ他ノ角地竝普通地ニ在リテハ之ヲ三間以上トス但シ正側兩面道路ガ鋭角ヲ以テ交ル場合ニ於テ正面道路ノ幅員十間以上ナルトキハ側面道路ヨリ五間ヲ、十間未滿ナルトキハ三間ヲ離レタル線ト裏界線トノ交點ヨリ正面道路ニ下シタル垂線ノ足ト正側兩面道路ノ境界線ノ交點間ノ長以上トス

間口弧ヲナスモノハ其ノ弦ヲ以テ間口ト看做ス

二　奥行ハ幅員十間以上ノ道路ニ接スル劃地ニ在リテハ之ヲ十間乃至十五間、幅員十間未滿ノ道路ニ接スル劃地ニ在リテハ之ヲ八間乃至十間トス

第五條　二以上ノ道路ニ接スル土地ノ正面道路トハ幅員大ナル道路ヲ謂ヒ、幅員同ジキトキハ路線價値高キ道路ヲ謂フ

第二節　換地區域、換地過不足渡及權利地積

第六條　整理後ノ道路劃地界等ヲ以テ換地區域ヲ定メ其ノ區域内ニ於テ換地スベキ豫定ノ從前ノ土地ヲ道路、筆界等ヲ以テ適當ニ定ム

第七條　角地ニ對スル換地ハ其ノ換地區域内ノ從前ノ位置ニ於ケル角地又ハ地貌近似セル角地ヲ交付ス但シ權利地積ガ著シク劃地標準ニ達セザルトキ若ハ特別ノ事情アルトキハ普通地ヲ交付スルモノトス

第八條　從前ノ土地ガ換地セラルベキ豫定ノ換地區域内ニ於テ換地ヲ交付シ能ハザルトキハ第二十五條第一號ニ準ジ權利價格ヲ求メ之ニ相當スル土地ヲ他ノ換地區域内ニ於テ交付ス

換地區域内ノ各劃地ノ評定單價ノ差著シキ場合ニ於テ其ノ換地區域内ニ於テ換地ヲ交付スルトキハ前項ノ例ニ依リ計算スルモノトス

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ニ對シテハ換地ヲ交付セザルコトヲ得

一　換地ガ第四條ノ劃地標準ニ達セザル土地

二　民有ノ道路竝田ニシテ現ニ道路トシテ供用シツツアル土地

三　都市計畫街路事業用地内ノ土地

第十條　土地所有者市長ノ定ムル評定價格ニ依リ過渡交付ヲ願出タルトキハ換地設計上支障ナキ範圍ニ於テ增換地ヲ爲スコトヲ得

第十一條　規程第十四條ノ權利地積トハ從前ノ地積ニ第十二條ノ加算地積ヲ加ヘタルモノヨリ第十四條ノ共通減歩地積及第十五條ノ地先減歩地積ヲ控除シタルモノトス但シ第九條第二號、第三號ノ土地ニシテ換地ヲ交付シタル場合ハ整理前ノ評定價格ヲ換地ノ評定單價ニテ除シタル商ヲ以テ權利地積トス

第三節　加　算

第十二條　加算地積トハ從前ノ土地ニ加算スル地積ヲ謂ヒ其ノ土地ノ間口（街角ヲ剪除シタル部分ニ在リテハ其ノ剪除セザル部分ノ道路境界線ヲ延長シタル線ノ交點迄ノ長）ニ其ノ土地ノ接スル道路（水路ニシテ道路トシテ利用シツツアルモノ及第九條第二號、第三號ノ土地ヲ含ム）ノ加算幅員ヲ乘ジタル地積トシ左ノ各號ニ依リ之ヲ算定ス

一　加算幅員ハ左表ニ依ル但シ道路幅員不整ナルモノニ在リテハ其ノ平均幅員ニ依ル

道路幅員	加算幅員
六、〇間以下	道路幅員ノ二分ノ一
八、〇間	三、五〇間
八、五間	三、六五間
一〇、〇間	四、〇〇間
一三、五間	五、〇〇間
二四、〇間	七、〇〇間

二　水路（道路トシテ利用シツツアルモノヲ除ク）ヲ距テテ道路ニ面スル土地ニ對スル加算幅員ハ前號加算幅員ノ三分ノ二トス

三　街角剪除線ニ接スル部分ノ普通地ノ加算ハ交會スル二道路ノ内幅員大ナル道路ノ加算幅員ニ依ルモノトス

四　幅員十間以上ノ正面道路ニ接スル奥行十間未滿ノ土地及幅員十間未滿ノ正面道路ニ接スル奥行八間未滿ノ土地ニ對スル加算地積ハ前各號ニ依リ計算シタル地積ニ第十八條ノ奥行遞減率ヲ乘ジタルモノトス此ノ場合ニ於テ奥行一定セザル土地ニ付テハ第十九條ノ規定ヲ準用スルモノトス

五　幅員十間以上ノ正面道路ニ接スル角地ノ奥行ニシテ十五間ヲ、幅員十間未滿ノ正面道路ニ接スル角地ノ奥行ニシテ十間ヲ超ユル場合ニ於テハ其ノ超過部分ハ之ヲ別箇ノモノト看做シ其ノ接スル道路ニ付前各號ニ依リ加算地積ヲ算出スルモノトス

六　側面又ハ背面ガ道路ニ接スル土地ハ正面ニ付算出シタル地積ニ側面又ハ背面道路ニ付算出シタル地積ヲ加ヘタル地積トス此ノ場合ノ側面又ハ背面ノ加算地積ハ第一號乃至第三號ニ依リ加算セラルベキ地積ノ三分ノ二トス但シ角地ノ側面道路ガ正面道路ト鈍角ヲ以テ交ル場合ニ於テ其ノ側面ノ對地ノ街角ヲ剪除シタル爲側面ニシテ正面道路ニ接スルモノト認ムル部分ニ付テハ正面道路加算幅員ノ三分ノ二ヲ加算幅員トシテ算出シタル地積トシ背面ガ道路ニ接スル土地ニシテ其ノ奥行ガ正背兩面道路ニ付第四條ノ最低標準奥行ノ和以上ナルトキハ背面道路ハ之ヲ正面道路ト看做シテ算出シタル地積トス

七　背面道路（正面道路ト看做シタルモノヲ除ク）ノ加算地積ニ付テハ第四號ノ奥行遞減ヲ行ハザルモノトス

第十三條　從前ノ土地ガ二以上ノ換地區域ニ跨ル場合ニ於テ換地區域ニ依リ區分セラレタル部分ノ加算地積ハ換地區域ニ拘ラズ前條ニ依リ算出セラレタル地積ヲ夫々ノ換地區域内ノ道路ニ接スル間口及其ノ部分ノ加算幅員ヲ標準トシテ配分算定スルモノトス

第四節　減　歩

第十四條　共通減歩地積トハ整理施行後ニ於ケル道路敷地ヨリ地先減歩地積ヲ控除シタル地積及公園等共同シテ負擔スベキ地積ノ内個々ニ負擔スベキ地積ヲ謂ヒ左ノ方法ニ依リ之ヲ算定スルモノトス

$$\frac{(\text{共通減歩總地積})}{(\text{前　總　地})} \div \frac{(\text{後總價})}{(\text{前總價})} \div \frac{(\text{後總地})}{(\text{前總地})} = \text{共通減歩係數}$$

$$(\text{前　地}) \times \frac{(\text{後單})}{(\text{前單})} \times \text{共通減歩係數} = \text{共通減歩地積}$$

備　考

（前總地）ハ共通減歩ヲ負擔スベキ土地ノ整理前總地積
（後總地）ハ共通減歩ヲ負擔スベキ土地ノ整理後總地積
（前總價）ハ共通減歩ヲ負擔スベキ土地ノ整理前總評定價格
（後總價）ハ共通減歩ヲ負擔スベキ土地ノ整理後總評定價格
（前　單）ハ整理前ノ土地ノ評定單價
（後　單）ハ整理後ノ土地ノ評定單價
（前　地）ハ整理ノ一箇ノ地積

前項ノ共地減歩ヲ負擔スベキ土地トハ耕地整理法第十一條第一項ノ土地、名古屋市有地ニシテ公共ノ用ニ供シツツアル土地及第九條第二號、第三號ノ土地以外ノ土地ヲ謂フ

第十五條　地先減歩地積トハ整理施行後ニ於ケル道路敷地ニ付個々ニ負擔スベキ地積ヲ謂ヒ左ノ方法ニ依リ之ヲ算定スルモノトス

一　普通地ノ地先減歩ハ次ノ方法ニ依リ算出シタル合計地積トス

$$(\text{イ})\ \frac{(\text{前})+(\text{加})-(\text{共})-(\text{不})-(\text{側地})-(\text{ロ})-(\text{ハ})}{(\text{正})} \times (\text{遞}) + (\text{奥}) \cdots\cdots$$

……正面道路ノ減歩地積

（ロ）（背）×（間）……背面道路ノ減歩地積
（ハ）（正）×（距）×（遞）…側界線鋭角部分ノ減歩地積

備　考

（前）ハ整理前ノ一箇ノ地積（坪）
（加）ハ加算地積（坪）（第十二條）
（共）ハ共通減歩地積（坪）（第十四條）
（不）ハ不整形輕減地積（坪）（第十六條）
（側地）ハ換地ノ側界線ニ依リテ爲ス不整部分ノ地積（坪）
（正）ハ正面道路負擔幅員（間）（第十七條第一項）
（遞）ハ奥行遞減率（第十八條）
（奥）ハ換地奥行（間）（第十九條）
（距）ハ側界線ト裏界線トノ交點ヨリ間口線ニ對シ直角ナル線ヲ引キタル交點ト側界線ト間口線トノ交點ノ距離（間）
（背）ハ背面道路負擔幅員（間）（第十七條第二項）
（間）ハ換地ノ背面間口（間）

二　角地（街角ヲ剪除シタル部分ニ在リテハ之ヲ剪除セザルモノト看做ス）ノ地先減歩ハ正面又ハ背面道路ニ在リテハ普通地ト看做シテ前號ニ依リ、側面道路ニ在リテハ次ノ式ニ依リ各計算シタル地積ヲ合計シタルモノトス但シ此ノ場合ニ於ケル前號（イ）式ノ適用ニ付テハ分子ヨリ左ノ側面地先減歩地積ヲ差引キタルモノヲ分子トシテ計算スルモノトス

$$(\text{側}) \times (\text{ロ}) = \text{側面地先減歩地積}$$

備　考

（側）ハ側面道路負擔幅員（間）（第十七條第二項）
（ロ）ハ側面道路ニ接スル間口（間）

第十六條　間口線ト裏界線（背面間口線ヲ含ム）ト平行セザル換地ノ不

整形輕減地積ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ算定ス

一　側界線ガ間口線ニ直角ナル場合ハ側界線ニ平行ニ三間毎ニ線ヲ引キ依テ得タル各梯形ノ平行セル線ノ内上梯ト裏界線トノ交點ヨリ下梯ヘ垂線ヲ引キ得タル各三角形ノ總地積ノ四分ノ一ノ地積

二　前號ノ場合ニ於テ裏界線ガ屈折スルトキハ其ノ屈折點ヨリ間口線ニ垂線ヲ立テ前號ノ例ニ依リ計算シタル地積

三　側界線ノ一ガ間口線ニ直角ナラザル土地ニ付テハ前條第一號ノ側地ニ該當スル部分ヲ控除シタル殘地ニ付前各號ノ例ニ依リ計算シタル地積

四　土地ノ形狀ニ依リ間口線ニ垂線ヲ立ツルコト不適當ト認ムルモノニ在リテハ間口線ニ直角ニ近キ側界線ノ平行線ヲ以テ前各號ノ垂線ト看做シ計算シタル地積

第十七條　正面道路負擔幅員ハ左表ノ通トス

換地ノ接スル道路幅員	負擔幅員
六、〇間以下	道路幅員ノ二分ノ一
八、〇間	三、五間
八、五間	三、六五間
一〇、〇間	四、〇間
一三、五間	五、〇間
二四、〇間	七〇間

側面及背面道路負擔幅員ハ其ノ道路ニ接スル普通地ノ正面道路負擔幅員ノ三分ノ二トス但シ角地ノ側面道路ガ正面道路ト鈍角ヲ以テ交ル場合ニ於テ其ノ側面ノ對地ノ街角ヲ剪除シタル爲側面ニシテ正面道路ニ接スルモノト認ムル部分ニ付テハ正面道路負擔幅員ノ三分ノ二トス街角剪除線ニ接スル部分ノ普通地ノ正面道路負擔幅員ハ交會スル二道路ノ内幅員大ナル道路ノ負擔幅員ニ依ルモノトス

第十八條　第十五條ノ奥行遞減率ハ左表ノ通トス

奥地遞減率%	幅員十間以上ノ道路ニ接スル換地奥行	幅員十間未滿ノ道路ニ接スル換地奥行
一〇〇	一〇、〇間以下	八、〇間以下
九九	一〇、〇間未滿	一〇、五間以下
九八	一五、五間以下	八、〇間未滿
九五	一六、〇間以下	一一、〇間以下
九二	一六、五間以下	一一、五間以下
八八	一七、〇間以下	七、〇間未滿
八四	一七、五間以下	一二、〇間以下
八〇	一八、〇間以下	一二、五間以下
七五	一八、五間以下	六、〇間未滿
七〇	一九、〇間以下	一三、〇間以下
六五	一九、五間以下	一三、五間以下
六〇	二〇、〇間以下	五、〇間未滿
五四	二〇、五間以下	一四、〇間以下
四八	二一、〇間以下	一四、五間以下
四二	二一、五間以下	五、五間未滿
三六	二二、〇間以下	一五、〇間以下
	二二、五間以下	一五、五間以下
	二三、〇間以下	六、〇間以下
	二三、五間以下	一六、五間以下
	二四、〇間以下	一七、〇間以下
	二四、五間以下	一七、〇間ヲ超ユルモノ
	二五、〇間以下	三、〇間未滿
	二五、五間以下	三、五間未滿
	二六、〇間以下	三、〇間ヲ超ユルモノ
	二六、五間以下	
	二七、〇間以下	
	二七、〇間ヲ超ユルモノ	

第十九條　第十五條ノ換地奥行ガ一定セザルトキハ地積ヲ間口ニテ除シタル長ヲ以テ換地奥行ト看做ス

第二十條　本節ノ規定ノ適用ニ付一街廓若ハ其ノ大部分ガ一筆トナルベキモノ又ハ角地タル換地ノ奥行ガ標準奥行以上トナルモノニ付テハ二以上ノ割地ト看做スコトアルベシ

第五節　換地豫定地及借地權ノ指定

第二十一條　規程第五條ニ依ル換地豫定地及借地權ノ目的タル部分ノ指定ハ工事施行區域ヲ定メ其ノ區域内ニ於テ土地ノ情勢ニ應ジ適宜之ヲ行フ但シ特ニ必要ト認ムルトキハ工事施行區域外ニ亘リ之ヲ行フルコトアルベシ

第二十二條　規程第五條第三項ニ依ル借地權ノ目的タル部分ノ指定ハ換地豫定地地積ト從前ノ地積トノ比ヲ從前ノ借地地積ニ乘ジタル地積ヲ標準トシ從前ノ位置ト換地豫定地トノ狀態トヲ考慮シテ之ヲ行フ

第二十三條　換地豫定地及借地權ノ目的タル部分ノ指定通知ハ移轉命令ノ十日前迄ニ之ヲ發スルモノトス指定ヲ變更シ又ハ更正シタルトキ亦同ジ

前項ノ通知ヲ發シタルトキハ換地豫定地内ノ從前ノ土地所有者及借地權者ニ對シ左ノ事項ヲ通知スルモノトス

一　被指定者ノ住所氏名

二　換地豫定地内ノ從前ノ土地ヲ表示シタル圖面及地積

第二十四條　換地豫定地及借地權ノ目的タル部分ノ指定地積ノ誤謬ニ付申出アリタリトキハ之ヲ再測シ其ノ較差三百分ノ一ヲ超ユルトキハ之ヲ更正スルモノトス

第六節　清　算

第二十五條　第九條ニ依リ換地ヲ交付セザル土地ニ對スル清算金ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一　第九條第一號ノ土地ニ付テハ其ノ土地ノ換地區域内ニ於テノ假想換地ノ計算ニ基キ權利地積ヲ求メ之ニ整理後ノ評定單價ヲ乘ジタル額トス

二　第九條第二號、第三號ノ土地ニ付テハ整理前ノ評定價格ヲ以テ其ノ清算金額トス

第二十六條　規程第六條第一項ノ假清算金額ハ五年以内ニ於テ分割シテ徵收シ又ハ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ左ノ各號ニ依リ利息ヲ徵收シ又ハ交付スルモノトス

一　徵收金ヲ分割納付ノ場合　日歩壹錢參厘

二　交付金ヲ分割交付ノ場合　日歩八厘

規程第六條第三項ニ依リ利息ニ相當スル金額ヲ交付スル場合ノ利率ハ前項第二號ノ利率ニ依ル

第二十七條　土地所有者換地豫定地ノ指定通知書ヲ受領シタルトキハ指定通知書ニ記載シタル假清算金ニ付市長ノ指定スル期限内ニ徵收金ノ一時納付若ハ分割納付ノ別又ハ交付金ノ受領若ハ留保ノ別ヲ申告スルモノトス

市長前項ノ申告ニ依リ分割納付ヲ認メタルトキハ其ノ旨ヲ通知スルモノトス

第二十八條　規程第六條第二項ニ依リ提供セシムベキ擔保ハ左ニ掲グルモノニ依ル

一　交付金相當額以上ノ價格ヲ有スル國債證券、地方債證券、勸業銀行債券、興業銀行債券但シ名古屋市公債證券ハ券面額ニ依リ其ノ他ハ時價ノ十分ノ九ヲ以テ算定ス

二　交付金相當額以上ノ價格ヲ有シ抵當權其ノ他ノ權利ノ設定ナキ土地又ハ建物但シ建物ハ火災保險ニ付シタルモノナルコトヲ要ス

三　本市ニ住所ヲ有スル能力者ニシテ市長ニ於テ交付金ノ還付ヲ命ジタルトキ直ニ還付シ得ル資力アリト認ムル保證人二名以上ノ連帶保證

前項第二號ノ擔保ノ場合抵當權設定ニ要スル費用ハ交付金ヲ受領スベキ土地所有者ノ負擔トス

第一項ノ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキ又ハ保證人ノ保證能力欠缺シタリト認ムルトキハ增擔保ヲ提供セシメ又ハ保證人ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第二十九條　換地清算ノ地積ハ其ノ地目ノ如何ニ拘ラズ總テ勺位迄計算シ勺未滿ハ之ヲ切捨ツ

第三章　費　用

第三十條　規程第十條第一項（但書ノ場合ヲ除ク）ノ土地所有者ヨリ徵收スベキ事業費ハ整理後ノ土地（權利地積）ノ評定價格ヨリ之ニ對スル從前ノ土地ノ評定價格ヲ差引キタル額ニ左ノ式ニ依リ算出シタル費用負擔指數ヲ乘ジタル金額トス

（總　費）＝（均　貢）

（前總地）－（前總價）＝（均値上）

（後總價）－（前　總　地）

（均　貢）＝費用負擔指數

（均値上）

（加除錄第二號三六九）

備　考

（總　費）ハ事業費總額（都市計畫事業一等大路第三類第四六號線ノ受益者負擔金ヲ含ム）

（均　貢）ハ一坪當平均負擔額

（前總地）ハ事業費ヲ負擔スベキ土地ノ整理前總地積

（前總價）ハ事業費ヲ負擔スベキ土地ノ整理前總評定價格

（後總價）ハ事業費ヲ負擔スベキ土地ノ整理後總評定價格

（均値上）ハ平均値上リ額

前項ノ事業費ヲ負擔スベキ土地トハ第十四條第二項ノ土地ヲ謂フ

第三十一條　第九條第二號、第三號ノ土地ニ對シテハ前條ノ費用ハ之ヲ賦課セザルモノトス

第四章　移　轉

第三十二條　建物、工作物、木石等ノ所有者ハ市長ノ指定スル期限内ニ其ノ種類及數量ニ付申告書ヲ提出スルモノトス

前項ノ申告後移轉命令到着前ニ於テ建物、工作物、木石等ノ得喪アリタルトキハ其ノ都度前項ノ例ニ依リ之ヲ申告スルモノトス此ノ場合ニ於テ讓受人アルトキハ連署ノ上之ヲ爲スモノトス

第三十三條　建物所有者ハ市長ノ指定スル期限内ニ占有者ト連署ヲ以テ復歸ニ關スル申告書ヲ提出スルモノトス

第三十四條　規程第八條第一項ニ依ル移轉命令ニハ移轉着手及竣功ノ期日ヲ指定シ移轉著手期日ヨリ三十日前迄ニ之ヲ發スルモノトス

前項ノ期間ハ特別ノ事情アル場合ニ於テハ之ヲ短縮スルコトアルベシ

移轉命令ヲ發シタル場合ニ於テハ其ノ換地豫定地内ノ從前ノ土地所有者及借地權者ニ對シ左ノ事項ヲ通知スルモノトス移轉命令ヲ變更シタル場合亦同ジ

一　移轉スベキ建物、工作物ノ現在地及種類名稱

二　移轉スベキ建物、工作物ノ移轉著手及完了ノ豫定期日

第三十五條　建物、工作物、木石等ノ移轉、除却又ハ破毀ニ要スル費用及通常受クベキ損害ニ對スル補償金ハ第三十二條及第三十三條ノ申告書ニ基キ實地調査ノ上市長之ヲ定メ前條ニ依ル移轉命令書發送後遲滯ナク各命令者ニ通知スルモノトス補償金ニ變更ヲ來シタルトキ亦同ジ

昭和十一年愛知縣令第三十六號施行ノ日以前ニ於テ都市計畫土地區劃整理トシテ決定セラレタル區域ニ付テハ同縣令施行ノ日以後、其ノ他ノ區域ニ付テハ都市計畫土地區劃整理トシテ決定ノ告示アリタル日以後從前ノ土地ニ於テ規程第七條第二項ノ行爲ヲ爲シタル建物又ハ工作物アルトキハ其ノ部分ニ對スル補償金ハ之ヲ支拂ハザルモノトシ前項ノ通知ニ其ノ旨ヲ記載スルモノトス

第三十六條　補償金ハ建物、工作物所有者ニ在リテハ工事著手ノトキ半額ヲ、完了ノトキ其ノ殘額ヲ支拂ヒ建物占有者ニ在リテハ移轉完了又ハ復歸完了ノトキ夫々當該金額ヲ支拂フモノトス但シ特別ノ事情アル建物占有者ニ對シテハ移轉著手又ハ復歸著手ノトキ夫々其ノ半額ヲ支拂フコトアルベシ

第三十七條　從前ノ建物占有者復歸スベキ建物ノ移轉工事完了後三十日以内ニ復歸セザルトキハ復歸ノ補償金ハ之ヲ支拂ハザルモノトス

復歸スベキ建物ニ付除却ヲ命ジタル場合ニ於テ命令ヲ發シタル日ヨリ三十日以内ニ再ビ移轉シタル從前ノ建物占有者ハ之ヲ復歸シタル者ト看做シ補償金ヲ支拂フモノトス

第三十八條　移轉又ハ除却スベキ建物占有者ノ移轉後ニ於テ其ノ建物ヲ占有シタル者ニ對シテハ補償金ハ之ヲ支拂ハザルモノトス

第三十九條　移轉命令ニ定ムル移轉著手期日到來スルモ移轉ニ著手セザルトキハ更ニ期日ヲ定メ催告スルコトアルベシ

前項ノ催告ヲ受クルモ仍移轉ニ著手セズ且實施ノ意志ナシト認メタルトキハ直ニ耕地整理法第二十七條ノ手續ヲ爲スモノトス

第五章　雜則

第四十條　規程第七條第二項ニ依ル借地權者ノ承認願ニハ土地所有者ノ連署ヲ要スルモノトス

附則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●都市計畫法施行令第十一條又ハ第十一條ノ二ノ規定ニ依ル手續ノ件

昭和十六年十二月六日
告示　第五百十八號

都市計畫法施行令第十一條又ハ第十一條ノ二ノ規定ニ依リ地方長官ニ提出スベキ願書ハ夫々別記申請樣式ノ一又ハ二ニ依リ當廳ヲ經由スベシ

別記

申請樣式一

都市計畫法施行令第十一條ノ規定ニ依ル

何許々可願

一、位　置

一、事　業　名

右表示ノ個所ニ何々致度候ニ付御許可相成度別紙關係書類相添此段及御願候也

追テ御許可ニ際シ都市計畫法施行令第十二條ニ依ル條件ヲ附セラレ候場合ハ其ノ條々固ク遵守可仕誓約候也

昭和　年　月　日

住所　市町　區村　郡　番地

出願者　何　某　㊞

住所　市町　區村　郡　番地

土地所有者　何　某　㊞

愛知縣知事　殿

添附圖書

摘　要　書

一、出願事項　何々

一、地　域　何々地域

一、位　置　市郡　町村　區　番地

一、敷地面積　何　坪

一、建築面積　何　坪

第十四類　土木　第二章　都市計畫

一、構　造　種別

階數

基礎

壁体

屋根

一、附屬設備　井戸

下水

門

塀

物置

一、土地ノ形質ヲ變更セントスル地目　何々

一、同　目的

一、同　面積　何　坪

一、同　跡地處理方法

一、竹木類採取地積　何々何坪

一、同　樹種樹齡　樹種何々　樹齡何年

一、同　樹量　何　本

一、土石類採取地積　何々何坪

一、土石類採取土性及土量　何々何坪

一、土石類採取方法　何々

圖面

當該都市計畫事業區域ヲ表示セル左ノ圖面ヲ添附スルコト

一、附近案內圖
一、工作物ノ敷地及其ノ配置圖　縮尺 $\frac{1}{100}$ $\frac{1}{200}$ $\frac{1}{300}$
一、土地ノ形質ヲ變更セントスル位置圖
一、竹木類採取セントスル位置圖
一、土石類採取セントスル位置圖

申請樣式ノ二

都市計畫法施行令第十一條ノ二ノ規定ニ依ル
許可願

一、位　置

右表示個所ニ　致度候ニ付御許可相成度別紙關係書類相添此段及御願候也

追テ御許可ニ際シ都市計畫法施行令第十二條ニ依ル條件ヲ附セラレ候場合ハ其ノ條々固ク遵守可仕誓約候也

昭和　年　月　日

出願者
住所
氏名

愛知縣知事　殿

摘要書

一、出願事項
一、位　置
一、敷地面積
一、建築面積
一、構造種別

階數
基礎
壁体
屋根

一、附屬設備

井戸
下水
門
塀
物置
便所

添附圖面

一、案內圖（附近見取圖）
二、配置圖

附則

本件ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
昭和五年告示第五號都市計畫法施行令第十一條ノ規定ニ依ル手續ノ件ハ之ヲ廢止ス

第三章　道路、運河、水路

●道路占用規程

大正九年十一月三十日
告示第百二十六號

改正　大正十二年五月十日告示第九十二號　昭和十八年三月十九日告示第五十六號　昭和四年九月二十四日告示第百三十七號　昭和九年五月二十六日告示第百十八號、

第一條　本規程ニ於テ道路ト稱スルハ道路法ニ依ル道路及其ノ附屬物ヲ謂フ

第二條　道路ヲ占用セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書正副二通ヲ提出シ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受クヘシ

一　占用位置ノ地先區、町、丁目又ハ字、地番但シ橋梁占用ノ場合ハ橋梁ノ名稱ヲ記載スヘシ
二　占用面積
但シ架空電線路ニ在リテハ電柱及支線、支柱、支線柱ノ員數ヲ地中電線路ニ在リテハ電纜ノ延長ヲ記載スヘシ
三　占用目的
四　占用期間
五　出願者ノ住所氏名

（加除錄第二號三七一）

出願者カ名古屋市內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキハ占用ニ關スル一切ノ行爲ヲ代理セシムル爲市內ニ住所ヲ有スル能力者ヲ管理人ト定メ願書ニ連署セシムルコトヲ要ス

他人ノ所有地又ハ建物アル土地ノ地先ヲ占用セムトスルトキハ其ノ關係者ノ連署ヲ要ス但シ特ニ管理者ノ承認ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三條　前條ノ願書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一　占用位置竝其ノ附近ヲ表示セル圖面
二　面積圖
但シ前條第一項第二號但書該當ノモノハ之ヲ除ク
三　工作物ヲ設置シ又ハ占用地ノ現狀ヲ變更セムトスル場合ハ其ノ設計書圖面若ハ仕樣書

第三條ノ二　許可又ハ承認ヲ受ケズシテ道路ヲ占用スル者ヨリ追認方願出アリタル場合管理者ニ於テ已ムヲ得ザル事由アリト認ムルトキハ之ヲ追認スルコトアルベシ此ノ場合ニ於テ占用始期判明セルトキ管理者之ヲ認定ス

第四條　占用面積ハ實際ノ占領面積ニ依ル
廣告又ハ看板ニ限リ其ノ面積カ實際ノ占領面積ヨリ大ナルトキハ廣告又ハ看板ノ面積ヲ以テ占用面積トス
廣告又ハ看板ノ面積トハ廣告又ハ看板トシテ利用シ得ヘキ面積ヲ謂フ
電柱一本ノ占用面積ハ方三尺トス

第五條　占用ノ許可又ハ承認ヲ受ケタル者ハ見易キ箇所ニ占用ノ位置、面積、目的、期間及占用者ノ住所氏名、管理人ヲ置キタル場合ハ其ノ

者ノ住所氏名ヲ榜示スヘシ但シ家屋庇敷ノ爲メニ占用スルモノ及特ニ管理者ニ於テ其ノ必要ヲ認メサルモノハ此ノ限ニ在ラス

第六條　占用ヲ許可又ハ承認シタルトキハ第七條又ハ第七條ノ二ニ定ムル標準ニ依リ占用料ヲ徴收ス但シ公共ノ利益トナルヘキ事業ノ爲占用スル者又ハ管理者ニ於テ特別ノ事由アリト認メタル者ニ對シテハ之ヲ減免スルコトアルヘシ

第七條　占用料ハ左ノ標準ニ依リ管理者之ヲ定ム

等級	占用料	等級	占用料	等級	占用料	等級	占用料	等級	占用料	等級	占用料	等級	占用料	等級	占用料	等級	占用料	等級	占用料
一	一、〇〇五	一三	一、〇二六	二五	一、〇〇〇	三七	一、五〇〇	四九	二、〇〇〇	六一	五、一〇〇	七三	一一、〇〇〇	八五	三〇、〇〇〇	九七	七〇、〇〇〇
二	一、〇〇六	一四	一、〇三〇	二六	一、一〇〇	三八	一、五五〇	五〇	二、一〇〇	六二	五、二〇〇	七四	一二、〇〇〇	八六	三三、〇〇〇	九八	七五、〇〇〇
三	一、〇〇七	一五	一、〇三五	二七	一、一四〇	三九	一、六〇〇	五一	二、二四〇	六三	五、四〇〇	七五	一三、〇〇〇	八七	三六、〇〇〇	九九	八〇、〇〇〇
四	一、〇〇八	一六	一、〇四〇	二八	一、一六〇	四〇	一、六五〇	五二	二、二六〇	六四	五、六〇〇	七六	一四、〇〇〇	八八	三九、〇〇〇	一〇〇	八五、〇〇〇
五	一、〇〇九	一七	一、〇四五	二九	一、一八〇	四一	一、七〇〇	五三	二、二八〇	六五	五、八〇〇	七七	一五、〇〇〇	八九	四二、〇〇〇	一〇一	九〇、〇〇〇
六	一、〇一〇	一八	一、〇五〇	三〇	一、一九〇	四二	一、八〇〇	五四	二、三〇〇	六六	六、〇〇〇	七八	一六、〇〇〇	九〇	四五、〇〇〇	一〇二	九五、〇〇〇
七	一、〇一二	一九	一、〇五五	三一	一、二〇〇	四三	一、九〇〇	五五	二、三二〇	六七	六、一〇〇	七九	一八、〇〇〇	九一	四八、〇〇〇	一〇三	一〇〇、〇〇〇
八	一、〇一四	二〇	一、〇六〇	三二	一、二一〇	四四	一、九八〇	五六	二、三四〇	六八	六、二〇〇	八〇	二〇、〇〇〇	九二	五一、〇〇〇		
九	一、〇一六	二一	一、〇六五	三三	一、二四〇	四五	二、〇〇〇	五七	二、三六〇	六九	六、三〇〇	八一	二三、〇〇〇	九三	五四、〇〇〇		
一〇	一、〇一八	二二	一、〇七〇	三四	一、二五〇	四六	二、〇二〇	五八	二、三八〇	七〇	六、四〇〇	八二	二四、〇〇〇	九四	五七、〇〇〇		
一二	一、〇二〇	二三	一、〇八〇	三五	一、二六〇	四七	二、〇四〇	五九	二、四〇〇	七一	六、五〇〇	八三	二六、〇〇〇	九五	六〇、〇〇〇		
一三	一、〇二二	二四	一、〇九〇	三六	一、二七〇	四八	二、〇六〇	六〇	二、四八〇	七二	六、六〇〇	八四	二八、〇〇〇	九六	六五、〇〇〇		

備考　占用料ハ占用地地先ノ一坪當年額トス但シ占用地地先ニ宅地ナキトキハ最寄地先又ハ比類地先ニ依ル

（加除錄第二號三七二）

備考
一級　一〇〇圓以上ハ一〇圓毎ニ
一級　一〇〇圓以上ハ一〇〇圓毎ニ
一級　四〇〇圓以上ハ五〇〇圓毎ニ
一級　七〇〇圓以上ハ一〇〇〇圓毎ニ
一級　一〇〇〇圓以上ハ二〇〇〇圓毎ニ一級ヲ進ム

占用料ハ占用目的、占用附近地トノ關係及占用地先土地ノ利用實況等ヲ綜合參酌シ標準ノ倍額迄增徴スルコトアルヘシ

廣告又ハ看板ノ占用料ハ標準ノ倍額トス

地中埋設管ニシテ外徑三尺未滿ノモノハ之ヲ三尺ト看做シ占用料ヲ定ム

占用料ノ金額五十錢ニ滿タサルトキハ之ニ滿タシムルモノトス

但シ管理者ニ於テ別ニ定ムル道路等級ニ應ジ減額又ハ標準ノ倍額迄增徴スルコトヲ得

第七條ノ二　電線路ノ占用料ハ左ノ標準ニ依ル

等級	占用料（一ケ年）				
	架空電線路		地中電線路		
一等	電柱（支線、支柱ヲ含ム）	一本ニ付一〇円〇〇	電纜	一間ニ付	五円〇〇
二等	同（支線、支柱ヲ含ム）	一本ニ付八、〇〇	電纜	一間ニ付	三、五〇
三等	電柱	六、〇〇	同		二、〇〇

等級ノ區域ハ別表及別紙圖面ノ通トス

第七條ノ三　第三條ノ二ノ規定ニ依リ追認シタルトキハ占用ノ始期ヨリ追認ノ日迄ノ占用料額ノ倍額迄ヲ占用料トシテ一時ニ追徴スルコトヲ得但シ管理者ニ於テ特別ノ事由アリト認ムルトキハ三年以内ノ期間ニ於テ之ヲ分納セシムルコトヲ得

占用期間滿了後引續キ占用スル者ニ對シテハ占用料ヲ徴收スルコトヲ得

第八條　占用料ハ左ノ計算ニ依ル

（加除錄第二號三七三）

一　占用期間一年以上ノ場合ニ於テハ會計年度ニ依リ年額ヲ定ム但シ端數ノ月アルトキハ年額ノ月割トス此ノ場合一月未滿ノ期間ハ一月トシテ計算ス

二　占用期間一月以上ノ場合ニ於テハ年額ノ月割トス但シ一月未滿ノ端數アルトキハ第三號ノ例ニ依ル

三　占用期間一月未滿ノ場合ニ於テハ十五日以内ナルトキハ半月分十五日ヲ超ユルトキハ一月分トス

第九條　占用料ノ徴收期ハ左ノ通トス

一　前條第一號ノ場合ニハ會計年度ニ依リ一年度ヲ二期ニ分チ第一期分ヲ四月中ニ第二期分ヲ十月中ニ年額ノ各半額ヲ徴收ス但シ四月及十月以外ニ於テ新ニ占用ヲ許可又ハ承認シタルモノハ當初ノ一期分ニ限リ第二號ノ例ニ依ル

二　前條第二號及第三號ノ場合ニハ許可又ハ承認ノ日ヨリ十日以内ニ全額ヲ徴收ス

三　前二號ニ依リ難キ場合ニハ隨時之ヲ徴收ス

第十條　占用期間ハ許可又ハ承認ノ日ヨリ五年以内トス但シ占用料ヲ徴收セザルモノ又ハ特別ノ事情アルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　道路法第五十一條第一項第一號乃至第三號ノ規定ニ依リ占用ノ許可又ハ承認ヲ取消シタル場合及占用者ノ都合ニ依リ期間内ニ占用ヲ廢止シタルトキハ既納ノ料金ハ之ヲ還付セス

第十二條　道路法第五十一條第一項第四號及第五號ノ規定ニ依リ占用ノ許可又ハ承認ヲ取消シタル場合ハ原狀回復ノ屆出アリタル日ヨリ月又ハ日割ヲ以テ占用料ヲ還付ス

第十三條　占用期間滿了シ又ハ期間內返還ヲ命シタル場合若ハ占用者ノ都合ニ依リ期間內ニ占用ヲ廢シタルトキハ指定期間內ニ原狀回復ノ上其ノ旨屆出ツヘシ

第十四條　占用者前ノ義務ヲ履行セサルトキハ管理者自ラ之ヲ執行シ又ハ第三者ヲシテ執行セシメ其ノ費用ハ占用者ヲシテ之ヲ辨償セシム

第十五條　占用期間滿了後繼續占用ヲ爲サムトスルトキハ滿了ノ日前七日目迄ニ願書ヲ管理者ニ提出シ其ノ許可又ハ承認ヲ受クヘシ

第十六條　占用條件ヲ變更セムトスルトキハ管理者ノ許可又ハ承認ヲ受クヘシ

占用者ニシテ其ノ占用スル道路若ハ其ノ占用ノ爲設置スル物ノ全部又ハ一部ヲ他ノ者ヲシテ使用セシメントスルトキハ他ノ者ト連署ヲ以テ管理者ニ出願許可又ハ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ他ノ者ニ於テ獨立ノ占用ヲ爲スモノト看做シ其ノ者ヨリ別ニ占用料ヲ徵收ス

第十七條　占用者其ノ權利ヲ他人ニ讓渡セムトスルトキハ當事者雙方連署ノ上管理者ニ出願許可又ハ承認ヲ受クヘシ

第十八條　前條ノ規程ニ依リ權利ヲ讓受ケタル者ハ占用ニ關スル讓渡人ノ義務ヲ承繼ス

第十九條　前二條ノ規程ハ會社ノ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十條　占用者ノ相續人相續ニ因リテ占用權ヲ承繼セントスルトキハ相續開始ノ日ヨリ二十日以內ニ屆出ツヘシ

附　則

本規程施行ノ際現ニ占用期間中ニ在ルモノハ本規程ニ依リ許可又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス但シ其ノ占用料ニ付テハ昭和四年十月卅一日迄仍從前ノ規定ニ依ル

（別　表）

等級區域

第一等

（一）左記連絡地內部

矢田川市郡境界　自矢田橋至東區西區境界

東區西區境界　自矢田川市郡境界至庄內用水路西側道路

庄內用水路西側道路　自西區辻町字新堀一二番地先至夫婦橋

府縣道名古屋犬山線　自夫婦橋至都市計畫一等大路第二類第七號線

都市計畫一等大路第二類第七號線　自黑川至市道西枇杷島勝川線

市道西枇杷島勝川線　自都市計畫一等大路第二類第七號線至惣兵衛川

市道白菊町第三號線　自惣兵衛川至庄內川市郡境界

庄內川市郡境界　自市道白菊町第三號線至都市計畫一等大路第二類第二號線

都市計畫一等大路第二類第二號線　自庄內川市郡境界至惣兵衛川北側道路

惣兵衛川北側道路　自都市計畫一等大路第二類第二號線至東海道線

東海道線　自惣兵衛川北側道路至都市計畫一等大路第二類第六號線

（加除錄第二號三七四）

都市計畫一等大路第二類第六號線　自東海道線至都市計畫一等大路第三類第十七號線

都市計畫一等大路第三類第十七號線　自都市計畫一等大路第二類第六號線至庄內用水路中井筋西堤塘

庄內用水路中井筋西堤塘　自都市計畫一等大路第三類第十七號線至都市計畫一等大路第二類第十號線

都市計畫一等大路第二類第十號線　自庄內用水路中井筋至都市計畫一等大路第二類第五號線

都市計畫一等大路第二類第五號線　自都市計畫一等大路第二類線十號線ノ交點至都市計畫一等大路第二類第十三號線

都市計畫第一等大路第三類第十三號線　自都市計畫一等大路第二類第五號線ノ交點至鐵道臨港線

鐵道臨港線　自都市計畫一等大路第二類第十三號線ノ交點至鐵道白鳥線分岐點

鐵道白鳥線　自鐵道臨港線分岐點至都市計畫一等大路第三類第三號線

都市計畫一等大路第三類第三號線　自鐵道白鳥線交點至都市計畫一等大路第二類第十二號線

都市計畫一等大路第二類第十二號線　自都市計畫一等大路第三類第三號線ノ交點至熱田新田東組字乙一ノ割三〇八番地先組合道路

前記組合道路　自同上南ヘ下リ至市電築港線

第十四類　土　木　第二章　道路、運河、水路

都市計畫一等大路第三類第四十號線　自市電築港線ノ交點至名鐵常滑線

名鐵常滑線　自都市計畫一等大路第三類第四十號線ノ交點至市道豊田東西第十號線

市電豊田東西第十號線　自名鐵常滑線交點至都市計畫一等大路第三類第四十二號線

都市計畫一等大路第三類第四十二號線　自市道豊田東西第十號線交點至山崎川

山崎川　自都市計畫一等大路第三類第四十二號線交點至府縣道名古屋牛田線

府縣道名古屋牛田線　自山崎川ノ交點至名鐵常滑線

名鐵常滑線　自府縣道名古屋牛田線交點至市道ヨノ割第二號線

市道ヨノ割第二號線　自名鐵常滑線ノ交點至市道北蒲田線

市道北蒲田線　自市道ヨノ割第二號線ノ交點至都市計畫一等大路第三類第四十號線

都市計畫一等大路第三類第四十號線　自市道北蒲田交點至山崎川

山崎川　自都市計畫一等大路第三類第四十號線交點至都市計畫一等大路第二類第九號線（循環線）

都市計畫一等大路第二類第九號線　自山崎川交點至都市計畫一等大路第二類第八號線（櫻山電停曲點）

都市計畫一等大路第二類第八號線　自都市計畫一等大路第二類第九號線交點至都市計畫一等大路第三類第十號線

（加除錄第二號三七五）

都市計畫一等大路第三類第十號線　自都市計畫一等大路第二類第八號線交點　至矢田橋

(二) 築地一、二號地全部

府縣道津島名古屋港線中川橋ヨリ港新橋ニ通スル道路ト府郡道名古屋港線トノ交點ニ至ル區間道路

第二等

(一) 左記連絡地內ヨリ第一等ヲ除キタル區域

稻永新田地內防波堤　自東岸堤防ト築地十號地トノ交點（國際飛行場交點）　至稻留

南北水路　自稻永新田地田防波堤ト稻留トノ交點　至都市計畫一等大路第三類第四十三號線

都市計畫一等大路第三類第四十三號線　自南北水路交點　至荒子川東岸通路

中川西土地區劃整理組合地區界線　自都市計畫一等大路第三類第四十三號線ト荒子川東岸道路交點　至中川運河西側建築敷地

中川運河建築敷地　自前記組合地區界交點　至國道第一號線（佐屋街道）

國道第一號線　自中川運河建築敷地交點　至荒子川

荒子川　自國道第一號線　至舊中、南區境界

舊中、南區境界　自荒子川交點　至庄內川

庄內川市郡境界線　自舊中、南區境界交點　至守山町市郡界線

守山町市郡境界線　自庄內川交點　至矢田川市郡界線

矢田川市郡境界線　自守山町市郡界線交點　至猪高村市郡界線

猪高村市郡境界線　自矢田川市郡界線交點　至府縣道岩作名古屋線

府縣道岩作名古屋線　自猪高村市郡界線交點　至鍋屋上野土地區劃整理組合地區界

鍋屋上野土地區劃整理組合東地區界　自岩作名古屋線交點　至都市計畫一等大路第三類第三十三號線

都市計畫一等大路第三類第三十三號線　自鍋屋上野土地區劃整理組合地區界交點　至田代土地區劃整理組合地區界

田代土地區劃整理組合東、北地區界　自都市計畫一等大路第三類第三十三號線交點　至府縣道瀨戸千種線

府縣道瀨戸千種線　自田代土地區劃整理組合地區交點　至府縣道蔚生名古屋線

自府縣道瀨戸千種線交點　至猪高村市郡界線

(二) 下ノ一色町地內（都市計畫一等大路第三類第二十四號線以南國道第一號線以北一帶）

第三等

第一等第二等地域ヲ除ク名古屋市內全部、

備考　各等ノ境界ニ所在スルモノハ各上級ニ入ルルモノトス

●道路占用料標準ニ關スル內規

昭和五年四月三十日　市長決裁

改正　昭和六年四月一日決裁　昭和八年五月五日決裁　昭和十七年三月二十五日決裁

一　道路占用規程第七條占用料標準ハ同第六條ニ依リ當分ノ內以下特ニ定ムルモノニ限リ減額處理スルモノトス

二　舊占用料ト現行占用料トヲ各算出シ其ノ增加率ニシテ十倍ヲ越ユルモノハ十倍ニ停ムルモノトス

三　廣告、看板ノ占用料ハ現行占用料ノ五割ヲ減額ス

但シ商品賣出シ其他ニシテ一時的ノモノニ就テハ減額セズ

四　日覆ノ占用料ハ現行占用料ノ七割ヲ減額ス

五　無許可占用ニ對シテハ追認期間ニ限リ減額セズ

六　本內規ハ現ニ占有期間中ノモノ及占用期間終了シ占用繼續手續未了ノモノニ對シ昭和五年四月一日ヨリ適用ス

●道路占用事務處理內規

大正十二年五月十日決裁

改正　昭和十年八月二十八日決裁　昭和十七年三月六日決裁

第一條　道路占用ニ關スル事務（以下占用事務ト略稱ス）ハ本內規ノ定ムル所ニ依リ處理スヘシ

第二條　占用事務ハ一般及特別ニ分チ處理ス其區分概ネ左ノ如シ

第十四類　土　木　第三章　道路、運河、水路

一　一般占用家屋庇敷、廣告看板、板圍等ノ爲ニ占用スルモノ

一　特別占用　前號以外ノ爲ニ占用スルモノ

第三條　削　除

第四條　削　除

第五條　係員ハ許可ヲ受ケスシテ道路ヲ占用スルモノ及期間經過後許可ヲ受ケスシテ繼續占用スルモノヲ發見シタルトキハ之ヲ調査シ願書ヲ調製ノ上關係者ノ調印ヲ徵スヘシ

係員ハ占用廢止屆ニ對シ其實否ヲ調査スヘシ但シ事實廢止セサルモノニ就テハ前項ノ例ニ依リ處理スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ關係者調印ヲ拒ミタルトキハ其理由ヲ聽取シ其ノ旨ヲ摘錄起案書ニ添付上司ニ之ヲ提出スヘシ

第六條　占用及繼續ノ願書ハ係員携帶歸廳シ翌日出張前收受ノ手續ヲ了シ且當該區長ニ對スル通知書ヲ添付シ許可ノ提案ヲ爲スヘシ但シ事ノ重大ナルモノ及異例ニ屬スルモノハ豫メ上司ノ承認ヲ受クヘシ

廢止ノ事實ヲ認メタル屆書ハ前項ニ準シ當該區長ニ對スル通知書ヲ添付シ回覽ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條　係員市內ヲ巡回シタルトキハ出張日誌ニ執務ノ要領ヲ記載シ翌日上司ニ提出スヘシ

第八條　占用權ノ讓渡及直接本廳ニ提出スル願書ハ係員ニ於テ之ヲ調査ノ上處理スヘシ

第六條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第九條　削　除

第十條　係員ハ其月ニ於ケル處理件數及料金ノ異動ヲ調査シ翌月五日限

リ上司ニ報告スヘシ

第十一條　特別占用ニ關スル願屆ハ土木管區事務所ヲ經由シタル後之ヲ處理スヘシ

第十二條　本內規ニ依ル事務ハ別紙樣式ニ依リ處理スヘシ

第一號

月日	提出者氏名	提出者氏名	提出者氏名	提出者氏名

第二號

名古屋
12. 8. 21
市役所

第三號

月日	番號	區	摘要

第四號

月日	通知番號	區名	件名

（編綴第二號二十六）

第五號ノ二

一　道路占用位置
二　占用坪數　名古屋市區
三　占用期間　自昭和年月日　至昭和年月日
四　占用目的及構造
五　占用料金　合　坪
右占用ノ儀御許可相成度此段及願出候也
但期間中　町　丁目　番地
昭和年月日
名古屋市長
道路管理者　殿

圖測實	圖取見
十	

第五號ノ一

豐等	月日
圖	調査
	調査員

一　道路占用位置
二　占用坪數　名古屋市區
三　占用期間　自昭和年月日　至昭和年月日
四　占用目的及構造
五　占用料金　合　坪
右占用ノ儀御許可相成度此段及願出候也
但期間中　町　丁目　番地
昭和年月日
名古屋市長
道路管理者　殿

圖測實	圖取見
十	

電話	豪徹
通知	區へ
合体	

指令土占第　　號

右出願ハ左記條件ヲ附シ許可候也

昭和　年　月　日

道路管理者

名古屋市長

記

第一條　占用位置坪數期間目的及占用料ハ願書記載ノ通トス

第二條　占用料ハ納額告知書ニ依リ指定期限迄ニ納入セラルヘシ

第三條　占用者ハ占用期間終了後三日以内ニ占用地ヲ原狀ニ回復セラルヘシ

第四條　占用者ノ都合ニ依リ占用期間中占用地ノ全部又ハ一部ノ占用ヲ廢止セラレタルトキハ原狀回復ノ上其旨屆出ラルヘシ

第五條　占用者ハ昭和四年九月名古屋市告示第百三十七號道路占用規程ノ條項ニ遵ハルヘシ

第六號ノ一

月	日	調査	調査員

臺帳記入	區へ通知	校合

道路占用願

一　占用位置　名古屋市區　町　丁目　番地先

二　占用坪數　坪　合　勺

三　占用期間　自昭和　年　月　日　至昭和　年　月　日間

四　占用目的及構造

五　占用料金　但一ケ年

右占用ノ儀御許可相成度此段及願出候也

名古屋市　區　町　丁目　番地

昭和　年　月　日

道路管理者

名古屋市長　殿

等
年坪壹ケ年

見取圖	實測圖
	△十

水路　運河　道路　第三章　木　土　第十四類

指令土占第　　號

右出願ハ左記條件ヲ附シ許可候也

昭和　年　月　日

道路管理者

名古屋市長

記

第一條　占用位置坪數期間目的及占用料ハ願書記載ノ通トス

第二條　占用料ハ納額告知書ニ依リ指定期限迄ニ納入セラルヘシ

第三條　占用者ハ占用期間終了後三日以内ニ占用地ヲ原狀ニ回復セラルヘシ

第四條　占用者ノ都合ニ依リ占用期間中占用地ノ全部又ハ一部ノ占用ヲ廢止セラレタルトキハ原狀回復ノ上其旨屆出ラルヘシ

第五條　占用者ハ昭和四年九月名古屋市告示第百三十七號道路占用規程ノ條項ニ遵ハルヘシ

第六號ノ二

道路占用願

一　占用位置　名古屋市區　町　丁目　番地先

二　占用坪數　坪　合　勺

三　占用期間　自昭和　年　月　日　至昭和　年　月　日間

四　占用目的及構造

五　占用料金　但一ケ年

右占用ノ儀御許可相成度此段及願出候也

名古屋市　區　町　丁目　番地

昭和　年　月　日

道路管理者

名古屋市長　殿

見取圖	實測圖
	△十

水路　運河　道路　第三章　木　土　第十四類

第七號ノ一

道路繼續占用願

一 占用位置　名古屋市　區　町　丁目　番地先

二 占用坪數　坪　合　勺

三 占用繼續期間　自昭和　年　月　日　至昭和　年　月　日　間

四 占用目的構造　從前ノ通（　）

五 占用料金　但期間中

六 占用許可年月日　指令番號　昭和　年　月　日附指令土占第　號

前記ノ通繼續占用仕度候間御許可相成度此段及願出候也

名古屋市　區　町　丁目　番地

昭和　年　月　日

道路管理者

名古屋市長　殿

臺帳記入	區へ通知	校合

第七號ノ二

道路繼續占用願

一 占用位置　名古屋市　區　町　丁目　番地先

二 占用坪數　坪　合　勺

三 占用繼續期間　自昭和　年　月　日　至昭和　年　月　日　間

四 占用目的構造　從前ノ通（　）

五 占用料金　但期間中

六 占用許可年月日　指令番號　昭和　年　月　日附指令土占第　號

前記ノ通繼續占用仕度候間御許可相成度此段及願出候也

名古屋市　區　町　丁目　番地

昭和　年　月　日

道路管理者

名古屋市長　殿

指令土占第　號

右出願ハ左記條件ヲ附シ許可候也

昭和　年　月　日

道路管理者

名古屋市長

記

第一條　占用位置坪數期間目的及占用料ハ願書記載ノ通トス

第二條　占用料ハ納額告知書ニ依リ指定期限迄ニ納入セラルヘシ

第三條　占用者ハ占用期間終了後三日以内ニ占用地ヲ原狀ニ回復セラルヘシ

第四條　占用者ノ都合ニ依リ占用期間中占用地ノ全部又ハ一部ノ占用ヲ廢止セラレタルトキハ原狀回復ノ上其ノ旨屆出ラルヘシ

第五條　占用者ハ昭和四年九月名古屋市告示第百三十七號道路占用規程ノ條項ニ遵ハルヘシ

第八號ノ一

道路繼續占用願

一 占用位置　名古屋市　區　町　丁目　番地先

二 占用坪數　坪　合　勺

三 占用繼續期間　自昭和　年四月一日　至昭和　年三月三十一日五ヶ年間

四 占用目的構造　從前ノ通（　）

五 占用料金　但一ヶ年

六 占用許可年月日　指令番號　昭和　年　月　日附指令土占第　號

前記ノ通繼續占用仕度候間御許可相成度此段及願出候也

名古屋市　區　町　丁目　番地

昭和　年　月　日

道路管理者

名古屋市長　殿

臺帳記入	區へ通知	校合

第八號ノ二

道路繼續占用願

一 占用位置　名古屋市　區　町　丁目　番地先

二 占用坪數　坪　合　勺

三 占用繼續期間　自昭和　年四月一日　至昭和　年三月三十一日五ケ年間

四 占用目的構造　從前ノ通（家屋庇敷）

五 占用料金　但一ケ年

六 占用許可年月日　指令番號　昭和　年　月　日附指令土占第　號

前記ノ通繼續占用仕度候間御許可相成度此段及願出候也

昭和　年　月　日

名古屋市　區　町　丁目　番地

道路管理者

名古屋市長　殿

指令土占第　號

右出願ハ左記條件ヲ附シ許可候也

昭和　年　月　日

道路管理者

名古屋市長

記

第一條　占用位置坪數期間目的及占用料ハ願書記載ノ通トス

第二條　占用料金ハ納額告知書ニ依リ指定期限迄ニ納入セラルヘシ

第三條　占用者ハ占用期間終了後三日以内ニ占用地ヲ原狀ニ回復セラルヘシ

第四條　占用者ノ都合ニ依リ占用期間中占用地ノ全部又ハ一部ノ占用ヲ廢止セラレタルトキハ原狀回復ノ上其ノ旨屆出ラルヘシ

第五條　占用者ハ昭和四年九月名古屋市告示第百三十七號道路占用規程ノ條項ニ遵ハルヘシ

水路　河川　道路　第三章　土木類　第十四類

第九號ノ一

道路占用權讓渡願

一 占用位置　名古屋市　區　町　丁目　番地先

一 占用坪數　坪　合　勺

一 占用目的　家屋庇敷

一 占用期間　自昭和　年　月　日　至昭和　年　月　日

一 占用料　壹ケ年　金

一 占用許可年月日　指令番號　昭和　年　月　日附指令土占第　號

一 權利讓渡理由

今般前記ノ理由ニ依リ權利讓渡致度候間御許可相成度此段連署ヲ以テ及願出候也

昭和　年　月　日

名古屋市　區　町　丁目　番地

讓渡人

名古屋市　區　町　丁目　番地

讓受人

道路管理者

名古屋市長　殿

第九號ノ二

道路占用權讓渡願

一 占用位置　名古屋市　區　町　丁目　番地先

一 占用坪數　坪　合　勺

一 占用目的　家屋庇敷

一 占用期間　自昭和　年　月　日　至昭和　年　月　日

一 占用料　壹ケ年　金

一 占用許可年月日　指令番號　昭和　年　月　日附指令土占第　號

一 權利讓渡理由

今般前記ノ理由ニ依リ權利讓渡致度候間御許可相成度此段連署ヲ以テ及願出候也

昭和　年　月　日

名古屋市　區　町　丁目　番地

讓渡人

名古屋市　區　町　丁目　番地

讓受人

道路管理者

名古屋市　長殿

帳簿入記　區へ通知　合校

水路　河川　道路　第三章　土木類　第十四類

右出願ハ左記條件ヲ附シ許可候也

昭和　年　月　日

道路管理者

名古屋市長

記

第一條　占用位置坪數期間目的及占用料ハ願書記載ノ通トス

第二條　占用料金ハ納額告知書ニ依リ指定期限迄ニ納入セラルヘシ

第三條　占用者ハ占用期間終了後三日以内ニ占用地ヲ原狀ニ回復セラルヘシ

第四條　占用者ノ都合ニ依リ占用期間中占用地ノ全部又ハ一部ノ占用ヲ廢止セラレタルトキハ原狀回復ノ上其旨屆出ラルヘシ

第五條　占用者ハ昭和四年九月名古屋市告示第百三十七號道路占用規程ノ條項ニ遵ハルヘシ

第十號ノ一

月	日	調査	調査員

路占用地變更願

變更前

一　占用位置　名古屋市區町丁目番地先

二　占用坪數　坪合勺

三　占用料金　但一ヶ年

變更後

一　占用位置　名古屋市區町丁目番地先

二　占用坪數　坪合勺

三　占用料金　但一ヶ年

右ハ昭和　年　月　日指令土占第　號ヲ以テ家屋庇敷ノ爲昭和　年　月　日迄御許可相受居候處今般前記ノ通占用地變更致度候間御許可相成度此段及願出候也

昭和　年　月　日

名古屋市區町丁目　番地

道路管理者

名古屋市長　殿

見取圖	實測圖
	△十

臺帳記入	區へ通知	校合

水路　運河　道路　第三章　水　土　第十四類

道路占用地變更願

變更前

一　占用位置　名古屋市區町丁目番地先

二　占用坪數　坪合勺

三　占用料金　但一ヶ年

變更後

一　占用位置　名古屋市區町丁目番地先

二　占用坪數　坪合勺

三　占用料金　但一ヶ年

右ハ昭和　年　月　日指令土占第　號ヲ以テ家屋庇敷ノ爲昭和　年　月　日迄御許可相受居候處今般前記ノ通占用地變更致度候間御許可相成度此段及願出候也

昭和　年　月　日

名古屋市區町丁目　番地

道路管理者

名古屋市長　殿

見取圖	實測圖
	△十

指令土占第　號

右出願ハ左記條件ヲ附シ許可候也

昭和　年　月　日

道路管理者

名古屋市長

記

第一條　占用位置坪數目的占用期限及占用料ハ願書記載ノ通トス

第二條　占用料ハ納額告知書ニ依リ指定期限迄ニ納入セラルヘシ

第三條　占用者ハ占用期間終了後三日以内ニ占用地ヲ原狀ニ回復セラルヘシ

第四條　占用者ノ都合ニ依リ占用期間中占用地ノ全部又ハ一部ノ占用ヲ廢止セラレタルトキハ原狀回復ノ上其旨屆出ラルヘシ

第五條　占用者ハ昭和四年九月名古屋市告示第百三十七號道路占用規程ノ條項ニ遵ハルヘシ

水路　運河　道路　第三章　水　土　第十四類

道路管理者
名古屋市長

昭和　年　月　日
名古屋市　区　町　丁目　番地

占用致居候處前記ノ通廢止ノ上即日原狀回復致候間此段及屆出候也

右ハ昭和　年　月　日附指令土占第　號ヲ以テ御許可ヲ得

一　廢止年月日
一　占用料
一　占用目的
一　占用坪數
一　道路占用位置
一　廢止ノ年月日
昭和　年　月　日
金　家屋庇廂
名古屋市　区　町　丁目　番地先
但　年　月　日
合　ヶ年
ヶ月

月日調査員

第十一號

起案	決裁
通知	施行
合・校	

丙

第十二號ノ一

第　號	立案　昭和　年　月　日	土木局長　地理課長	道路占用許可ノ件
		地土木局課長	区　町　番地
		主任	右調査ヲ遂クルニ支障無之被認候間例文許可相成可然哉

名古屋市

丙

第十二號ノ二

第	號	立案 昭和 年 月 日	土木局長 地理課長	決裁	主任	施行 月 日
道路占用許可ノ件						
區						
町						
番地			土木局長 地理課長			
右調査ヲ遂クルニ支障無之被認候間交許可ノ上區ヘ通知相成可然哉						
名古屋市						

丙

第十三號

第	號	立案 昭和 年 月 日	土木局長 地理課長	決裁	主任	施行 月 日
道路占用地變更(許可ノ件						
右標記ノ件別紙ノ通田願ニ付調査候處相違無之被認候例交許可相成然哉						
區通牒案共相伺						
發土占第	號					
案						
年						
月						
日						
區役所宛						
名古屋市役所						
部名						
道路占用地變更許可ノ件通牒						
三對シ昭和						
年						
月						
日ヨリ別紙調書共書ノ通變更ノ儀許可						
相成候條御了知相成度						

丁

第十四號ノ一

第　號	立案　昭和　年　月　日	地理課長	道路繼續占用許可ノ件	区　町　丁目　番地	右調査ヲ遂クルニ支障無之被認候間例文許可相成可然哉
決裁　月　日	地土理木課局主任	地土理木課局			
施行　月　日					

第十四號ノ二

第　號	立案　昭和　年　月　日	地理課長	道路繼續占用許可ノ件	区　町　丁目　番地	右調査ヲ遂クルニ支障無之被認候間例文許可ノ上區ヘ通知相成可然哉
決裁　月　日	地土理木課局主任	地土理木課局			
施行　月　日					

丁

第十五號

第　號	立案　昭和　年　月　日	道路占用權譲渡許可ノ件	譲渡人　譲受人	町　丁目　番地	右調査ヲ遂クルニ支障無之被認候間例文許可ノ上區ヘ通知相成可然哉
決裁　月　日	地土理木課局主任	地土理木課局			
施行　月　日					

第十六號

第　號	立案　昭和　年　月　日	道路占用廢止ノ件	区　町　丁目	番地	右調査ヲ遂クルニ支障無之被認候間例文許可ノ上区ヘ通知相成可然哉
決裁　月　日	地土理木課局主任	地土理木課局			
施行　月　日					

第十八號

町丁目・字番地先	占用位置	坪占用坪數	自至	占用期間	單價	占用料	金額	住所	占用者氏名
			月日年	月日年	円	一ヶ年	円		
			月日年	月日年					
			月日年	月日年					
			月日年	月日年					
			月日年	月日年					
			月日年	月日年					
			月日年	月日年					
			月日年	月日年					

第十七號

町丁目・字番地先	占用位置	坪占用坪數	自至	占用期間	單價	占用料	金額	住所	占用者氏名
			月日年	月日年	円	一ヶ年	円		
			月日年	月日年					
			月日年	月日年					
			月日年	月日年					
			月日年	月日年					
			月日年	月日年					
			月日年	月日年					
			月日年	月日年					

道路占用權譲渡許可通知書

昭和　年　月　日許可

名古屋市役所土木局

區役所御中

發土占第　號

第二十號ノ一

町丁目・字番地先	占用位置	坪占用坪數	占用料	廢止年月日	住所	占用者氏名
			円	月日年		
				月日年		
				月日年		
				月日年		
				月日年		
				月日年		
				月日年		
				月日年		

道路占用廢止通知書

昭和　年　月　日

名古屋市役所土木局

區役所御中

發土占第　號

第十九號

町丁目・字番地先	占用位置	坪占用坪數	自至	占用期間	住所	譲渡人氏名	住所	譲受人氏名
			月日年	月日年				
			月日年	月日年				
			月日年	月日年				
			月日年	月日年				
			月日年	月日年				
			月日年	月日年				
			月日年	月日年				
			月日年	月日年				

道路占用權譲渡許可通知書

昭和　年　月　日許可

名古屋市役所土木局

區役所御中

發土占第　號

第二十號ノ二

占用位置 町丁目・字番地先	占用坪數	占用料	廢止年月日	占用者 住所氏名
	坪	円	年月日	
			年月日	
			年月日	
			年月日	
			年月日	
			年月日	
			年月日	
			年月日	

第二十一號

發土占第　　號

道路管理者名古屋市長

昭和　年　月　日

警察署長　　殿

道路占用許可ノ件

標記ノ件道路法第二十八條ニ依リ左記ノ通許可候條此段及通知候也

記

一　占用位置　名古屋市　區　町　丁目　番地先

二　占用坪數　長　巾　此平坪　坪　合　勺

三　占用期間　自昭和　年　月　日　至昭和　年　月　日　間

四　占用目的　板圍敷

五　占用者住所　名古屋市　區　町　丁目　番地

六　占用者氏名

以上

第二十二號

發土占第　　號

道路管理者名古屋市長

昭和　年　月　日

警察署長　　殿

道路占用許可ノ件

標記ノ件道路法第二十八條ニ依リ左記ノ通許可候條此段及通知候也

記

一　占用位置　名古屋市　區　町　丁目　番地先

二　占用期間　自昭和　年　月　日　至昭和　年　月　日　間

三　占用ノ目的　廣告物敷

四　占用者住所　名古屋市　區　町　丁目　番地

五　占用者氏名

以上

水路、運河、道路　第三章　木　土　第十四類

第二十三號　區第　號

道路占用許可臺帳

占用位置	町 丁目　番地先	占用者 住所	區　町 丁目　番地
占用坪數	坪　合　勺	占用者 氏名	
占用期間	自昭和　年　月　日 至昭和　年　月　日	許可事項	
占用目的		昭和　年　月　日迄繼續占用 ノ件昭和　年　月　日指令土占 第　號許可發土占 第　號ヲ以テ區ヘ通知ス	
占用料	圓　錢 (　等級)　但一ケ年	昭和　年　月　日迄繼續占用 ノ件昭和　年　月　日指令土占 第　號許可發土占 第　號ヲ以テ區ヘ通知ス	
占用許可年月日指令番號	昭和　年　月　日 指令土占第　號	昭和　年　月　日迄繼續占用 ノ件昭和　年　月　日指令土占 第　號許可發土占 第　號ヲ以テ區ヘ通知ス	
區ヘ通知番號	發土占第　號	昭和　年　月　日迄繼續占用 ノ件昭和　年　月　日指令土占 第　號許可發土占 第　號ヲ以テ區ヘ通知ス	
摘要		昭和　年　月　日迄繼續占用 ノ件昭和　年　月　日指令土占 第　號許可發土占 第　號ヲ以テ區ヘ通知ス	
		昭和　年　月　日迄繼續占用 ノ件昭和　年　月　日指令土占 第　號許可發土占 第　號ヲ以テ區ヘ通知ス	

求積圖

區　等級

第二十四號　道路占用許可臺帳用紙(電柱用)

番號	本柱	支線	支線柱	支柱	計	占用位置 區	町	字、丁目	許可年月日 年月日 第號	指令番號 年月日 第號	摘要
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
0											
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
0											
計											

第二十五號

区	千種	東	西	中	中村	昭和	熱田	中川	港	南	特別占用	計	現在高
道路占用願届件數													
昭和年月日提出料金異動報告書件數													
占用繼續													
繼續料													
變更ニ依ル減ニ依ル減ニ依ル減ニ依ル減													
廢止													
計													
差引現在高													
土木局地理課													

表細明金料用占路道

曦日　年月　和昭

区的 / 目	千種	東	西	中村	中	昭和	熱田	中川	港	南		計
庇、家												
看板												
廣告板、足												
日覆												
露店												
變更												
讓渡												
廢止												
特別占用												
計												
記事												

●道路占用工作物工事施行ニ關スル件

昭和十三年七月十一日
告示第二百四號

第一條　道路占用工作物ノ爲ニスル道路ニ關スル工事ノ施行ニ付テハ法令及道路占用規定ニ定アルモノノ外本則ノ定ムル所ニ依ル

第二條　工事施行者ハ輕易ナル工事又ハ突發事故ニ對スル應急處置ヲ爲ス場合ニ限リ道路占用規程第二條及第三條ノ規定ニ拘ラズ道路管理者ノ定ムル所ニ從ヒ工事着手屆ヲ以テ道路占用願ニ代フルコトヲ得

第三條　工作物ノ占用位置ハ別ニ定ムル道路占用工作物配置標準ニ依ルベシ但シ特別ノ事由ニ因リ之ニ依リ難キトキハ其ノ事由ヲ具シ道路管理者ノ承認ヲ受クベシ

第四條　道路ノ掘鑿又ハ掘鑿跡ノ復舊其ノ他工事ノ施行ニ際シテハ道路管理者ノ指示ニ從ヒ道路ノ效用ヲ阻害セザル工法ニ依リ之ヲ施行シ且交通保安上必要ナル施設ヲ爲スベシ但シ鋪裝路面ノ復舊ハ道路管理者ニ於テ之ヲ施行ス

第五條　鋪裝路面ノ復舊及鋪裝セザル道路ノ補修ニ要スル費用ハ出願者ニ於テ之ヲ負擔スベシ但シ復舊若ハ補修面積及負擔金額ハ道路管理者ノ認定スル所ニ依ル

第六條　道路ニ存スル工作物ノ用途ヲ廢止シタルトキハ工作物所有者ハ速ニ所定ノ手續ヲ爲シ之ヲ撤去スベシ

路下工作物及其ノ附屬物ニシテ已ムヲ得ザル事由アルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ道路管理者ノ許可又ハ承認ヲ受ケ之ヲ埋殺スルコトヲ得

前項ニ依リ埋殺シタル物件ノ所有權ハ當該工作物所有者之ヲ抛棄シタルモノトス

第七條　本則ニ定ムルモノノ外必要ナル事項ハ道路管理者別ニ之ヲ定ム

附則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（加除錄第一號二三七）

道路占用工作物工事施行ニ關スル件施行細則

昭和十五年三月二十六日
告示第七十六號

第一條　工作物ノ爲ニスル道路ニ關スル工事ヲ施行セントスル場合道路占用願（又ハ照會）ニ添附スベキ書類（正副二通）ハ左ノ各號ニ依ルベシ

一　設計書及仕樣書

設計書又ハ仕樣書ニハ一般工事仕樣ノ外左ノ事項ヲ記載スベシ

イ　工作物ノ種類（路下管線路ニ在リテハ其ノ徑及本支線ノ別）

ロ　占用ノ位置（路下管線路ニ在リテハ其ノ延長及條數）

ハ　工事ノ着手及竣功豫定期日

ニ　掘鑿ノ幅員及延長

二　構造圖

構造圖ニハ工作物ノ構造及寸法ヲ明ニスベシ但シ豫メ構造ノ樣式ヲ定メ道路管理者ノ承認ヲ經タルモノ及建柱等簡單ナル常用工作物ニ付テハ本圖ヲ省略スルコトヲ得

三　平面圖

平面圖ニハ左ノ要領ニ依ル工作物ノ道路ニ於ケル位置及既設工作物トノ關係ヲ明ニスベシ

イ　工事位置ヲ明ニスル一般平面見取圖ヲ添附スルコト

ロ　道路境界石、歩車道境界石、其ノ他適當ナル固定物ヲ基準トシテ之ト工作物中心線トノ枝距及其ノ基準物ノ位置ヲ表示スルコト（路下管線路ニ在リテハ延長五十米及屈曲部毎ニ其ノ枝距並起點終點屈曲部及街角ニ當ル箇所ノ町名、地番ヲ表示スルコト）

ハ　鋪裝路面、橋面又ハ橋臺敷附近ヲ掘鑿セントスルトキハ施行區域ヲ表示スルコト

ニ　路下管線路屈曲シ若ハ異ル口徑ノモノト接續シ又ハ既設工作物ト接近若ハ交會スルトキハ其ノ狀況ヲ表示スルコト

ホ　路下管線路ニ付テハ縮尺五百分ノ一トスルコト

第二條　左ノ各號ノ工事ニ付テハ前條ニ定ムル書類ノ外左ノ書類（正副二通）ヲ添附スベシ

一　路下管線工事

縱斷面圖（縮尺横五百分ノ一、縱百分ノ一）

路面高、工作物ノ計畫高及上端高ハ名古屋港水準基面（C.P.）ニ依リ之ヲ表示シ覆土厚及既設工作物ト接合又ハ交會スルトキハ其ノ狀況ヲモ併セ表示スルコト但シ覆土規定ノ厚サニ達セザルトキハ其ノ事由及必要ナル防護方法ヲ表示スルコト

二　橋梁添架工事及橋臺又ハ橋梁附屬護岸ニ關係アル工作物ノ工事横斷面圖及添架物ヲ支持スル構造物ノ强度計算書

第三條　工事着手屆ハ第一號樣式ニ依リ工事着手ノ三日前迄ニ關係土木管區事務所ニ提出スベシ

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ豫メ前條ノ工事着手屆ヲ以テ占用願ニ代ヘ第一條及第二條ノ書類ハ添附ヲ省略スルコトヲ得

一　延長二十米以内ノ各戸引込路下管線路ノ新設改築又ハ撤去工事

二　架空電線路ヨリ四十米以内ノ各戸引込架空電線路ノ新設改築又ハ撤去工事

三　工事着手ノ日ヨリ五日以内ニ竣功スベキ軌道修繕工事

四　輕易ナル試驗又ハ故障修理ノ爲必要ヲ生ジタル道路ノ掘鑿工事

五　突發事故ニ對シ必要ナル應急措置

前項第五號ノ場合ハ口頭ヲ以テ豫メ打合ヲ爲シ着手屆ノ提出ハ事後ニ爲スコトヲ得

第五條　工事現場ニハ第二號樣式ニ依ル工事標示板ヲ樹立スベシ

工事ニ付通行ノ禁止又ハ制限ヲ爲ストキハ當該箇所ニ第三號樣式ニ依ル標示板ヲ又之ニ代ル迂回路ノ入口ニ第四號樣式ニ依ル豫知標示板ヲ設置スベシ

第六條　掘鑿工事ヲ施行スル場合ハ左ノ各號ニ準據シ交通ノ安全ヲ計ルベシ

一　交通繁劇ナル特定區間ニ於テハ交通ニ支障ナキ施設アル場合（路面覆工、既設人孔等）又ハ工事ノ性質上若ハ突發事故ニ對スル應急措置等已ムヲ得ザル場合ノ外ハ夜間交通杜絶シタル間ニ施行スルコト

二　道路ヲ横斷シテ掘鑿スルトキハ道路ノ片側ニ於ケル埋戻工事又ハ路面覆工ヲ完了シタル後他側ノ掘鑿ニ着手スルコト

三　道路ノ交會スル箇所及沿道宅地ノ利用上必要ナル箇所ニハ相當幅員ヲ有スル完全ナル横斷通路ヲ設クルコト

四　宅地ニ接近シテ掘鑿ヲ行フトキハ適當ナル棧橋ヲ架設シ其ノ出入ニ支障ナカラシムルコト

五　工事ノ爲交通ニ危險ヲ及ボス虞アル箇所ニハ圍柵、交通制限標識其ノ他保安設備ヲ施シ夜間ハ適當ナル員數ノ赤色警戒燈ヲ路面上ニ配置スルコト

第七條　一時ニ工事ヲ施行シ得ベキ區域（以下工區ト稱ス）ノ延長ハ掘坑長ニ土砂、材料、器具機械類ノ置場及埋戻後ノ路面復舊未完成部ヲ併セ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ズ

一　埋設管路工事（「ダクト」式電線工事ヲ含ム）ハ二百五十米

二　埋設電線工事ハ六百米

三　軌道工事ハ三百五十米

二以上ノ工區ヲ同時ニ施行セントスルトキハ各工區間ニ六十米以上ノ交通ニ支障ナキ區間ヲ存置スベシ

前二項ノ制限ニ依リ難キ特殊工事ニ付テハ第一條ノ書類提出ノ際其ノ事由ヲ附記シ豫メ道路管理者ノ承認ヲ受クベシ

第八條　掘坑部ノ埋戻ハ交通繁劇ナル箇所ニ於テハ當日其ノ時間内ニ其ノ他ノ箇所ニ於テハ工事着手後七日以内ニ片押式ニ逐次施行スベシ

前項ノ規定ニ依リ埋戻シ難キトキハ前項期間内ニ路面覆工ヲ施スベシ路面覆工ハ强固ナル土留工ヲ施シタル上在來路面ト馴染良ク之ヲ行ヒ交通ノ安全ヲ保持スベシ

第九條　掘鑿工事ハ左ノ工法ニ依リ之ヲ施行スルノ外道路管理者ノ指示ニ從フベシ

一　掘鑿ハ溝掘又ハ壺掘ニ依リ略垂直ニ切開キ抉掘又ハ隧道掘ヲ爲サザルコト

二　掘坑ハ深サ、地質等ニ應ジ適當ナル土留工ヲ施シ周圍ノ路盤ノ弛盤ヲ防止スルコト

三　鋪裝セザル道路ノ掘鑿ハ先ヅ路面ノ砂利ヲ取去リ次ニ表土十糎以

上ヲ採掘シテ下層土ニ及ブコト

四　鋪装路面及基礎混凝土ノ取毀ハ玄翁ノ類ヲ使用セズ混凝土破碎機又ハ鑿ノ類ヲ以テ小部分宛施行シ若シ周圍ニ損傷ヲ及ボシタルトキハ其ノ部分ヲモ併セ取毀ツコト

五　前號ノ場合ニ於テ掘起シタル鋪石、混凝土板等ハ損傷セザル樣丁寧ニ取外シ關係土木管區事務所係員（以下係員ト稱ス）ト協議シ交通上支障ナキ箇所ニ之ヲ運搬整理スルコト

第十條　土砂、材料又ハ器具機械類ヲ以テ水道制水弁、水道消火栓、瓦斯開閉栓、人孔等施設物ノ所在箇所ヲ不明ナラシメ若ハ之等ニ接近スルコトヲ困難ナラシメ又ハ下水ノ疏通及路面ノ排水ヲ妨ゲザル樣注意スベシ

工事施行區域内ニ在ル前項施設物ノ所在位置ハ適當ナル標識ニ依リ之ヲ明示スベシ

第十一條　掘鑿土ハ道路管理者ノ指示ヲ受ケ速ニ之ヲ處分スベシ但シ掘鑿土ニシテ埋戻ニ使用スルモノハ交通上著シキ支障ナキ場合ニ限リ掘坑ノ片側（横斷掘鑿ノ場合ハ兩側）一、五米ノ範圍内ニ於テ坑側ニ之ヲ堆積スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ掘鑿土ヲ堆積セントスルトキハ散亂ヲ妨グ爲適當ナル可搬式柵圍ヲ設クベシ

第十二條　工事材料ニ付テハ工事現場ニ搬入シタル日ヨリ五日以内ニ使用スベキモノニ限リ工事中當該工事施行區域内ノ道路ノ一側（現ニ作業中ノ工區内ニ在リテハ其ノ向側）ニ於テ左ノ各號ニ依リ之ヲ集積スルコトヲ得

一　歩車道ノ區別アル道路ニ在リテハ車道ノ歩道寄ニ於テ街渠上ヲ併セ幅員一、二米以内及歩道ノ車道寄ニ於テ植樹地帶又ハ建柱類ノ標準地帶内

二　歩車道ノ區別ナキ幅員十一米以上ノ道路ニ在リテハ路端ヨリ一、五米以内

三　幅員十一米未滿六米以上ノ道路ニ在リテハ消防用自動車ノ通行ニ支障ナキ程度ニ有效幅員四米以上ヲ存置スルコト

四　幅員六米未滿ノ道路ニ在リテハ消防用手挽水管車ノ通行ニ支障ナキ程度ニ有效幅員二米以上ヲ存置スルコト

五　軌道工事ニ在リテハ軌道敷外一側一、五米（「テルミット」鎔接又ハ「コンプレッサー」ヲ使用スル場合ハ二米）以内トシ歩車道ノ區別アル道路ニ於テハ更ニ歩道ノ車道寄ニ存スル植樹地帶又ハ建柱類ノ標準地帶内

前項ニ依リ街渠又ハ側溝上ヲ使用スル場合ハ流水ノ疏通ヲ妨ゲザル樣渡板其ノ他ノ設備ヲ完全ニ爲スベシ

第十三條　左ニ掲グル工事材料ノ集積ニ付テハ豫メ其ノ事由ヲ具シ道路管理者ノ許可ヲ受クベシ此ノ場合ニ於テハ工事材料置場ニ占用期間及占用者ノ氏名ヲ榜示スベシ

一　五日ヲ超エ集積セントスルトキ

二　橋梁上ニ集積セントスルトキ

三　前條第一項各號ノ集積區域ヲ超エ又ハ工事施行區域外ノ道路ニ集積セントスルトキ

四　工事着手前道路ニ集積セントスルトキ

前項第三號及第四號ノ場合ニ於テハ別ニ道路占用ノ手續ヲ爲スベシ

第十四條　前二條ノ規定ハ工事用器具、機械類ノ假置ニ付之ヲ準用ス

第十五條　橋梁及鋪装道路ニ於テハ現場石拵其ノ他路面毀損ノ虞アル作業ヲ爲スコトヲ得ズ

第十六條　工事施行中既設工作物ノ移轉、改築、撤去等ヲ要スルニ至リタルトキハ工事施行者ハ直ニ其ノ工作物ノ管理者ニ必要ナル處置ヲ求ムベシ

第十七條　掘坑跡ノ埋戻ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ施行スベシ

一　埋戻工事ノ締固ハ輾壓機又ハ木蛸ヲ以テ入念ニ締固ムルコト

二　掘坑内ノ溜水ハ之ヲ排除シ下層土ヨリ十五糎毎ニ順次埋戻締固メ在來路面ト同高ナラシムルコト

三　割栗石、大玉石等ノ基層ヲ有スル道路ノ埋戻ニ付テハ豫メ係員ノ指示ヲ受クルコト

四　泥質湧水其ノ他ニ因リ逐層締固ヲ困難トスル箇所ニ於テハ少クトモ上層厚サ一米ハ濕潤ナラザル良土ヲ用ヒ締固ヲ確實ニ行ヒ又ハ割栗石、大玉石等ノ基層ヲ設クル等路面ノ沈下ヲ防止スル設備ヲ爲スコト

五　埋戻ノ土砂ニハ木片塵芥其ノ他腐蝕ノ虞アルモノヲ混入セザルコト

六　砂利道ニ於ケル小掘鑿ノ埋戻ハ前各號ニ依ルノ外上層ニ厚サ約十糎ノ衣土ヲ覆ヒ更ニ締固ヲ爲シ徑二十粍以下九粍以上ノ飾砂利厚サ六糎ヲ敷均シ締固ムルコト

第十八條　埋戻ニ際シテハ木柱類又ハ土留工材ハ完全ニ撤去スベシ但シ已ムヲ得ザル場合又ハ支障ナシト認メラル、場合ハ道路管理者ノ許可ヲ受ケ埋殺スルコトヲ得

第十九條　橋梁部其ノ他道路工作物ノ復舊ニ付テハ鋪装復舊ヲ除キ豫メ係員ノ立會ヲ求メ其ノ指示ヲ受ケ施行スベシ

第二十條　工事終了シタルトキハ直ニ土砂、材料、器具、機械類ヲ取片付ケ路面ヲ清掃スベシ

第二十一條　工事竣功届ハ第五號樣式ニ依ルベシ

第二十二條　道路管理者ニ於テ必要アリト認ムルトキハ工事ノ施行若ハ工事材料其ノ他ニ付係員ヲシテ檢査ヲ爲サシムルコトアルベシ

第二十三條　工事ニ基因シ道路ヲ毀損シタルトキハ工事施行者ハ直ニ係員ニ屆出デ其ノ假復舊ヲ爲シ道路管理者ノ指示ヲ受クベシ

第二十四條　前各號ノ規定ニ拘ラズ道路管理者必要ト認ムルトキハ別段ノ指示若ハ取扱ヲ爲スコトアルベシ

附則

本則ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式　　日本標準規格B4

年　月　日　　施行者名印

名古屋市長　殿

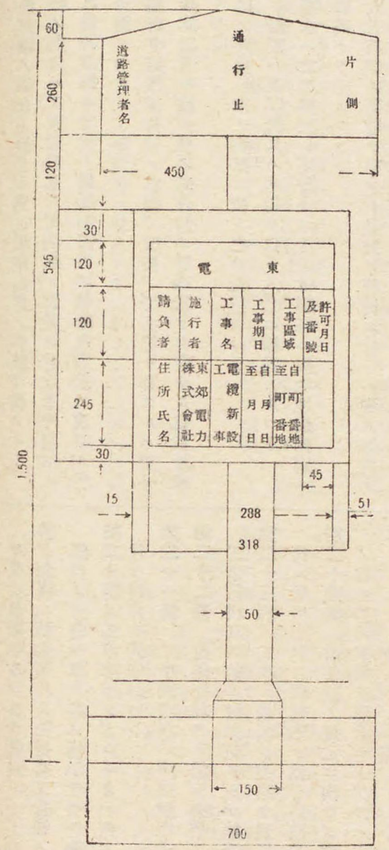
工事着手屆

※照會又ハ願出年月日	年　月　日	※照會又ハ願出番號	
※許可又ハ承認年月日	年　月　日	指令番號	豫定着手工期竣工　年　月　日
工事名		構造種類	
工事箇所		地先目標	

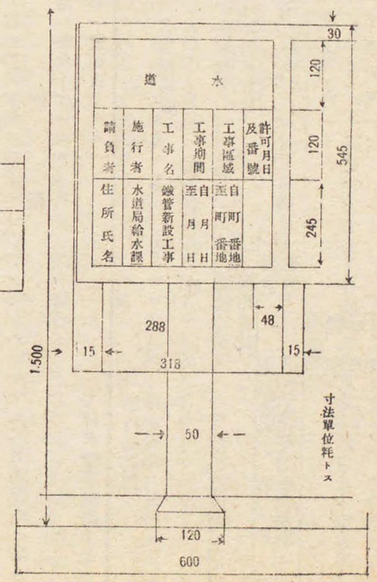
歩車道別	掘鑿豫定 道路種別	長	巾	面積	掘鑿理由
道					
道		※	※	※	
道					

備考
一　本書ハ三通ヲ作製シ關係土木管區事務所ニ提出ノコト
二　占用願ノ提出ヲ爲サズシテ工事ニ着手セントスル者ニ限リ餘白ニ工事個所ヲ記載セル圖面（縮尺適宜）ノ記載ヲ爲スコト
此ノ場合ニ於テハ※印欄ノ記入ヲ要セズ

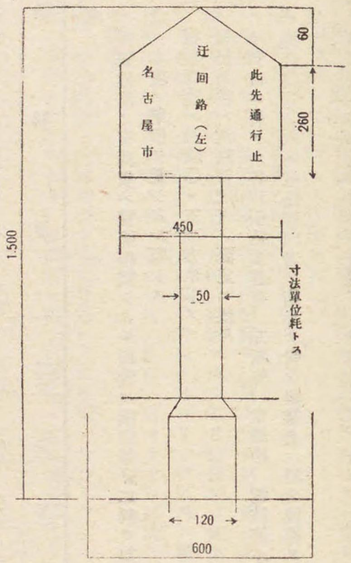
第三號樣式



第二號樣式



第四號樣式



第五號樣式

日本標準規格B4

名古屋市長　殿　　施行者　名　印

工事竣工届

※照會又ハ願出年月日	年　月　日	※照會又ハ願出番號	
※許可又ハ承認年月日	年　月　日	※指令番號	
工事名		構造物種類	實施着手工期竣功	年月日　年月日
工事箇所	自　區　町　丁目　番地　至		
歩車道別	道路種類	掘鑿豫定	長	巾	面積	出來形	長	巾	面積

備考
一　本書ハ三通作製シ關係土木管區事務所ニ提出スルコト
二　施行者官公署ノ外ハ住所ヲ明記スルコト

摘要	會立							
	昭和　年　月　日			所屬職名氏名印	道	道	道	道
								※
								※
								※
								※
								※
								※

●掘鑿道路復舊費單價表

昭和十五年三月三十日
告示第九十七號

鋪裝種別 ＼ 面積	一平方米以下	一〇〇超過五〇〇以下	五〇〇超過一〇〇〇以下	一〇〇〇超過五〇〇〇以下	五〇〇〇超過
シートアスファルト	円 一四五〇	円 一三〇〇	円 一〇五〇	円 九八〇	円 九五〇
トペカ式アスファルトコンクリート	一三〇〇	一〇五〇	九〇〇	八四〇	八〇〇
瀝青乳劑	一一〇〇	八五〇	七〇〇	六三〇	六〇〇
簡易トペカ式瀝青コンクリート	一〇〇〇	七五〇	六〇〇	五四〇	五〇〇

乳剤表面處理	七〇〇	四七五	三四五	二八〇	二五五
アスファルトブロック	八八〇	七九〇	七三〇	七〇〇	六九〇
膠石	二三〇〇	九八〇	八五〇	七八〇	七六〇
小鋪石	一〇五〇	九六〇	九〇〇	八七〇	八六〇
碎石コンクリート	九〇〇	六九〇	五六〇	五〇〇	四八〇
コンクリート	七四〇	五〇〇	三六五	二九五	二七〇
準歩道コンクリート	四四〇	三四五	二九〇	二五五	二五〇
コンクリートブロック小	五九〇	四九五	四四〇	四一〇	四〇〇
コンクリートブロック大	五一〇	四一五	三五五	三二五	三二〇
砂利道		二三〇	一〇〇	九〇	八〇

備考

一　掘鑿道路ノ復舊費ハ實際掘鑿シタル面積ニ損傷部分二割ヲ加算シ之ニ本表ノ單價ヲ乘ジタル額トス

二　復舊面積ハ最低〇・五平方米トス

三　掘鑿面積ハ道路管理者ノ認定ニ依ル

四　砂利道ニ於ケル各戸引込水道管、瓦斯管、電線路、電柱等小掘鑿ノ場合當分ノ内ハ道路管理者ノ指示ヲ受ケ起業者ニ於テ復舊スルモノトス

五　本單價ハ將來更ニ材料勞力費等ニ變動アリタル場合ハ改正スルモノトス

参考

一　掘鑿道路復舊費單價表第四號ノ小掘鑿ト稱スルハ第四號例示ノモノ及道路幅員參分ノ一以下ノ横斷掘鑿ニシテ其ノ延長五米以下ノモノヲ謂フ但シ道路幅員參米以下ノ横斷掘鑿面積壹平方米以下ノモノハ小掘鑿ト看做ス

二　復舊面積ハ小數點以下第二位ヲ四捨五入シ第一位ニ止ム

●新堀川運河使用條例

大正十年六月二十九日　條例第五號

第一條　新堀川運河ノ使用ニ關シテハ本條例ノ規定ニ依ル

第二條　運河ノ通航料ハ當分ノ内之ヲ徴收セス

第三條　水面護岸物揚場以外ノ運河用地ノ使用ハ使用料ヲ徴收シ市長之ヲ許可ス

使用料ハ一月一坪金五錢以上壹圓以下ノ範圍内ニ於テ市長之ヲ定ム

公益ト認ムル事業ノ爲メ使用スルモノニ在リテハ使用料ヲ徴收セサルコトアルヘシ

使用期間ハ許可ノ日ヨリ二十年以内トス

第四條　市ニ於テ運河及運河用地ヲ通航若クハ使用スル場合ハ通航料及使用料ヲ徴收セス

第五條　使用料ハ左ノ計算ニ依ル

一、使用期間年ヲ以テ計算スヘキモノハ會計年度ニ依リ年額ヲ定ム但シ年額ニ依リ難キモノハ月割トス

二、使用期間月ヲ以テ計算スヘキモノハ始月終月ヲ問ハス總テ全月額トス

三、使用期間一月未滿ノ場合ニ於テハ十五日以内ナルトキハ半月分十五日ヲ超ユルトキハ一月分トス

第六條　使用料ノ徴收期ハ左ノ通リトス

一、年額ノモノハ會計年度ニ依リ一年度ヲ二期ニ分チ其ノ第一期分ヲ四月中ニ其ノ第二期分ヲ十月中ニ徴收ス但シ五月以後新ニ使用ヲ許可シタルモノハ當初ノ一期分ニ限リ許可ノ日ヨリ十日以内ニ徴收ス

二、月又ハ日ヲ以テ定メタルモノハ其ノ許可ノ日ヨリ十日以内ニ全額ヲ徴收ス

第七條　使用料額ハ使用期間中滿三年毎ニ之ヲ更新スルコトアルヘシ但シ此ノ場合ニ於テハ市長ハ使用者ニ對シ二月前ニ之ヲ通告スルモノトス

第八條　第十二條ノ規定ニ依リ使用ノ許可ヲ取消シタル場合ハ其ノ原狀回復ノ屆出テアリタル日ヨリ月又ハ日割ヲ以テ使用料ヲ免除ス

第九條　第十三條ノ規定ニ依リ使用ノ許可ヲ取消シタル場合ハ既納ノ料金ハ之ヲ還附セス

第十條　使用者ニ於テ護岸其ノ他ノ工作物ヲ毀損シ又ハ滅失セシメタル場合ハ原因ノ如何ヲ問ハス使用者ハ當該吏員ノ指揮ニ從ヒ自己ノ計算ヲ以テ之カ復舊ヲ爲スヘシ

第十一條　使用者ニ於テ護岸其ノ他ノ工作物ノ改築及修繕ヲ爲ス必要アルトキハ之ニ要スル費用ハ使用者ノ負擔トス

第十二條　本市ノ使用ニ供シ又ハ公共ノ用ニ供スル必要アルトキハ許可ヲ取消シ期限ヲ指定シテ之ヲ返還セシムルコトアルヘシ但シ此ノ場合ニ於テ損害ヲ生スルコトアルモ市ハ其ノ責ニ任セス

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

一、本條例ノ施行細則又ハ之ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキ

二、使用料ヲ滯納シタルトキ

三、使用地内ニ在ル築造物ノ所有權ヲ喪失シタルトキ

第十四條　使用者ハ其ノ代理人又ハ使用人カ本條例及施行細則又ハ之ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ責任ヲ免ルルコトヲ得ス

附則

第十五條　本條例ノ施行細則ハ市長之ヲ定ム

第十六條　本條例施行前爲シタル處分及之ニ附シタル條件ハ本條例及施行細則ニ牴觸セサル限リ本條例ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス

第十七條　明治四十四年一月條例第一號新堀川河岸地使用料條例ハ之ヲ廢止ス

●新堀川運河使用條例施行細則

大正十年六月二十九日　告示第六十六號

第一條　新堀川運河使用條例第三條ニ依リ運河用地ヲ使用セムトスル者ハ使用ノ位置、目的、坪數ヲ記載シ圖面ヲ添ヘ保證人連署ヲ以テ願書ヲ市長ニ提出スヘシ

使用者期間滿了一月前繼續使用ノ出願ヲ爲スコトヲ得

第二條　使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ標杭ヲ樹テ之ニ間數及住所氏名ヲ明記シ其ノ使用區域ヲ標示スヘシ但シ使用期間一月未滿ノモノハ此ノ限リニ在ラス

使用ノ許可ヲ受ケタル者ハ特ニ指定セラレタル場合ヲ除キ許可ノ日ヨリ一年内ニ使用ニ必要ナル設備ヲ完成スヘシ

第三條　工作物ノ新築改築及增築ヲ爲サムトスルトキハ工事仕樣明細書ニ圖面ヲ添ヘ保證人連署ノ上市長ノ許可ヲ受クヘシ使用ノ爲護岸又ハ地盤ニ工事ヲ施サムトスルトキ亦同シ

前項ノ工事竣成シタルトキハ之ヲ屆出テ檢査ヲ受クヘシ

第一項ノ工事ハ第一條ノ願書ニ併記シテ出願スルコトヲ得

第四條　使用地ハ他人ニ之ヲ轉貸スルコトヲ得ス但シ使用者ニ於テ築造シタル工作物其ノ他ノ物件ヲ貸與セムトスルトキハ其ノ借受人連署ノ上市長ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　使用期間内ニ其ノ使用地ヲ返還シ又ハ使用ノ目的ヲ變更セムトスルトキハ保證人連署ノ上市長ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ保證人連署ノ上十日以内ニ市長ニ之ヲ屆出ツヘシ

一、家督又ハ遺產相續ヲ爲シタルトキ

二、改氏名及轉居ヲ爲シタルトキ

第七條　使用者本市ニ住居ヲ有セサルトキハ其ノ使用ニ關スル一切ノ行爲ヲ代理スヘキ代理人ヲ定メ市長ニ屆出ツヘシ

代理人ハ本市ニ住所ヲ有スル能力者タルコトヲ要ス

第八條　保證人ハ本市ニ住所ヲ有スル能力者ニシテ土地又ハ家屋ヲ有スル者ニ限ル

保證人ハ使用者ノ義務不履行ノ場合ニ於テ之ニ代リ其ノ義務履行ノ責ニ任スヘキモノトス

第九條　保證人ヲ變更セムトスルトキハ市長ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　保證人ハ市長ノ見込ヲ以テ之ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第十一條　保證人左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ使用者ハ更ニ保證人ヲ選定シ其ノ事實ノ生シタル日ヨリ二十日以内ニ市長ノ許可ヲ受クヘシ

一、第八條第一項ノ要件ヲ缺キタルトキ

二、失踪ノ宣告アリタルトキ

三、死亡シタルトキ

第十二條　使用者ハ使用期間滿了シタルトキ又ハ許可ノ取消アリタルトキハ指定期間内ニ原狀回復ヲ爲シ直ニ其ノ旨屆出ツヘシ

附　則

第十三條　本細則ハ新堀川運河使用條例施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●中川運河使用條例

昭和五年十月二十五日　條例第十二號

第一條　中川運河及其ノ附屬設備ノ使用ニ關シテハ本條例ノ定ムル所ニ依ル

第二條　本條例ニ於テ運河ト稱スルハ水路、護岸、閘門及其ノ附屬施設物ヲ謂フ

第三條　本條例ニ於テ附屬設備ト稱スルハ運河區域内ニ於ケル物揚場、倉庫敷地、上屋敷地、上屋、道路、起重機及曳船ヲ謂フ

第四條　運河及其ノ附屬設備ヲ使用セムトスル者ハ市長ノ許可ヲ受ケ左ノ範圍内ニ於テ市長ノ定ムル使用料ヲ納付スヘシ

一、閘門通航料

船舶一入河ニ付噸數ニ依ルモノハ一噸迄毎ニ金五錢以内、石數ニ依ルモノハ十石毎ニ金八錢以内、間數ニ依ルモノハ一間ニ付金八錢以内

二、物揚場使用料

一坪迄毎ニ一箇月ニ付市長ノ認定スル其ノ土地ノ時價ノ千分ノ五以内

三、倉庫敷地及上屋敷地使用料

一坪迄毎ニ一箇月ニ付市長ノ認定スル其ノ土地ノ時價ノ千分ノ五以内

四、上屋使用料

一坪迄毎ニ二日迄ハ一日ニ付金十錢以内、二日ヲ超ユルトキハ超過日數一日ニ付金十五錢以内

五、道路使用料

道路占用規程ニ定ムル占用料ニ相當スル金額

六、起重機使用料

イ、浮艇式起重機　一臺一時間迄毎ニ金十圓以内但シ別ニ移動費トシテ距離ニ應シ金七圓以内ヲ徵收スルコトヲ得

ロ、陸上式起重機　一臺一時間迄毎ニ金三圓以内

七、曳船使用料

區間ヲ設ケ船舶一隻毎ニ全區間ヲ通シテ金四圓以内但シ所定時間外ハ各料金ノ五割以内ヲ增加ス荒天時ニ於ケル料金亦同シ

八、水面使用料

入河後五日ヲ超ユルトキハ超過日數一日毎ニ船舶一隻ニ付金五十錢以内

公用又ハ公共用ノ爲使用スル場合若ハ特別ノ事由アリト認ムル場合ニ於テハ市長ハ前項ノ使用料ヲ減免スルコトヲ得但シ國ニ於テ運河及其ノ附屬設備ヲ使用スル場合ハ通航料及使用料ハ之ヲ徵收セス

第五條　倉庫敷地、上屋敷地及物揚場ノ使用ニ付競願者アルトキハ市長ハ適當ト認ムル方法ニ依リ使用者ヲ定ムルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル使用料ニ付テハ前條第一項第二號及第三號ニ規定スル範圍内ヲ超ユルコトヲ妨ケス

第六條　既納ノ使用料ハ之ヲ還付セス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ還付スルコトアルヘシ

一、不可抗力ニ依リ使用シ能ハサルトキ

二、第八條第一項ニ依リ使用場所ヲ變更シ使用ヲ停止シ又ハ使用ノ許可ヲ取消シタルトキ

第七條　倉庫敷地、上屋敷地及物揚場ノ使用許可期間ハ三十年以内トス但シ市長ハ三十年ヲ超エサル期間ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得

使用料ハ使用期間中ト雖三年ヲ經ル毎ニ市長ニ於テ之ヲ變更スルコトアルヘシ

上屋使用ノ許可期間ハ五日ヲ超ユルコトヲ得ス

第八條　公益又ハ危險豫防上其ノ他市長ニ於テ必要ト認ムルトキハ使用